
スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『トリニティ・ペルソナシティ編』

竜斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『トリニティ・ペルソナシティ編』

【Nコード】

N3964W

【作者名】

竜斗

【あらすじ】

ギャグとシリアスが入った逃走中。舞台はトリニティ・ペルソナシティ。

マスターにペルソナ能力を得て、
沢山増えた逃走者たちが、
700分間の逃走中の幕をあげる！！

はじめに読んで下さい

どうも、竜斗です。

この逃走中は第二弾ですが、途中でその設定は中止という事に直しました。

ですが、リクエストはこの逃走中に受け継ぎました。

どうか、ご了承下さい。

(スマブラ系が一部リストラされています。)

マリオ「俺は!?!」(出れない)

ルイージ「また出れて良かった」(出てる)

クッパ「スマブラ系が減ったのか・・・」(出てる)

マルス「肉好きの人はいなくなったみたいだね」(出てる)

アイク「マルス酷い!」(出れない)

ピカチュウ「ぷよぷよキャラが減茶苦茶増えるピカ」(出てる)

逃走者紹介（前書き）

作者さんの紹介はここには乗ってません。

（次回で乗ります。）

逃走者、紹介！

逃走者紹介

スマブラ(32)

ルイージ

緑の人気者。

双子の弟。兄より背が高く、痩せ型。兄に比べて地味で損な役割を与えられることが多い。マリオとは競ったりもするが兄弟仲は良い。

「永遠の二番手」、「脇役」、「サブキャラ」、

「緑のヒゲ」などと呼ばれているが『ルイージマンション』では主役を務めている。

作者はルイージファン。

マリオより若干足が速い。

クッパ

マリオの宿敵。

カメ一族の大魔王。同時にライバルでもあり、協力したり仲良くスポーツなどをやったりしたこともある。

赤ちゃん時代からライバル関係だったらしい。

作者はクッパファン。

足はマリオと同じくらい速い。

ドクター

医者。

ビンの中に繁殖したウイルスを、カプセルを使って退治している。足はマリオと同じくらい速い。

ドンキー

ジャングルの王者。
ヒーローらしく気は優しく力持ち。
マリオとの関係が向上している。
ドンキーコングJrは初代の息子。
足は体がでかいわりに速い。

デイディー

非常に身軽で動きはドンキーよりも俊敏。また、自在に操れる長い尾を持ち、自身の体重程度の重さなら楽に支えられる。年齢は人間でいう10代中盤位。
ドンキーの子分。
足はかなり速い。

ヨッシー

マリオの冒険のパートナーで親友。性別はない。
マリオが赤ん坊の頃からの知り合いで、マリオとルイージを親の元へ届けたことがある。基本色は緑だが、他の色のヨッシーも存在する。
ヨースター島に様々な色のヨッシーがいる。
足はかなり速い。

リンク

緑の衣を身につけたゼルダシリーズの主人公、神に選ばれし少年（勇者）である。「勇気のトライフォース」の所持者、またはそれに選ばれる運命にあるハイリア人。足は普通。

トウーン

プロロ島出身の少年。妹アリルと祖母の3人で平和に暮らしていたが、ある日アリルが怪鳥ジークロックによって攫われたため、妹を助け出す旅に出る。足はかなり速い。

子リンク

リンクの幼少期。コキリの森に住むコキリ族の中でパートナーとなる妖精が来ず、仲間にそれをからかわれながらも平穏な日々を過ごしていたが、妖精ナビィと出会い、森の長であるデクの樹の死をきっかけに森を出て冒険に出る。足は速い。

ピット

パルテナの親衛隊長。キトンを着て、背中から白い翼が生えた少年の姿をしている。年齢は人間換算で13歳ほど。年齢相応のやんちゃで自信家な性格となっている。また、パルテナへは忠実な一方で、彼女が時折見せるいい加減な面には着いて行けず、頭を抱えている様子も垣間見せる。足は若干遅い。

ポポ

アイスクライマーの片方。男。
頭身が低めのファンシーな姿。
野菜の一つであるナスが好物。
足は若干遅い。

ナナ

アイスクライマーのもう片方。女。
ポポと同じく頭身が低めのファンシーな姿。
野菜の一つであるナスが好物。
足はポポより少し速い。

ロボット

ロボット単体の型番はHVC-012。
腕は常に前方に突き出した形で、胸部と連動している。
可能な動作は胸部の垂直移動（6段階）・水平回転（5段階）、
腕の開閉。これによりブロックやコマを操るといった動作をする。
単3型乾電池4本使用。
足は若干速い。

カービィ

ポップスターにあるププブランドの住人。まん丸の胴体に短い手足、
胴体と手はピンクで足は赤い。好きなことは食べる事、寝ること、
歌うことだが、歌は音痴であり、「殺人的」なレベルであるが、
カービィ自身はまるで自覚が無い。

足は速い。

メタナイト

カービイのライバル？

性格は基本的に頑固で冷徹。何事においても

自身の信念や正義に忠実であり、

目的の為なら大胆不敵な行動にも迷わず出る程の純粹さを持つ。

足はかなり速い。

フォックス

スターフォックスのリーダー。

義感が強く非常に真面目で仲間思いであり曲がった事が嫌い
といった典型的なタイプである。少々融通が利かないという

短所も持ち合わせているため、それが災いして時折仲間と衝突する
事もあるようだ。

足はかなり速い。

ファルコ

スターフォックスのエースパイロット。

ぶっきらぼうな言動でクールな印象を与えているが、

実際は誰よりも仲間思いな熱血漢であり、

口には出さないものの逃走者達をを家族と思っているようだ。
足は遅い。

ウルフ

スターウルフのリーダー。
根っからの悪党で他人から疎まれる存在ではあるものの、
潔い性格で度量の広い親分肌であり、その男気溢れる生き方に惚れ
込み、
彼に賛同した者は少なくない。
作者はウルフ好き。
足は少し遅い。

ピカチュウ

ポケモン界のスター。
基本的に他のポケモンを気遣うなど優しい性格。面倒見も良く、
ポケモンだけで行動する際はまとめ役となる機会が多い。
他のポケモンから好かれることも多く、トサキント、イーブイ、ミ
ミロルが
ピカチュウのことを好きになっている。
足はかなり速い。

9

ゼニガメ

レッドの手持ち。
カメのような姿をしたポケモン。
頭が大きくデイフォルム調で描かれた体躯をしている。
体は青色で、茶色の甲羅を背負う。
足は速い。

フシギソウ

レッドの手持ち。

時おり後ろ足で立ち上がることがあるが、フシギソウは背中が重くなったために常に四つん這いである。足は普通。

リザードン

レッドの手持ち。

橙色のドラゴンのような姿をしており、竜と同様の頭部を持つ。頭部の角は2本、3本の指を持つ1組の腕と、同じく3本の指を持つ1組の足を持ち、長い尻尾を引き摺る。足は遅い。

ルカリオ

波動の勇者。

獣人のような姿をしたポケモンで、犬科に似た頭部を持ち、体形はほぼ人間に近い。足は若干遅い。

プリン

ふうせんポケモン。

丸い形で、目が大きい。その大きな目で誘い込み、相手に歌を聞かせて眠らせる。色は全身ピンクで、目は青い。可愛らしい容貌から、女性人気が高い。足は遅い。

ピチュー

ピカチュウの進化前。

大人でも痺れさせる程の電気力を持っているが、
自分も痺れてしまうのが欠点。
足はピカチュウより速い。

ミュウツー

遺伝子ポケモン。

人工のポケモンの一種だが、電子工学を駆使して作られた
ポリゴンとは異なり、遺伝子工学によりミュウの遺伝子を
ベースとして、様々なポケモンのデータを加えて作り出した
遺伝子組み換えポケモンで真正銘の生体である。
足は結構遅い。

マルス

アリティア王国の王子。
温和で優しい性格の持ち主である。
服装は中世ヨーロッパ風。
足は結構速い。

ロイ

エリウツドの息子でフェレ家の公子。
突如他国への侵攻を開始したベルンに対抗するため、
病気の父に代わりフェレ騎士団を率いて出陣する。
リキアの盟主であったオスティア侯へクトルの戦死に伴い
リキア同盟軍の将となり、エトルリアのクーデターを鎮圧した後は
エトルリア軍を率いてベルンに立ち向かう。

足は結構速い。

ネス

イーグルランドにある小さな町、オネットに住む12歳の少年。

一見ごく普通の少年だが、超能力を持っている。

おそらく幼いころから超能力を持っていたと考えられる。

足は結構速い。

リユカ

とても泣き虫で引込思案かつ甘えん坊な性格だったが、

そんな彼の目の前で母ヒナワがメカキマイラに改造された

ドラゴに殺され、その翌日に敵討ちに行った双子の兄

クラウドが行方不明になるという悲劇が襲い掛かる。

足は結構速い。

ウォッチ

任天堂の最古のゲームキャラクターの一人。

ゲーム&ウォッチの作品で主に操作キャラクターとして登場した。

ゲーム&ウォッチが電子ゲームであったため真っ黒なシルエットのような姿。

また、顔については目が確認できるものと確認できないもの大きく2種類に分けられる。

足は速い。

スネーク

いかなる状況下においても任務をこなす、隠密潜入のエキスパート。1972年、伝説的兵士ビッグ・ボスをクローン技術で再現する「恐るべき子供達計画」によって誕生。日英混血とされており、クローン作成の核移植のために日本人女性の卵子が使われている。足は結構遅い。

ぷよぷよ20th(21)

アルル・ナジャ

魔導師の卵の女の子。天真爛漫、明朗活発、とにかく元気で、明るくさばさばした性格。

純粹無垢だったりシビアで戦闘慣れしていたりする。

遺跡探索が趣味。

足は速い。

シエゾ・ウイグイイ

古代魔導アレイアードと闇の剣を持つ闇の魔導師で、

他の魔導師の魔力を吸収することによって魔力を高めている。

「おまえの魔力が欲しい」を「おまえが欲しい」と

言い間違えるなど、その言動のためにアルルからは変態扱いされている。

足はかなり速い。

ルル

旧シリーズでもおなじみの格闘女王。サタンの后になりたいあまり、恋敵のアルルに敵意を燃やす。アコール先生のシナリオでは、

彼女に頼まれてそのうちプリンプ魔導学校の生徒に格闘の特別授業をすることになっている。足はかなり速い。

ウィッチ

旧シリーズでもおなじみの魔女。プライドが高く、自分に正直な性格。ぶよ勝負を繰り返すうちに飛ばされてしまったらしく、

魔法薬の販売で生計を立ててはいるが、なかなかうまくいっていない様子。

一人前の魔女になる為に日々修行をしており、いつも祖母に語りかけている。足は速い。

ドラコケンタウロス

旧シリーズでもおなじみの半竜半人の女の子。愛称は「ドラコ」。美少女コンテストに情熱を燃やしており、アルル（ダークアルル）に美少女コンテストがあるとだまされてネス湖に来ている（ウィッチ、ハーピーも同様にネス湖に訪れている）。角の生えたりデルに「お姉様」と呼ばれ、慕われていた。足はかなり速い。

サタン

自称・魔界のプリンス。

膨大な魔力をどうでもいい事に無駄使いする諸迷惑の根源。何故か冗談交じりで、カーバンクルをこよなく愛し、アルルに求婚しつづけます。

足は速い。

カーバンクル

アルルの肩にすることが多い、

ウサギの耳のようなふたつの突起がある黄色い生き物。

愛称はカーくん。

カービイのライバル。（理由 体系的に）

足は遅い。

アミティ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。

「赤ぶよ帽」を愛用しており、本人曰く、

自分はこの子と運命を共にしているとのこと。

因みにばたんきゅーした際、赤ぶよ帽と彼女の表情が一緒になる。

足は速い。

ラフィーナ

良家のお嬢様で誰に対しても

高飛車かつ高圧的な唯我独尊系少女。

クルークとは犬猿の仲である。

宝石やご褒美が好きな守銭奴という印象がある。

足はかなり速い。

シゲ

虫を愛好する非常にマイペースな少年。

常にボーっとしており、いわゆる天然ボケ。

でも、大好きな虫がからむとホンキ。
オッドアイで赤い左目と赤い異形の左手を持つが、
そのことも大して気に留めていない様子。
足はかなり遅い。

クルーク

成績優秀なアミティの同級生。

他の生徒を見下している自意識過剰でイヤミな性格。

レムレスに憧れているが、アブナイ魔法に

魅入られているという噂がある。

ラフィーナやフェーリとは犬猿の仲。

足は遅い。

リデル

頭のツノを気にしている亜人間の女の子。

極度の恥ずかしがりやで、普段は髪を巻いてツノを隠している。

自分と同じように角の生えた仲間を探しており、角の生えている

サタンの事を「お兄様」と呼びたがっている。

足は遅い。

レムレス

プリンプタウンの隣町の学校に通う生徒で、

フェーリの先輩にあたる。

甘いもの、特にパフェが大好きで、

よくお菓子を振る舞う人当たりのいい人物だが、

誘拐犯のような言動が多く、胡散臭く見られがち。

足は速い。

フェーリ

プリンプタウンの隣町の学校に通う生徒。

占いやまじない、黒魔術が趣味で、

自分の世界にどっぷりと漬かり込んでいるダークな少女。

チドリとは犬猿の仲。（理由　チドリの生き返らす力がうつつうしいから）

足は遅い。

アコール先生

アミティ達の通うプリンプ魔導学校の女性教師。

アミティのクラスの担任だが、彼女以外の教師については

現在のところ不明。おっとりした性格だが、

生徒をハンマーで殴って記憶を消したことがある。

足は遅い。

ユウちゃん

幽霊の女の子であり、白いフードを被っていて足は無い。

幽霊なのに明るく、オヤジギャグやクイズが大好き。

レイくんの双子の姉であり、漫才のボケ役担当。二人の名前を合わせるに「幽霊」となる。

生前はレイくんと性格が反対で暗かったらしいが、

本人は生前のことは何も覚えていない（レイくんは昔のことを覚えている節が見られる）。

足は（足がないため）遅い。

レイくん

幽霊の男の子であり、ユウちゃんの双子の弟。姉のユウちゃんと違い非常に無口で、

漫才のツッコミ役担当。生前はユウちゃんと性格が反対で明るかった様子。

2人の生前はあくまが「知らぬが仏」と称していることから、よほど不幸な事故に遭ったのだと思われる。

足は（足がないため）遅い。

あんどろりんご

すずらん商店街に住む女子中学生。

自分にできないことや理解できない事があると対抗意識が出る。

人名を覚えるのは苦手。人前では言えないような夢を抱いているらしい。

視力は5・0と極めて高く、昼間でもアンドロメダ星雲を確認できるほど。

足は遅い。

ささきまぐろ

すずらん商店街に住んでいるオサレでマイペースな男子中学生。

首からけん玉を下げている。実家は魚屋。長男であるため、

作中には登場しないが弟か妹がいると推測される。

足は遅い。

りすくませんぱい

文字通りリスとクマを足して2で割ったような風貌の人物で、

中学生とは思えない雰囲気を持ち主。りんごとまぐろの先輩にあた

り、
二人からは「リスせんぱい」と呼ばれている。
3ヶ月前に実験の失敗で化学部の部室を破壊。現在は物理部の一部を間借りしている。
彼の風貌はアミティ達から「見たことのない生き物」と評されるように
普通の人間ではないが、なぜこのような姿なのかは一度も説明されていないため不明。
足は結構速い。

エココ

実体を持たない存在で、
時間や空間をさまよって旅をしている自称”旅人”。
生まれてからの記憶をほとんど失っているらしく、
サタンの悪趣味なお城付近で出会った
りんごを見てもあまり興味を示さなかった。
足は遅い。

銀魂（9）

坂田銀時

「万事屋銀ちゃん」という何でも屋を営んでいる侍。
普段は死んだ魚のような気の抜けた目をしている向上心ゼロの怠け者だが、
やる時はやる男。かつては攘夷戦争に参加し、
「白夜叉」の異名を取る伝説的な活躍をした。「かコノヤロー」が口癖。

足は結構速い。

志村新八

侍魂を学ぼうと銀時の元で働く、眼鏡をかけた一見気弱そうで地味な少年。

基本的に純粹で優しく、誠実な心の持ち主だが、万事屋の他の二人と一緒に悪ノリをする事もある。

万事屋の面々の中では一番常識人なので依頼人の交渉にあたる事も多い。

普段は礼儀正しい少年であるが、ツツコミに関しては容赦がない。足は遅い。

神楽

宇宙最強を誇る絶滅寸前の戦闘種族・夜兎族の生き残り。

可愛い容姿とは裏腹に言動の悪さが目立ち、

長谷川から「激辛チャイナ娘」と呼ばれたこともある。

自己中心的で型破りな性格であるが、

定春を含む可愛い動物の面倒を見ることを好む。

足は速い。

桂小太郎

「狂乱の貴公子」「攘夷志士の暁」「逃げの小太郎」の異名を持つ、幕府から指名手配されている攘夷志士で革命家。

整った顔立ちに涼やかな表情、黒い長髪が特徴の美青年。

攘夷志士の生き残りで、銀時や高杉とは吉田松陽の元で学んでいた幼なじみであり、

攘夷戦争時代の盟友。その姓から銀時・高杉・坂本といった昔馴染みの面々から

「ツラ」のあだ名で呼ばれ、どんな状況であれ「ツラじゃない桂だ」と

返すのが定番の形である。

足は速い。

猿飛あやめ

元お庭番衆のくノ一で、現在は悪党を裁く始末屋として働いている。通称さつちゃん。

忍者としての素質は十分で始末屋としても一級の実力がある。

元々視力が弱く、伊賀製の特別な忍眼鏡をかけているのだが

それが無いと何もかもが見えなくなってしまう上に聴力まで悪くなり、

自身で気付かぬ内にとんでもないボケを繰り返す。

足はかなり速い。

長谷川泰三

かつては幕府の入国管理局局長だったが、

警護対象者のハタ皇子を殴るといふ不祥事を起こしクビにされた上、妻のハツにも逃げられ、自身は切腹を命じられたが怖気づいて逃亡。その後も様々な職を転々とするが、トラブルなどが原因で悉くクビになっている。

今や住む家さえなく、路上生活をしている。「まるでダメなオッサ

ん」略して
「マダオ」と呼ばれている。
足はかなり速い。

近藤勲

隊士たちから多大の信望を集める真選組局長。

「人のいい所を見つけるのは得意だが、悪い所を見つけるのは苦手」と

沖田総悟に言われるほどにお人好しな好漢。伊東からは「清廉」、または「無垢」と称された事のある人間味の溢れる好人物で、隊員達の信頼を一身に受けている。

ドンキーコングのライバル。（理由 どちらが力強いかが競い合っているから）

足は遅い。

土方十四郎

クールで熱い真選組の副長。「鬼の副長」と呼ばれ恐れられる真選組のナンバー2。近藤からは「トシ」と親しみを込めて呼ばれている。

勘が鋭く頭も切れるため「真選組の頭脳」としても認められ、近藤とは対照的にスパルタな言動で隊を引っ張り、全部で45条にもなる

（後に近藤が1つ足して46条になった）局中法度をたった1人で定めた。

足は速い。

沖田総悟

副長の座（土方の命）を狙う真選組一番隊隊長。

語尾に「〜でさア」「〜ですぜイ」「〜なんでイ」と付けてかったるく喋る江戸っ子口調が特徴。落語をよく聞いている。マルスのライバル。（理由 顔も似ているしイケメンだから）足は速い。

ペルソナ3（10）

有里湊

月光館学園に転入してきた高校2年生の少年。

性格は冷静沈着で何事にも動じず、常に無口で無表情。

運動部の大会で好成績を残すなど、身体能力は極めて高い。

細身とは裏腹にかなりの健啖家。器用で何でもそつなくこなす。

仲間達の八つ当たり、言いがかりの標的となる事が多い。

ソニックのライバル。（理由 どっちが速いかを競い合っているから）

作者曰く、4の主人公よりもカッコいいということ。

足はめちゃくちゃ速い。

岳羽ゆかり

月光館学園高等部2年生。主人公のクラスメイトで弓道部に所属している。

同じ学生寮に入寮していた勝気な性格の少女（ゆえに短気ですぐ力

ツとなりやすい)。
幽霊が大嫌いで彼女にこの話を出すと怯む。
足は結構速い。

伊織順平

月光館学園高等部2年生。主人公とゆかりのクラスメイト。
ノリの軽いお調子者の少年（時折エロ少年）で、
転入して間もない主人公にも気さくに声をかけてきた。
有里湊と自分の実力差に苛立つなど、どこかしら達観したところの
ある
特別課外活動部のメンバーの中では精神的に脆いところが目立つが、
仲間達の為、そして自分自身の為、戦うことを決意し、人間として
大きく成長を遂げる。
足はかなり速い。

桐条美鶴

月光館学園高等部3年生。学園の出資団体である桐条グループの令
嬢。
生徒会長にして特別課外活動部の部長を務める才女で普段の生活でも
学校のスピーチでも本に書いてあるような難しい言葉を用いる。
足は速い。

真田明彦

月光館学園高等部3年生。ボクシング部の主将。

トレーニング感覚でシャドウ討伐を行っている。一見、冷静沈着な印象を与えがちだが、野心と情熱を内に秘めた少年。強気で堂々としてるが天然な一面も。足は速い。

山岸風花

月光館学園高等部2年生。
控えめで引っ込み思案な性格で、同じクラスの女子に陰湿ないじめを受けていた。理が大の苦手。その腕前は破壊的で、「料理の姿をした兵器」という評価さえもらっている。足はかなり遅い。

アイギス

桐条グループによって、シャドウ制圧を目的として製作された少女型戦闘用ロボット。
2000年2月完成、同年9月10日初起動。ロボットでありながらも自我を与えられているため、ペルソナを召喚する能力を持っているが、ロボットが故にしゃべり方が
「〜であります」という特徴的な語尾である。何故か主人公と共にいることを強く希望している。
足はめちやくちゃ速い。
サトシのライバル。（理由 ライバルも超人的だから）

コロマル

長鳴神社の神主が飼っていたアルビノの柴犬。

飼い主を事故で亡くした後は野良犬として過ごしていた。

学生寮で飼われることになる。

アイギスだけは彼の意思を具体的に理解することができる。

足はかなり速い。

天田乾

月光館学園初等部5年生。

あまり年相応の子供らしさを見せない大人びた少年。

影時間への適性があるという理由で

同じ学生寮に仮入寮している。

足は遅い。

荒垣真次郎

月光館学園高等部3年生。現在は不登校で街をうろついている。

口数は少なく一見無愛想ではあるが、本質は優しい少年。真田の幼なじみでもある。

面倒見が良く、主人公たちの兄貴的な存在でもある。

意外と涙もろいな面も。料理が得意でコロマルに特製ドックフードを作ったり、

メンバーたちにも料理を出している（その後美鶴の提案で褒め倒された）。

作者曰く、完二に似ているのこと。

足は遅い。

ポケットモンスター（16）

サトシ

マサラタウン出身。ポケモンマスターを目指して旅をする10歳の少年。

純粹とも単純とも取れる熱くなりやすい性格で、負けず嫌いで挑発に乗りやすく冷静さを失うこともあり、褒められると調子に乗るところもある。

超人的な運動神経の持ち主で、特にジャンプ力は並外れている。体もとても丈夫であり、

かなり高い所から落ちたりポケモンの攻撃を直に受けても無傷であることが多い。

また、泳ぎも巧みで素潜りもできる。しかしその並外れた体力と「根性」が

無茶な行動に拍車をかけるので、しばしば仲間から心配される。

アイギスのライバル。（理由 ライバルも超人的だから）
足は速い。

ヒカリ

フタバタウン出身。ポケモンコーディネーターである10歳の少女。基本的に活発で明るい性格。気が強く思ったこともすぐに口に出し、様々な場面で少々乱暴な行動が見られ、突っ込まれることよりも突っ込むことが多く、

好き嫌いがはっきりしており、通常のバトルにも積極的である。

足は遅い。

ポッド

サンヨウジムのジムリーダーの一人。

熱血でやや自信過剰な性格。

とにかく技で攻める攻撃的なバトルスタイルをとる。

サトシとのジム戦では先鋒を務める。

足は遅い。

デント

サンヨウジムのジムリーダーの一人。

普段の性格や口調は穏やかで物腰は柔らかく、「紳士的」と評されており、

サトシとアイリスが張り合うときなどにも双方をなだめる役割となることが多い。

しかし、たまに毒舌を放つのが玉に瑕。

足は遅い。

コーン

サンヨウジムのジムリーダーの一人。

クールでキザな性格。丁寧に話す。相手の裏をかく

トリッキーなバトルスタイルをとる。

サトシとのジム戦では次鋒（中堅）を務める。

足は速い。

マコモ

イツシユ地方のサンヨウシティの女性ポケモン研究者。

ポケモンの不思議な力について研究している。アララギ博士の友人。

かつてはポケモンエネルギー研究所で研究員をしており、

ムシャーナが夢を見て生み出す煙をエネルギーに利用するための研究をしていた。

足は速い。

タケシ

目が細いポケモンブリーダーで、サトシの親友。

両親が出て行ってしまったことで多くの弟・

妹の面倒を見てきたため、家事がとても得意。

基本的に冷静且つ温厚な性格だが、

年上の綺麗な女性を相手にした場合などに情熱的な一面を見せることもある。

足はかなり速い。

ムサシ

ロケット団に所属する女性団員で、コジロウとニヤースのパートナー。

非常に気が強く、高飛車かつわがままでナルシストな性格。プライドも高く、

「おばさん」などと言われて激怒するシーンも多々あった。性格は総じてあまり良くないとは言えるが、時折仲間を守るうとする姉御肌の一面を見せることもある。足は結構速い。

コジロウ

ロケット団に所属する男性団員で、ムサシとニヤースのパートナー。ムサシ同様ナルシストであるが、ムサシに比べるとまともな部分もあり少々ナイーブ。お人好しな性格の方が素のようである。作者はコジロウ好き。足は速い。

ニヤース

ロケット団に所属しているオスのニヤース。ムサシとコジロウのパートナー。ポケモン同士の共感から優しい人間味のある一面を見せることがある。

足はロケット団の仲で一番速い。(かなり速い)

チエレン

カノコタウン出身のポケモントレーナー。勝気だがクールな性格の少年で、新人ではあるが度々サトシに対して尊大な態度をとり、

マサラタウンをはじめカントー地方を田舎呼びわっている。
几帳面な面もあり、デジカメで初めて見るポケモンや旅の記録を写
真に残している。
足は結構遅い。

ベル

カノコタウン出身のポケモントレーナー。一人称は「私」。サトシ
やデントを「君」付ける。
性格は明るく前向きで、若干天然ポケな一面もある。
また良くも悪くもマイペースであり、他人のポケモンに勝手に指示
(それもそのポケモンが使えない技)を出そうとするなど、多少強
引な面も見せている。
足は遅い。

アイリス

ソウリュウジムリーダー。ドラゴンタイプの使い手。
褐色の肌と特徴的な大きな髪型を持つ少女。
ドラゴンタイプのポケモンと共生している一族の子供であり、
シャガに能力を見込まれてソウリュウシティに留学している。
足は速い。

カミツレ

ライモンジムリーダー。でんきタイプポケモンの使い手。
本職はテレビにも出演している著名なモデルで、

女性としては長身で華奢な体型の金髪の美女。ヘッドホンをかけ、黄色を基調とした独特のファッションをしている。クールな性格だが意外に冗談好きでシャイな一面もあり、ベルのように世話好きな性格でもある。足は微妙に速い。

シューティール

まだ旅に出て間もない新人だが、既にベテランであるかのように振る舞う。

また嫌味な性格のくせに、目上の人には敬語を使うあたりはシンジと同じ。

ただ、一応街のために行動していたことからシンジほど鬼畜ではないと言える。足は遅い。

ラングレー

高圧的で我が侏。

大食漢であるのか、サトシら三人前の朝食を一人でたいらげた（許可無しに）。しかも全く悪びれない。しかも別れ際デントに「今度会う時はもっとおいしい朝食を作ってちょうだい」と注文をつけた。

アイリスのライバルポジションにあたる人物で、

アイリスが目指すドラゴンマスターとは相反する存在でもある。

アイリスの「子供ね」に「そうよ子供よ！」と返すシーンはお約束になりつつある。

そのときの表情はある意味必見。

足はかなり速い。

ドラえもん（8）

ドラえもん

22世紀のネコ型ロボット。

のび太を助けるために現代にやってきた。

未来の道具がいろいろ入った四次元ポケットを持つ。

好きなものはドラ焼き、大嫌いなものはネズミ。

足は遅い。

野比のび太

小学4年生の少年。駄目な人間の典型として有名だが、実際は優秀な資質の持ち主。

温厚で優しく、他人を深く思いやる心を持っている。

臆病者だが正義感は強く、

誰かを助けるために勇気を振り絞って危険に立ち向かうことも少ない。

足はかなり遅い。

源静香

性格は男勝り。（ドラえもん暗黒武術会の性格にしている）

入浴が趣味。焼き芋が一番の好物であるが

イメージダウンを気にして、あまり口にしなない。

ヴァイオリンを習っているが、その演奏技術はジャイアンの歌に匹敵するレベル。口調は男口調。(ドラえもん暗黒武術会の口調にしている) 足はかなり速い。

骨川スネ夫

性格は自己顕示欲旺盛なナルシスト。毎日鏡の前に立って、自分の顔を褒めている。家は非常に裕福で、父親は会社をいくつも経営する社長。のび太たちによく自慢話をしているが、その半分は事実に関脚色を施した大ぼらである。足は速い。

ジャイアン

のび太のクラスメイトの少年。クラスの「ガキ大将」。自己中心的で乱暴だが、母ちゃんには弱い。非常に妹想いである。また、友情や愛情といった他人を思いやる行為に弱く、涙もろい一面を持つ。歌を歌うことが好きだが、ひどい音痴で聞くものに堪えがたい苦痛を与える。だが本人は、そんな歌を自慢のものとしていて何かと周りに聞かせたがっている。しばしばリサイタルを開いて、子供たちを強制参加させることが恐れられている。足は遅い。

出来杉英才

野比のび太のクラスメイトの少年。頭脳明晰でスポーツ万能とその名の通りの秀才で、完全無欠の少年。
のび太とは対極の少年。

たびたびしずかと仲良くしているところを見られて、のび太に妬まれている。
足はかなり速い。

安雄

のび太のクラスメイト。いつも赤と黄色の帽子をかぶっている。
趣味は漫画を読むこと、はる夫とキャッチボールすること。
塾に通っているが、時々休んで本屋で立ち読みをする。

ジャイアン率いる野球チーム「ジャイアンズ」のメンバーで、
しばしばのび太やスネ夫やはる夫とともにジャイアンにしごかれている。
作者のお気に入りキャラ。

足は速い。

はる夫

のび太のクラスメイト。ジャイアンより劣るが、太っている。
かなりの大食らいである。趣味は懸賞応募、キャッチボール。
野球チーム「ジャイアンズ」のメンバー。

安雄とともにしばしばジャイアンにしごかれている。
足はかなり遅い。

キングダムハーツ(9)

ソラ

デステイニーアイランドに住む少年。

陽気で楽天的な性格だが、

勘が鈍く世間知らずなところもある。

しかし、どんなことにも動揺しない心と強い正義感を持つ。

ヴァニタスによく間違えられる。

(彼曰く、服装と目の色まったく違うのに)

足は遅い。

リク

ソラの親友で、キーブレードに選ばれた勇者の一人。

年齢の割にクールで遅しく、大人びたところがある。

探究心が旺盛で、「外の世界」に強い憧れを持っている。

同じ島に住む少年ソラの親友でありライバルでもある。

実はキーブレードの正式な持ち主だった。

足は遅い。

カイリ

ソラやリクと共にデステイニーアイランドで暮らしていた少女。

幼い頃にデステイニーアイランドに現れ、

以来ソラやリクの幼馴染として過ごすようになった。
足は遅い。

ナミネ

「忘却の城」でソラ達が出会った記憶を操る少女。
常にスケッチブックを持っていて、主にソラ達の思い出を描いてい
る。

ソラとリクの幼馴染であるカイリに似ており、
彼女自身も自らを「カイリの影」と称する。その正体はカイリのノ
ーバディ。
足は遅い。

ヴェントウス

マスター・エラクウスの三人の弟子のうち一人で、愛称は「ヴェン
」。
純粹かつ明快な性格で、目に映るもの全てに興味を示す。
ある事情から心に一点の闇も存在せず、
セブンプリンセスに匹敵するほどの純粹な光の心を持つ。
ロクサスによく間違えられる。
足は速い。

アクア

マスター・エラクウスの元で修行している三人の弟子のうち一人で
ある、

キーブレード使いの少女。常に凜とした態度と強い正義感を持ち、敵対する者には容赦が無いが、親友であるテラ、ヴェントウスに対しては優しく見守るなど、女性らしい一面も併せ持つ。
足は結構速い。

テラ

マスター・エラクウスの三人の弟子のうち一人であり、「旅立ちの地」で修行を積んでいるキーブレード使い。

夢はキーブレードマスターになる事で、同時にそれは親友であるアクア、

ヴェントウスの夢でもある。落ち着いた雰囲気を持ち真面目かつ実直な青年で、内面は正義感が強く熱い心を持っている。
足は遅い。

ヴァニタス

マスター・ゼアノートの弟子と思われる、闇に染まったりクに似た禍々しい風貌と顔全体を覆う黒い仮面を被った、謎のキーブレード使いの少年。

その正体は、『ブレード』を作るためにマスター・ゼアノートが弟子のヴェントウスの心から取り出した闇であり、それを媒体に生まれた純粹な闇の存在である。
ソラによく間違えられる。

(彼曰く、服装と目の色まったく違うのに)
足は遅い。

ロクサス

ソラがハートレスとなった際に生まれ落ちたノーバディ。

生まれ落ちたトワイライトタウンで発見されて機関の指導者であるゼムナスから名前を授けられ、アクセルに案内されて

機関のNo.13として迎え入れられた。ロクサスもキープレードを扱えるため、

人の心のキングダムハーツの完成を目指すXIII機関にとっては都合のいい存在であり、

機関では主にハートレスを討伐して心を回収する任務に就いていた。機関の中ではアクセルやシオンと親しくなっていく。

常にぼんやりしており、会話も少ない。しかし、アクセルとの交友で次第に明るくなり始め、

忘却の城のメンバーが消滅したと知らされたときはアクセルの安否が気がかりになり

塞ぎこんでいくが、シオンとの交流、アクセルの帰還で再び明るさを取り戻し、

シオンも交え3人で時計台に集うようになった。

作者はロクサス大好き、ロクサスファン。

作者のお気に入りキャラ。

足はかなり速い。

バイオハザード(2)

レオン

正義感に溢れており、人々を守る使命感を持った新人の警察官。時間には大変だらない。女性に対しては誠実だが、女運が悪い。天性のサバイバル能力があり、様々な武器を扱える技術を持つ。足は遅い。

ウェスカー

ラクーンシティ警察署特殊部門 S・T・A・R・S・（スターズ）
総隊長にして、
同隊アルファチームのリーダー。生物工学に精通し、
その知識を陸軍に買われて技術将校となり、
民間企業の大要職を経て S・T・A・R・S・中心人物として抜擢されたという、
異色の経歴を持つ。
足は速い。

魔法少女リリカルなのは（10）

隊長陣

高町なのは

明るく優しい性格で強い正義感を持つが、辛いこと、悲しいことを抱え込んでしまう癖があり、一時期はそれが原因で彼女を心配する友人のアリサとケンカ寸前にまでなった。

学校の成績は良い方で理数系が得意。ただし文系と体育が苦手と本

人はいつているが
どれほどなのかははっきりしない。
足は結構遅い。

フェイト・T・ハラオウン

一見クールな印象があるが、実際はとても心優しい性格。
母・プレシアから虐待同然の酷い仕打ちを受けながらも
懸命に尽くそうとするなど、強い意志の持ち主であり、頑固な一面
を持つ。
足は結構速い。

八神はやて

不遇な境遇に置かれながらも前向きで、
優しい心を持った強い少女。しかし、なのはやフェイト同様、
辛いことや悲しいことを一人で抱え込む癖があり、
シヤマルがそれを心配する場面もあった。
関西生まれなので柔らかな関西弁で話す。
足は速い。

前線フォワード部隊

スバル・ナカジマ

前向きで能天気な人当たりのいいムードメーカーだが、
意外と内気で気が弱いところもある。はやてと同じく
「おっぱいマニア」らしく、寝惚けているティアナの胸を

揉んだことがある。だが、一度決めたことは最後までやり通す一本気な面も持っている。足はかなり速い。

ティアナ・ランスター

強気でプライドの高い性格だが、ドジを連発するスバルに憤りながらも世話を焼くような面倒見のいい一面がある。天涯孤独の身の上であることから、優しい家族に支えられているスバルやなのはを羨ましがっている節がある。足は結構遅い。

エリオ・モンディアル

実直で克己心の強い性格をしており人当たりも良いが、その性格が災いしてか女性陣にからかわれることが多い。また、少々羞恥心に欠けるキャラの過激なスキンシップに困惑することもある。新人フオワード4人の中ではなのは達との付き合いが一番長く、立派な「騎士」を目指して日々精進を続けている。足は速い。

キャラ・ル・ルシエ

おっとり天然気味の、可愛らしい性格。その経歴上同世代の友人を持ったことがなく、

「パートナー」という存在に強い憧れを持っている。また、その育ちのせいか羞恥心に欠ける部分がある。足は結構速い。

ヴォルケンリッター

シグナム

ヴォルケンリッターの将であるが為に、責任感がとても強い。生真面目で実直、騎士道精神を持つ武人。家族として接するはやてに対しても常に敬語を崩さないが、はやての優しさに安らぎを得ているのは他の騎士と同様。足は速い。

ヴィータ

誰よりも負けん気が強い。自己中。騎士たちの中では外見や精神も幼く、常に勝気で自由奔放に振舞うが、芯は強く根は優しい少女。足は遅い。

シャマル

金髪のおっとりした優しげな美人。シグナムやヴィータより年上に見える、本人もヴィータやはやての前ではしっかり者の姉のつもりだがドジで少々頼りない面が目立ち、周囲の一言でむくれたり、

拗ねたりするなどシグナムや自分より幼いはずのヴィータに比べ、顔立ちや性格などどこか幼い感じがある。足はかなり遅い。

ギャグマンガ日和（6）

聖徳太子

倭国の「アホ摂政」。精神年齢は幼児並だが、やる時にはやるとされており、ごく稀に、至極まともなことを話す。ただし普段は制服をジャージにしたり、外交を独自のワールドに昇華したりと常に滅茶苦茶な政策ばかり打ち出し、朝廷内を混乱させている。足は速い。

小野妹子

遣隋使の一人。太子のせいであつた2人で隋へ行く羽目になり、帰国後も太子との縁は切れていない。太子の行動には困り果てているが、命令とあらば従わぬわけにはいかないのでもししぶ付き合っている。また、落ち込んでいる太子を慰めるなど優しい一面も持つなど、基本的に人がよいため、太子につけこまれている。作者のお気に入りキャラ。足は遅い。

松尾芭蕉

江戸時代の俳人。伊賀の出身だが忍者ではない。俳句作りの為に奥州へ旅立ったが、万年スランプでまともな俳句はほとんど作れていない。ただし、稀に芸術的な秀作を製作する。異常に聞き間違いが多い。足は速い。

河合曾良

芭蕉の弟子。ただし「年中スランプ」の芭蕉の事は全く尊敬しておらず、水切り以外は全て自分の方が勝っていると思っている。真性のサディストであり、芭蕉の「友達」であるマーフィー君の目と口を縫いつけたり、芭蕉を痛めつけるのみの目的で「断罪チョップ」なる技をあみ出したり、事あるごとに芭蕉を痛めつけている。作者のお気に入りキャラ。足はかなり速い。

ハリス

ペリーののような歴史的インパクトがほしいために妙なことばかり考えつくため、

秘書のヒュースケンを困らせている。片言で話す。

「赤土を食べればインパクトが残る」と思い込んでいた。

他にもインパクトを残す為に変なロボットを作った。

旧約聖書のアダムとイブに因んで「巨泉」と名付けたが全く因んで

いない。
足は速い。

ヒュースケン

オランダ出身の秘書官。

ハリスの意味不明な

インパクトに被害を受けることになる。

オランダ出身というだけでハリスに

「風車の動きと連動して動く」と思い込まれ、

上下に激しく動く座席に乗せられることになる。

作者のお気に入りキャラ。

足は遅い。

NARUTO(4)

うずまきナルト

木ノ葉隠れの里出身で、四代目火影こと波風ミナトと渦の国出身のくノ一であるうずまきクシナの間に生まれた。

一人称は「オレ」。語尾に「だつてばよ」を付ける。

体に尾獣の一体・九尾の妖狐を宿している。

足はかなり速い。

春野サクラ

カカシ班のくノ一。ピンク色の髪、淡い緑色の瞳を持つ。

赤いアオザイ風の服を好んで着る。
感情的かつ短気な一面があり、「内なるサクラ」と呼称される。
これはサクラの本性を具現化したようなもので、
ナルトやカカシへの陰口やサスケへの想いを吐露していた。
足はかなり速い。

うちはサスケ

うずまきナルトのかつての親友、ライバル、
そして宿敵である。
一族特有の瞳術（写輪眼）を受け継ぐ【うちは一族】の末裔。
足はかなり速い。

カカシ先生

（カカシ班）を担当する教官であり、うずまきナルト、
春野サクラのチームメンバー。
猿飛アスマの死後はアスマ班及び紅班の臨時隊長を務める。
体術、忍術、幻術全てに秀で、スピード抜群、頭脳明晰で嗅覚も優
れている。
足はかなり速い。

ドラゴンボール（10）

孫悟空

地球育ちのサイヤ人。
サイヤ人名は「カカロット」。
さまざまな師のもとでの修行と強敵やライバルとの死闘を経て、
史上最強の戦士となる。多くの仲間にも恵まれ、家庭を持つ。
足はかなり速い。

ベジータ

サイヤ人の生き残りであり、超エリートに属する惑星ベジータの王子。
ナツパとともに地球に襲来し悟空たちと死闘を繰り広げる。
初期の頃はプライドの高い残忍な性格だったが、
悟空やブルマ等に感化され、次第に残忍さは薄れていく。
足は速い。

トランクス

ベジータとブルマの息子であり、サイヤ人と地球人の混血。
別次元の未来からやって来たトランクスと、
現代に住むトランクスが登場しているが、
両者は性格が極端に異なる。
足は速い。

孫悟飯

幼少から邪気の全くない性格で筋斗雲にも乗れる。
素直な面と強い正義感を持ち、生き物好きで極力

その命を奪つたり大きなケガを負わせないようにする心優しさも併せ持っている。
父親の悟空同様、異星人や動物など、誰とでもすぐに仲良くなれる。足はかなり速い。

ピッコロ

ほぼ一貫してクールなキャラクターだが、それゆえに周囲のギャグ的なノリに振り回されることもあり、フュージョンの指導やゴテンクスとの絡みのなかでの「はあい」というオカマめいた台詞、チチとブルマの説教に悟空と同等にうるたえる、など稀にコメディチックな言動も見取れる。
足は速い

フリーザ

絶対的な力で多くの部下を従えているが、普段は底の見えない落ち着いた物腰であり、圧倒的な余裕からか部下に対しても丁寧語を使う。怒ると言動が乱暴になるが、自分の実力に絶対の自信を持っているため、相手に余裕を見せる態度は変わらない。
足はかなり速い。

セル

かなりの自信家であり気分屋。好戦的で強い相手との戦闘を娯楽の
ように好む。
天下一武道会をモチーフとしたセルゲームを開催した際にセルは
「一番の楽しみ」として、悟空との戦いを最後に取っておきたかっ
たと語り、
長らく楽しみにしていたことが分かる。
足はかなり速い。

ブロリー

普段は華奢な優男でありあまり口を利かない。
孫悟空やベジータらとともに、
サイヤ人の数少ない生き残りの1人であり、
かつ純粋な超サイヤ人の一人である。
足は速い。

パラガス

ブロリーの父親。かつて息子の異常な戦闘力から
ベジータ王によって息子共々撃ち捨てられる。しかし、
フリーザが惑星ベジータを攻撃した際に息子のブロリーの潜在能力
が覚醒し、
九死に一生を得る。その後、制御のきかないブロリーによって左目
を潰されるも、
何とか制御装置の開発に成功し、ブロリーの力を使い全宇宙を支配
することを企む。
足は速い。

バーダック

ラディッツ、カカロット（孫悟空）兄弟の父。

容姿は目つきの鋭さをラディッツが受け継いでいる以外は、髪型などカカロットと瓜二つ。性格は粗野で口調も荒く、子供に対する愛情も薄い、仲間に対する思いは強い。足は速い。

マリオシリーズ（8）

ワルイージ

ルイージをライバル視している。ルイージより更に背が高く、より痩せている。表舞台で活躍しているマリオブラザーズに對抗できる力をつけるまで、下積みをしていた苦勞人。作者のお気に入りキャラ。足は結構速い。

デイジー

サラサ・ランドの姫。性格は明るく活発で、行動派。感情表現がいたって明確で、時折ワガママな行動で周囲を困らせることがある。しかし面倒見の良い姉御肌のため周囲からの評判はよい。足は結構速い。

ノコノコ

クツパ軍団の下級兵士。

パソコンを扱えるようになったり、拳句の果てにはテニス、野球等を行うようになった。マリオカートではハンドルさばきが良く、

初心者にとって操作しやすいため人気がある。
足は遅い。

ボム兵

爆弾のキャラクター。

いくつかのタイプが存在するが、
「体は球体で、中央付近に2つの目、下部に2本の足、上部に導火線と起爆スイッチが付いている」という形状は共通している。

また、動力はゼンマイである。
足は遅い。

ヘイホー

『夢工場ドキドキパニック』のザコ敵。

身長はマリオの半分ほどと小さい。恥ずかしがり屋なので顔は目と口の部分を繰り返した簡素なお面を付けており、

その他の部分は頭巾で覆っているため、素顔は分からない。

マリオテニスGCのヘイホー表彰式で仮面が外れたことがあるが、画面の反対の方を向いていたので素顔は分からず。

足は速い。

ボロドー

いろいろな物を盗みに来る。

大きさはヘイホーと同程度。お面はヘイホー同様に白いが、普通の顔が描かれており、なぜか表情が変化する。本業は泥棒だが、当初はベビーマリオを誘拐することが多かった。また、盗み方は「体当たりして強引に奪っていく」といった方法を取ることが多く、実質的にはひつたくりに近い。泥棒以外に、博打打ちだったり、詐欺師だったりする者もいる。しかし、逃走中では口は少し悪いが根は良い性格。足はかなり速い。

カメツク

魔法を使い攻撃する亀。魔道士という位置付けで、ケープに分厚い眼鏡という不気味な姿をしている。服の基本色は青。ちなみに、2足歩行。性別は雄が大半を占める。しかし、笑い声は魔女のようである。魔法使いの帽子と服を身に付けている。亀なのに甲羅が無いと思われがちだが実は甲羅を背負ったまま服を着ている。足は遅い。

ジュゲム

雲に乗って空に浮きながら登場する亀のキャラクターで、

クッパ軍団の一員。ゴーグルをつけ、頭に毛を3本生やし、甲羅にはノコノコなど他の亀と異なりリング状の模様が入っている。逃走中では雲から降りて参加する。
足は遅い。

ソニックシリーズ(9)

ソニック

ソニックは風の体現者である。彼は自由な魂と冒険心の持ち主で、生きたいように生きることの自由さを何よりも大切にしている。彼は冷静沈着だが、少し短気で、深く考えずに状況の中に飛び込むこともよくあるが、彼の自信は揺るぎなく、それはいかなる困難を前にしても変わらない。
足は滅茶苦茶速い。

テイルス

ソニックと出会う以前は2本ある尻尾のことでイジメられていたが、ソニックと出逢い、彼に憧れ後ろを追うことで勇氣と前向きな気持ちを持つようになる。
ソニックは憧れの対象だが、心の中ではいつかソニックに頼られるような存在になりたいと願っている。
足は結構速い。

ナックルズ

融通が利かず生真面目な性格とされている。短気で直情型。
その性格が災いする事が多々あり、Dr.エッグマンに騙されて

ソニックと敵対したり、方法論の違いから対立することもしばしばであるが、ルージユとも敵対したため、宿敵が多かった。どうも頭には自信がないらしく、ティルスの難しい理論を耳にするだけで不快な顔をしたり、『要するに　なんだろ?』と喋ってすぐ結論に辿り着こうとする。足は速い。

エミー

自称「ソニックのガールフレンド」で、ソニックをいつも「ボーイフレンド」だと主張する。エミーの一方的な片思い。ソニック自身も彼女のことは決して嫌いではないがしつこくされるので苦手らしい。常に元気一杯、思い込みは激しいが優しく純粋な心の持ち主。足は遅い。

シャドウ

クールで冷静、とても無口で必要最低限の発言しかしない。伶俐な頭脳を持ち、冷徹な態度を取り、強気でプライドが高く、周囲の人々を見下すような態度をとることがある。プライドを傷付けられると当初の目的を無視して傷付けた相手を返り討ちにしないと気が済まない。足は滅茶苦茶速い。

シルバー

荒廃した未来世界を変えるためにソニックのいる時代にやってきた白銀のハリネズミ。性格はナイーブで真っ直ぐとしており強い正義感の持ち主。

少々突っ走りすぎな所があり、それでいてナツクルズのように騙されやすい一面もある。ESPによるサイコネシスで様々な物体を持ち上げたり、鉄骨を曲げて操るなどの力を持っている。ESPによる飛行も出来るようである。足はかなり速い。

エスピオ

古風なカメレオン。カオティクス探偵事務所のご意見番である。

『カオティクス』時代とは反対に楽天的なベクターやチャーミーとは違い、律儀な性格で何事も冷静沈着に行動するが、どこか抜けている部分があり、

たまに2人のペースにしばしば飲まれる事もあるなどコミカルな一面もある。

目上の者に対して礼節をわきまえている。

カメレオンの特徴を使った忍術を得意とし、潜入や搜索などをこなす。

生き過ぎなくらいの慎重派であるが、

無鉄砲なチームの纏め役として重要な位置を占めている。

足は結構速い。

ベクター

常に耳にヘッドホンを付けているワニ。20歳。チャラチャラした金好きで、

報酬さえ貰えれば悪事以外のどんな仕事も引き受ける

カオティクス探偵事務所の所長を勤めており、腕利きの探偵である。横暴な性格で喧嘩っぱやく乱暴な面があるが、

仁義に熱く常に弱い者の味方。身なりと言動はラフだが

頭脳は明晰で探偵としても優秀である。
足は速い。

チャーミー

元気なミツバチ。6歳。まだ幼い為か、無邪気な性格で、お調子者でおつちよこちよい。遊ぶ事が好きでいつも元気に飛び回っている。

ソニックやエミーと同じで嫌いな物は退屈。一応、探偵ではあるが子供っぽい性格なため、基本的にチームを盛り上げるムードメイカー的な存在。好奇心旺盛で何かとはしゃぎ過ぎては、よくベクターに怒られている。お尻の針は刺されるとかなり痛い。
足はかなり速い。

ボーボボ(5)

ボーボボ

いい加減な性格に見えるが、胸の内に秘めた正義感は熱い。しかし首領パツチや天の助といった仲間をいように利用する所がたまにキズ
だがビュティだけは何かあっても必ず守ると決めている。
足は遅い。

首領パツチ

自称・主人公。もしくはヒロイン 極度の目立ちたがり屋で、
ビュティ(ヒロイン)とボーボボ(主人公)を一方的に妬み、

いつも自分ばかり目立とうとする。だがボーボボとは何だかんだで気の合う彼の漫才の相方的存在。

「ヤツくん」という名の人形を愛用するハジケリスト。
足は速い。

ところ天の助

自分自身がところてんなせいか、主食勝負にところてんを参戦させたり、

ほかの食べ物キャラが活躍するとそのキャラがところてんから主食の座を奪おうとしていると思ひ込んで、自分も活躍しようとしてたり等、

ところてんを大衆に馴染ませようとしている部分もある。

足は速い。

魚雷ガール

魚雷をモチーフにした謎の生物。父親は「地雷ダンディ」。

どんなおふざけも封殺する伝説の「ボケ殺し」の唯一の生き残り（ビュティを「ボケ殺しになれる」と評した）でおふざけが死ぬほど大嫌い。

足はかなり速い。

軍艦

マルハーゲ四天王（アニメではマルガリータ四天王）の一人。

『鼻毛真拳を「悪の力」として改造した我流鼻毛真拳

（がりゅうはなげしんけん）の使い手。ボーボボに敗れた後、人質や囚人として何度か登場するも、ボーボボも含めたレギュラーキャラに忘れられていることが多い。

足は遅い。

ロックマン(4)

エックス

平和を脅かす敵を倒そうとする「正義感(使命感)」と、敵とは言え破壊することをためらう「優しさ」(周囲には甘さとも取られることもある)」「
を併せ持ち、この2つの狭間で揺れ動き、思い悩みながら戦う様子が描かれ続ける。
時には思い悩むあまり戦うことを放棄し、一線を退いてしまったことすらある。
足は速い。

ゼロ

エックス以上に強烈に悪を憎み、イレギュラー悪には僅かの慈悲も無い。
普段は極めて冷静沈着かつクールで、感情を殆ど介さずに任務を遂行するが、
根は少々短気かつガサツでとても熱い性格。
足は速い。

ブルース

孤独を愛し、自らの信念に基づいて行動する。また、
ロックマン達の前に姿を表す時は口笛を吹いて存在をアピールする。
ロックバスターの先行機ゆえに似た性能を持つ「ブルースバスター」
と、

楕円状の盾「ブルースシールド」が武器。ブルースバスターは常時
装備で、

ロックマンのように腕の形に変形できない。

足は結構速い。

エアーマン

大きな胴体の胸部と頭部が一体化した独特の体形を持つ空中戦闘用
ロボット。

腹部の大型プロペラで台風ほどの強風を巻き起こし、小型の竜巻を
発生させる

「エアースューター」が武器。ワイリーは以前にこのシステムで風
揚げを

しようとしたが失敗した。部下のロボット達と協力すれば
大型の竜巻を発生させることができる。

足は速い。

絶体絶命でんじゃらすじーさん(5)

じーさん

自称世の中の危険から生き抜く方法を教える一人の老人。基本的に
ボケ役だが、

孫、校長が登場しない話の場合、ツツコミ役にもなる。

マイペースで適当且つ天然な部分が多いものの回により孫よりも長
い人生を

歩んだ経験からか、彼や大長編に登場するキャラに人生で大切な事
を教え諭す事が多い。

ささきさん等友人が多く、

「邪」では彼の友人で結成された「お友だち軍団」なるものが存在する。

足はハンターよりも速い。

孫

じーさんの孫。本名は洋助。普段じーさんのことを「おじいちゃん」と呼ぶが、たまにツッコミやキレた時に「ジジイ」や「クソジジイ」と呼ぶ事が多い。

小学校5年生の男の子で、年齢は11歳程度。学校では5年1組に在籍。一人称は「俺」か「僕」。

赤いジャケットがトレードマーク。特技は工作で体育が苦手。

将来の夢はプロ野球の選手「8」で好きでも嫌いでもない物は筆ペン。

この漫画の登場人物の中では一番まともな感覚の持ち主であり、作中では主にツッコミ役担当となる。

足は速い。

校長

孫の通っている学校の校長でじーさんのライバル

(関係は全く知らないものの髭の量と言う外見の判断で彼をライバル視している)。

こちらも年齢は不明。鉛筆の芯を彷彿させる様な尖がり頭とどじょう髭が特徴。

一人称は「我輩」。自分が一番偉くないと気がすまない性格で、気に入らない者を殺すこともあるが子供相手に2秒で負けるので自分が一番死んでいる。

足は速い。

ゲベ

じーさんの飼い猫で猫のような外見で他のキャラからは「ネコ」と思われて、

自ら「ネコ」と名乗る場面もあるが、猫の言葉はわからなかったり、時折顔を除く精悍な体格に変化する謎の生き物。初めは「しゃちよー」と

書かれた箱に捨てられていたがじーさんに気に入られてこのまま飼う様になる。

鳴き声は「ゲベ」だったが、後に日本語をしゃべるようになるがかなりの毒舌である。

なお、名前はじーさんが命名した。体色は白一色。 作中では強い能力を持つキャラ

として描かれ、戦車をつかったり口からミサイルを吐いたり耳からパンチが出たりととにかく色んな能力をもっている。レンタルビデオ屋に

いったりパソコン操作もこなしたりと人間並みの行動もする。

足は滅茶苦茶速い。

ちやむらい

泣き虫の侍。一人称は「僕」か「俺」。桃色のひょうたん手足とによりりとつきでた口がくつついたような外見をしている。

侍なので一応刀を持っているが刀身はない。自分が弱虫なのをいいことに

誰も相手にしてくれない。相当な泣き虫で歩くのが遅いだけで泣くが、

他人が交通事故に遭うなど、自分の関係ないことでは絶対に泣かない。

しかし、催眠術などで自信がつくと一転して調子にのって自信過剰な性格に変貌する。

その他、他人に助けを求められても自分に関係ない限り絶対に助けないし、

助かる方法を見つければ自分だけその方法で助かろうとするなど、

エゴイストの一面を持つ。

じいさん相手の耳元でこそこそと話す。

足は結構速い。

逃走者紹介（後書き）

次回、逃走者達の意気込み！

（逃走者はまだ募集してます。）

作者さん紹介(1) (前書き)

作者さん、紹介！

作者さん紹介(1)

作者さん(8)

しら

体力的には不安あり。

しかし、ミッションには積極。

逃げ足と運には自信がある。

無限

ポケモン形態で出る。

足や運、スタミナはかなりある。

ミッションは絶対にやらない。

パルポン

足は普通よりちょっと早く、運は普通でスタミナはかなり高い。

ハンター放出ミッションにはいくが

賞金減る系のミッションはいかない。

他のミッションは普通。

ミッションには内容次第で行く。

紀葉

足は遅いけど、運は良い方。

でも体力がない。

ミッションは賞金関係は行かない。他は行く。

カルピスフロート

最近は週に3日でジョギングしている。

(でも足は遅い) 50m走は8.5。

カイクウ

足の速さは早い。

ミッションとかは良く行くほう。

体力は中ぐらい。

izumi

足の速さは50メートル走は7秒44。

スタミナはほとんど無いが回復力は早い。

運は弱い方。ミッションには基本は行く。

誘われたら断れない性格なので誘われたら行く。

自首は考えていない。

スライムマン

足の速さは結構早く、

ミッションには積極的。

作者さん紹介(1) (後書き)

176人が、逃走中に参加する！

逃走者は、まだまだ募集中です！

次回、作者さん紹介(2)！

逃走者達の意気込み（前書き）

逃走者紹介の後の始まる前の意気込み・・・。

逃走者達の意気込み

逃走者達の意気込み

1 番目 再参戦のルイージ

ルイージ

「再参戦でいいなあ、作者がルイージファンで良かった。逃走中ってスリルがあるんだよね。」

兄さんは家の事情で出れないけど、前回早く捕まった兄さんよりは長く残りたいと思います」

2 番目 再参戦のポロドー

ポロドー

「俺は泥棒だけど逃走中では一切逃走中ではそんな事はしません・

・
本当は根が優しいんですが。あ、それは置いて、

カロンとかクリボーなどのやつ、クツパの城で留守番してて出れなかったん

だけど……。前回で早く捕まったあいつらよりは

長く残りたいです。ミッションとかは積極的にやります。

heyホーも再参戦したのが珍しいな……」

3 番目 再参戦の志村新八と坂田銀時

志村新八

「ダメガネっていわれない為に参加しました……。銀さん、前は情けないって思いました。」

坂田銀時

「俺も参加だぜ。暇だから。ていうか

おいー！！新八、俺のことが情けないって!？」

志村新八

「ああー！！すみません！と、とりあえず、

前回で中盤で捕まった事を

汚名返上してみます！それでは!！」

4 番目 再参戦のラフィーナ

ラフィーナ

「当然お金目的で参加しました。

前は裏切り者に通報されてとても悔しかった……。賞金はダイヤ、高級な指輪に使います。

ぷよぷよメンバーの皆さんより、長く生き残って見せますわ！

オーホッホッホ!！」

5 番目 再参戦のネス

ネス

「裏切り者の奴。許せなかったな……。賞金は釘バットを買いしめることに使う。

これであるハゲを……。あーっ、これ以上は言えない!

とりあえず逃走成功を狙っているぞ」

6 番目 再参戦の小野妹子

小野妹子

「太子・・・本当に「この人大丈夫なのか？」と思いました。前回で予選でも本選でも早く捕まったバカの太子よりも長く生き残って見せます。まさか芭蕉さんも参戦とは・・・。まともなのは僕と曾良さんとヒューズケンさんしかいないのか？ 全く・・・。賞金はあのバ力達を調教するムチと勉強道具に使用します。」

7 番目 再参戦のシゲ

シゲ

「わーい、また再参戦だ〜。
自首はごうしようかな〜と迷ってます〜
意気込みよりも、まずは虫を捕まえない・・・
虫さんどこかな〜・・・」

8 番目 再参戦のファルコ

ファルコ

「俺は、金よりも仲間だ。
皆を助けたい、皆を喜ばせたい、そういう気持ちで参加したんだぜ。」

自首は狙ってないし、逃走成功も狙ってない。

「ただ、皆を助けるために長く残りたいと思っている」

9 番目 再参戦の聖徳太子

太子

「また出れた〜！」

予選でも本選でも早く捕まった私、汚名返上して

大活躍してやる〜！妹子〜！見てろよ〜！

賞金もらって、皆に自慢してやる〜！

自首も狙ってるぞ」

続きは、初参戦となる逃走者の意気込み。

1 番目 シエゾ・ウイグイイ

シエゾ

「来た来た……！逃走中だぜ……」

皆「ヘンタイ」とか言いやがってよ〜……

逃走成功を狙って「ヘンタイ」を脱出してやる〜……

覚悟しておけよ……！あ〜、とりあえず……

アルルが……欲しい！ア、アーツ！アルルの力の間違いだ！」

2 番目 エリオ・モンディアル

エリオ

「はい……。初参戦です。」

逃走中に出れるのはドキドキします・・・
機動六課の皆さんよりも長く生き残って見せます！
オープニングゲームとか、本編で捕まったら恥をかきますから・・・
。。
そうならないよう、頑張ります！」

3 番目 レムレス

レムレス

「賞金はやっぱりお菓子ですね。
早く捕まったら恥……。しかも賞金はゼロになる・・・
それが逃走中ですね。前は出れなかったけど、
この逃走中で逃げ切りを狙います・・・！」

4 番目 河合曾良

曾良

「逃走中ですか。賞金は芭蕉さんを痛めつけるだけの道具を
買いまくりますね。芭蕉さん、メカマツオとか何ですか？
意味分らないもの作らないでください。
バカやっていると置いていきますよ、芭蕉さん。
芭蕉さんよりも長く生き残りたいと思ってますね」

5 番目 ルルー

ルルー

「サタン様も参戦ですか・・・」

逃走成功は勿論狙ってます。サタン様……。アルルのフィアンセですって！？許せませんわ！逃走成功して、サタン様と結婚して見せますわ！」

6 番目 松尾芭蕉

芭蕉

「曾良くんも逃走中参加か〜。

あ〜、私を痛めつけるために参加した……。。

あ〜、嫌だ〜！！！！死にたくない〜！

絶対、逃走成功を狙います！

自首も……。考えてます」

7 番目 フェーリ

フェーリ

「来た来た……。このあたしが逃走中に……

レムレス先輩と逃走成功を狙ってます……。。

自首は考えてません……。

レムレス先輩……。見ててね……。」

8 番目 キャロ・ル・ルシエ

キャロ

「機動六課で一番長く生き残りたい……

折角出れるんですから、絶対に逃げ切って、

皆さんに賞金を分け合います……。！」

足は、あまり自信がありませんが……。
とにかく、お願いします」

9 番目 シャドウ

シャドウ

「僕が逃走中に出るとは。

究極の生命体と言う名を汚さずに、逃走成功を狙う。

ソニック……君を敵としてみるよ。

自首なんか考えていない。ただソニックを追い抜かしたい
だけさ。とにかく頑張って見せる」

逃走者達の意気込み（後書き）

次回、作者さん紹介！

（まだ逃走者は受け付けてます。）

オープニングゲーム(1) (前書き)

ついにオープニングゲームが始まる・・・!

オープニングゲーム(1)

ゲームマスターの目の前にある4つの映像・・・

Ryuuto Island

Persona Trinity City

Ryuujinmachi

White City

ゲームマスター「・・・」

彼はその中の「Persona Trinity City」をタッチした。

多くの人口で賑わうトリニティ・ペルソナシティ。

そこに、176人の逃走者が集められた・・・

・
・
彼等の視線の先には、ボックスに収納された4体のハンターの姿が

彼等は今から、オープニングゲームに挑む・・・

レムレス

「いよいよ始まるね」

ブロリー

「超サイヤ人の力を思い知らせてやる……」

その時、甲高い声が聞こえてきた……。

『これより、ゲームを始める。』

君達の目の前にいるハンター達は、ボックスの中に閉じ込められている。

1人ずつサイコロを振り、出た「サイコロの目」に応じてハンターボックスが前進する。

振る者とボックスの間は1mごとに区切られており、全員で、176マス以上前進させればクリア。

スタートエリアから解放され、1分間にハンターから逃げられる。

ただし、サイコロの1面には「ハンターの目」

この目が出ると、その瞬間、ゲームがスタートする。

ハンターが解放されたれ、目の前の逃走者に襲い掛かる。」

バーダック

「お、28番！」

新八

「17番ですか・・・回ってこないと良いんですけど」

キャロ

「4番！？すぐじゃない？」

シエゾ

「176番・・・最後だ！良かった」

サイコロを引く順番は、くじ引きにより決まる。運任せだ・・・

1人目は、サタン・・・。

魔界のプリンス、前に立つ……。

エリオ

「せめて3以上は出してください……！」

ネス

「3以下だったら困るし……」

シャドウ

「緊張する……」

サタン

「フッフッフ、3以上など軽いわ！
行くぞ！」

果たして、3以上は出せるのか！？

サタン

「それ！」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

シエゾ

「頼むぞ……！」

スバル

「5は出てください……」

ウィッチ

「いきなりハンターの目だったりして……？」

緊張している逃走者達。

サイコロが、とまった……。

出た目は、4だ……。

サタン クリア

サタン

「どうだ、3以上が出たぞ」

エリオ

「4か……いきなりだよ」

ウルフ

「いきなり4とか凄いで、こりゃ」

目の数字は4。ハンターボックス4マス前進・・・

サイコロを投げた逃走者は、スタート地点から1離れた場所で、ハズレが引かれるかクリアするまで待機する。
(クリアまで残り172マス)

2人目は、ピット・・・。

神話の天使、ここに参る・・・。

スネーク

「6マス引いてくれ！」

ピット

「そんな事言われても結局は運だし・・・」

孫悟空

「そんな緊張するな、さあ、投げてくれ！」

ピット

「はい、それじゃ・・・行きます!」

サイコロを投げる!

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ・・・。

カイクウ

「ハンターの目は出るなよ・・・」

レムレス

「出てもらったら不利だよ・・・」

サイコロが、とまった・・・。

出た目は、1だ・・・。

ピット クリア

ソニック

「ぜんぜん進んでねえじゃねえか!」

なのは

「もう少しいい目を出しなさいよ！」

ピット

「だから結局は運なんだっていつてるじゃないか！」

目の数字は1。ハンターボックス1マス前進・・・
(クリアまで残り172マス)

3人目は、カイクウ・・・。

逃走者募集で参加した作者さんが、ここに立つ・・・。

ドラコ

「頼みますよ！」

シャドウ

「ハンターの目だったら、困りますからね・・・」

逃走者達は、作者さんには皆敬語だ・・・。

カイクウ

「とりあえず、行くぜ！」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

スライムマン

「やばい、緊張感が……！」

ドラコ

「いい数字で合って……！」

サイコロが、とまった……。

出た目は、3だ……。

カイクウ クリア

フェーリ

「いい数字で良かった……」

ティアナ

「頑張つて下さいね！」

カイクウ

「おうよ……」

目の数字は3。ハンターボックス3マス前進・・・
(クリアまで残り169マス)

4人目は、キャロ・ル・ルシエ・・・。

はやて

「6は出してや!」

キャロ

「ええ? 運なんだよこのオープニングゲームは・・・」

ワルイージ

「悪いが早く投げてくんねえか・・・!」

キャロ

「あ、すみません、行きます・・・!」

サイコロを投げる!

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

izumi

「6は果たして出るのでしょうか!?!」

紀葉

「もしハンターの目が出たら……オワタW」

サイコロが、とまった……。

出た目は、3だ……。

キャロル・ルシエ クリア

スバル

「まあまあじゃない?」

のび太

「ぼくの番が回ってきたら……」(泣)

ファルコ

「まあ、頑張れよ！」

キャロ

「はい。ハンターの目じゃなくて良かった……」

目の数字は3。ハンターボックス3マス前進……
(クリアまで残り166マス)

5人目は、メタナイト……。

カービィのライバル騎士が、ここに立つ……。

ソニック

「ハズレは引くなよ！」

ドラえもん

「俺達は金を稼ぐために……」

メタナイト

「わかってる。行くぞ」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

セル

「ハンター出すなよ……!」

首領パツチ

「出されたら俺等死んじまいそうだぜ!」

サイコロが、止まった……。

出た目は、1だ……。

メタナイト クリア

メタナイト

「……」

トゥーン

「全然進んでないじゃないか!」

なのは

「空気読んでよ!」

フェイト

「この人でなし!!」

メタナイト

「五月蠅いウザい ハンターじゃないだけ有難く思え」

目の数字は1。ハンターボックス1マス前進・・・

(クリアまで残り165マス)

この後、6人目・クルークが3の目を出してクリア

7人目・レムレスが6の目を出してクリア

8人目・スバル・ナカジマが3の目を出してクリア

9人目・無幻 が4の目を出してクリア

10人目・ナツクルズが2の目を出してクリア

11人目・エリオ・モンディアルが4の目を出してクリア

1 2 人目・アミティが3の目を出してクリア

1 3 人目・孫が6の目を出してクリア

1 4 人目・izumiが2の目を出してクリア

合計、33マス進んだ・・・。

クリアまで残り132マス・・・。

果たして、オープニングゲームでハズレを出して捕まってしまう逃走者は誰なのか!?

オープニングゲーム(1) (後書き)

果たして、オープニングゲームでハズレを出して捕まってしまう逃走者は誰なのか!?

オープニングゲーム(2) (前書き)

オープニングゲーム2・・・。

オープニングゲーム(2)

15人目 坂田銀時

白夜叉の異名を持つ、侍がここに立つ……。

新八

「3は出してくださいよ！」

銀時

「まあまあ、運なんだからあまり期待するなよ、ホレ」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

しら

「ハンター出ないでください……！」

さっちゃん

「これはすべて運よ……！」

サイコロが止まった……。

出た目は、6だ・・・。

坂田銀時 クリア

銀時

「おお、3を出すどころか2倍の6出しちゃったぞ」

新八

「凄いです、銀さん！」

カルピスフロート

「この後も頑張ってください！」

シエゾ

「ていうか皆なかなかハズレ引かないな・・・」

目の数字は6。ハンターボックス6マス前進・・・
(クリアまで残り126マス)

16人目 ピッコロ

ナメック星人、ここに立つ・・・。

ピッコロ

「これは、プレッシャーがかかりそうだな」

慎重なピッコロ。

デイジー

「さあ、さっさと投げて！」

ピッコロ

「そう焦るな、金を手に入れるにはじっくり考えることも必要だからな。」

行くぞー！

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

スライムマン

「ハンター出ないで下さい……！捕まっちゃいます！」

ワルイージ

「ハンター出るなよ……！」

フェーリ

「せめて多い数字で……」

サイコロが止まった……。

出た目は、1だ……。

ピッコロ クリア

バーダック

「何やってんだよピッコロ！」

ピッコロ

「ハンターじゃないだけマシだろう！」

シエゾ

「そろそろハズレ引くころなのに・・・!?」

目の数字は1。ハンターボックス1マス前進・・・
(クリアまで残り125マス)

17人目 志村新八

神楽

「ダメガネ！絶対6引くアルネ！」

新八

「約束できませんよそんなこと！」

ティアナ

「ダメ！約束して！」

新八

「全ては運なんですから絶対に約束できません！！
とにかく、行きます！」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

シエゾ

「ハズレ引くな……絶対引くな新八の奴……！」

シエゾはハンターが出ると確定している。

サイコロが止まった……。

出た目は、4だ……。

志村新八 クリア

し
ら

「新八さん6出してくださいよ！」

新八

「運なんですよこのゲームは・・・」

ワルイージ

「あれほど6出せって言ったのに・・・!」

目の数字は4。ハンターボックス4マス前進・・・

(クリアまで残り121マス)

18人目 ポポ

元裏切り者の男、前に立つ・・・。

ラフィーナ

「ハズレ引いたら承知しませんこと!いいですわね!?!」

ベジータ

「前回、俺等を通報しやがって、しかもハズレ引いたらお前の責任だぞ!!」

ネス

「金が・・・!」

ポポ

「もう許してよー!それ!」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……。

ルルー

「絶対ハズレ引きますわね……」

リュカ

「今度こそ……！」

サイコロが止まった……。

出た目は、3だ……。

ポポ クリア

アルル

「うそ！？絶対ハズレだと思ったのに！」

ドラコ

「長すぎるでしょ、いつ始まるのよ……」

目の数字は3。ハンターボックス3マス前進……

(クリアまで残り118マス)

19人目 ソニック

世界最速のハリネズミ、ここに立つ……。

ソニック

「行くぞ！」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……

エミー

「大丈夫かな？」

シエゾ

「ハズレだな絶対……！」

サイコロが止まった……。

出た目は、3だ……。

ソニック クリア

ソニック「シーユー！」

目の数字は3。ハンターボックス3マス前進……

(クリアまで残り115マス)

20人目 エスピオ

カオティクス探偵事務所のご意見番探偵、現る……。

ベクター

「ハズレ引かないでくれよ！」

エスピオ

「分かってる、分かってる」

ワルイージ

「絶対6出してくれよ！」

エスピオ

「全ては運だ。約束することは出来ない……。

とりあえず行くぞ！」

サイコロを投げる！

ガシャン、ゴロゴロゴロゴロ……

ウィッチ

「大丈夫かしら……？」

チャーミー

「6……！6……！」

土方

「いや、せめて4は……！」

サイコロが止まった……。

出た目は、『ハンター』の目……。

そう……。

プシュー！！！！！！！！！！

残りの逃走者

「うわあああああ！！！！！！！」

ゲーム、スタート……。

4体のハンターが放出。ゲームが始まった。

散り散りになり、一目散に逃げていく逃走者達。

ハンターの視界には……

ビーーーーー

エスピオ

「何なんだよ、このハンターの速さ！！！！」

ハンターとの差はどんどん縮まってく。最早、逃走不可能……

エスピオ

「何故！！！！！！」 ポンッ

> i 3 3 6 5 7 | 4 2 6 0 <

エスピオ

「何故だよ……！何で？」

探偵、すぐに敗れた……。

プルルルル

ソニツク

「来た、メールだ」

確保情報は、全ての逃走者にメールで通達される。

エリオ

「『オープニングゲーム付近にてエスピオ確保、残り175人』……！」

アルル

「あの人、ハズレ引かなそうだったのに……！」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが……

run for money 逃走中

逃走劇の舞台となるのは、多くの人口で賑にぎわいを見せる、

トリニティ・ペルソナシティ。広さは東京ドームおよそ7個分。

またアトラクション内へは原則進入出来ないこのエリアの中を17

5人の逃走者は、

4体のハンターから逃げ回る。

果たして、逃げ切れる者は、誰だ！？

オープニングゲーム(2) (後書き)

ついに、ゲームが始まる・・・!

通達（前書き）

謎の通達・・・。

通達

裏切り者

ベクター

「きたぜ、逃走中！」

アミティ

「隠れ場所は・・・？」

隠れ場所を探しているアミティ。

ウルフ

「腕が鳴るぜ」

ピット

「怖いな、再出演したでもまだ恐怖が・・・ハンター来てる！」

ピットは一目散に逃げる。

ピットは建物の角を利用しながら逃げる。

ハンター

「・・・」

見失った・・・。

ピット

「危なかった・・・！」

その時。

ブルルルル

スバル

「メール？」

メールだ・・・

フェーリ

「えっ？通達・・・？」

izumi

「『逃走者諸君、実は現在1人定員オーバーだ』えっ？」

エリオ

「『君達の多数決により』」

アルル

「『脱落させる1人の逃走者を決めてほしい』」

スライムマン

「『残り697分までに、誰かの名前を記入しメールで送信せよ!』
・・・」

キャロ

「『送らなかった者は強制失格となる。急ぎたまえ!』・・・」

ルルー

「人を売ると同じじゃない!？」

逃走者に通達された通達1・・・

通達1

生き残っている175人の逃走者の中から、脱落させてもいいと思
う者を1人選び、

残り697分までに投票しなければならぬ。

投票しなければ、強制失格となってしまう!

フォックス

「脱落していいのは、お前だ！」

ゆかり

「自首する人に……。」

クルーク

「あいつは知らない、ボク一人で十分だ……！」

エリオ

「信用できない人なんて
いないよ……！」

ヒューステン

「もちろんあの人ですよ！」

アルル

「あの子だ……！」

はやて

「……」

シエゾ

「あいつなんて信用できるか！」

ブルルルル

アルル

「来た……！」

なのは

「結果が出た！」

新八

「『多数決の結果が出た』……」

しら

「『脱落させようと思ったが、気が変わった』！？」

キャロ

「『多く投票された者には』」

エリオ

「『特別な役割を与える事にする』……」

紀葉

「『その役割とは』……」

逃走者全員

「『裏切り者だ』・・・！！！！！！」

逃走者達の投票によって、1人の裏切り者が選ばれた

裏切り者は、他の逃走者の位置情報をハンターに通報。

その情報が確保に結び付けば、通常の賞金に加え、

ボーナスとして1人に付き10万円が支払われる。

この時点で、全ての逃走者は仲間では無い・・・

小野妹子

「人を信用できないってことですか……？」

しら

「誰ですか！？裏切り者は！」

アミテイ

「誰も信用できないんでしょ！？だったらソニックも……」

リデル

「その人は仲間に見捨てられた……事ですか？」

ピット

「また裏切り者が出ちゃったよ……！」

サタン

「誰なんだ、裏切り者は……？」

仲間に見捨てられ、裏切り者出現……。

この憎しみを、逃走者達に恨みを込めて通報する……。

通達（後書き）

この裏切り者が、どうゲームに影響するのか!？

ハンター放出阻止(前書き)

謎のミッション・・・。

ハンター放出阻止

ハンター放出阻止

スバル

「緊張するわ……」

キャロ

「裏切り者にもハンターにも、気をつけないと……!」

警戒しているキャロ。

なのは

「ここは隠れたほうがいいかな？……?」

魔導師のエース・オブ・エース、慎重派だ……。

しかし、裏切り者が、なのはの姿を捉えた……

???

「高町なのは、ゴッドパーク付近にいます……」

裏切り者の通報を受けたハンターが、なのはの確保へと向かう。

なのは

「隠れる、隠れる……ってハンター!」

ハンターに気づき、逃げるなのは。

逃げ続けるなのは。しかし、
彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

なのは

「いや〜！」 ポンッ

> i 3 3 6 9 6 | 4 2 6 0 <

なのは

「そ、そんな〜・・・！」

魔導師のエース・オブ・エース、早くも撃沈・・・。

プルルルル

ウィツチ

「確保情報・・・！」

銀時

「『裏切り者の通報により、『

izumi

』ゴッドパーク付近でなのは確保』・・・」

パルポン

「ついに裏切り者が動き出したか・・・！」

トアル広場にて・・・。

レッド

「ここが例の町か・・・。」

前回、逃走中で参加したレッド、今度はドラマに出演する。

レッドはトアル広場に着いた・・・。

レッド

「・・・女神ペルソナの像が・・・！」

トアル広場の中心には、「女神ペルソナ」の像が配置されている。

レッド

「・・・なんだ？何かを訴えるようなメッセージが・・・。」

ブルルルル

カルピスフロート

「また、確保情報ですか!？」

シエゾ

「これは、ミッション1だ・・・!」

カイクウ

「『今、トアル広場にハンターボックスが4体設置された』・・・」

バーダック

「『残り680分までにゴッドパークにある』」

シグ

「『ハンター放出阻止用レバーを引かないと、』」

紀葉

「『ハンターが放出される』・・・ちよ、ハンター放出されたら不利じゃんw」

MISSION? ハンター放出を阻止せよ!

今、トアル広場にハンターボックスが4体設置された。
残り680分までにゴッドパークにある
ハンター放出阻止用レバーを引かないと、ハンターが放出される。

パルポン

「よし、行くか……!」

しら

「ハンター放出されたらヤバイです……!」

スライムマン

「行きましよう……!」

ドラコ

「ハンターか……行くしかないわね!」

カイクウ

「行くぜ……」

izumi

「ここは行きましよう……」

エリオ

「ミッション、やるぞー!」

ウィッチ

「ここは・・・行かない？」

シエゾ

「むやみに動いたら見つかる・・・！」

キャロ

「行かないよ・・・」

ヴィータ

「ミッション・・・？行くわけねえじゃん！」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高くなる。

キャロ

「ハンター4体でしょ？誰かがやってくれと思うよ・・・」

ピリリリ

キャロ

「うわ！・・・なんだ、まぐる君か。どうしたの？」

まぐる

「君は誰に投票したんだ？」

キャロ

「私はりすくませんばい」

まぐる

「ボクの先輩にか」

キャロ

「それに・・・まぐる君、君裏切り者じゃない？」

まぐる

「え、違うよ！信じてよ」

キャロ

「・・・そうだね。まぐる君が裏切り者じゃないみたい」

まぐる

「よかった・・・とにかくもう切るよ」

ピッ！

キャロ

「切れた・・・何だったの？」

ドミロ

「ゴッドパーク、ねえ・・・」

現在、ゴッドパークを探しているドラコ。

ドラコ

「あっ、ウィッチじゃん。何隠れてるの?」

ウィッチは転生草原に隠れている。

ウィッチ

「ハンターに見つからないように隠れてるのよ……」

ドラコ

「ふん……ハンター放出、気にならないの?」

ウィッチ

「勿論気にしてるけど動いたら

ハンターに見つかるから隠れてるの……!」

ドラコ

「皆慎重だね、あたしはミッションに動いてるけど」

ウィッチ

「……見つかないでね」

ドラコ

「勿論!じゃあな!」

ドラコはウィッチから離れた。

izumi

「わっ、しらさん!」

しら

「izumiさん!びっくりしました・・・」

女神の道で出会った作者さん2人・・・。

izumi

「しらさんもミッション参加ですか?」

しら

「はい、そうなのですが・・・」

izumi

「?」

しら

「今前方にハンターがいるんですよ・・・だから隠れてください!」

izumi

「本当ですか!?!急いでどこかに・・・」

しかし・・・。

ハンター「！」

後方からも、ハンターが見つかった・・・。

izumi

「後ろからも来てますよ！」

しら

「え？え！？急いで逃げましょう！」

果たして、izumi、しら、逃げ切れるのか！？

ハンター放出阻止（後書き）

果たして、ハンター放出を阻止できるのか！？

謎と危機が迫る！（前書き）

i z u m i、しら、逃げ切れるか!？

そして、謎の問題が出される！

謎と危機が迫る！

izumi

「早く逃げましょう！」

しら

「はい！」

2人は急いで逃げる。

ハンターの標的は……。

しら

「え！？私ですか!?!」

しらだ……。

しかし、巻き添えにされた者が……。

ティアナ

「しらさん、ハンターに追われてるんですか!?!」

ティアナ・ランスターだ……。

しら

「はい!逃げてください!」

ティアナ

「これは……!」

ティアナもつられて逃げる。

ハンターの標的は……。

ティアナ

「うそっそ!?!何でこっち!?!」

ティアナだ……。

ティアナ

「うぎゃあ!?!?!」

ポンッ

> i 3 3 7 5 4 — 4 2 6 0 <

ティアナ

「ここで捕まるの〜?」

機動六課のメンバー1人、撃沈・・・。

プルルルル

レムレス

「確保情報・・・」

フェーリ

「『女神の道にてティアナ・ランスター確保』」

スバル

「ティアナ何やってんの・・・」

ヴィータ

「情けねえ……!」

しら

「ごめんなさい、ティアナさん……!」

しら

「izumiさんとはぐれてしまいました……。」

しら、izumiとはぐれる……。

しら

「トアル広場に来ちゃいました……。」

しら、いったんトアル広場で休憩する……。

レッド

「あれ？しらさんじゃないですか」

しら

「レッドさん！何やってるんですか？」

レッド

「何かこのペルソナ女神の像から何かを訴えるようなメッセージが届いて……」

しら

「……？なんて書いてあるんですか？」

レッド

「それが……僕にも分からないんです」

しら

「じゃあ、何かの力では……？」

レッド

「今は僕の手では読み解くことができません……」

しら

「……」

レッド

「でも、ここにいたら危険な予感がするかも。」

「ここから離れたほうがいいですよ」

しら

「……はい！」

しらはトアル広場から離れた……。

しら

「ペルソナ女神の像……」

izumi

「しらさんを探そう!」

izumiはしらを探す……。

ソニック

「アミテイ、アルルはどこだ!？」

ソニックは全速力であの2人を探す。

ソニック

「What? フェーリじゃねえか、何うるちよろしてんだ?」

フェーリ

「逃げ場所を探してるの……」

出来るだけ逃げ場所を確保させたほうが逃げやすいからね……」

ソニック

「それなら俺が探して来ようか?」

フェーリ

「いえ、アタシ一人で探すわ」

ソニック

「……(どうしようか)」

サタン

「アルル〜！どこだ〜！」

サタン、アルルを探している……。

アルル

「？何、サタン？」

アルルは隠者の草原に隠れている……。

サタン

「よかった、心配したぞ」

アルル

「サタン！こっちもだよ」

サタン

「今トアル広場に行ってきたんだが、レッドという奴、
「ペルソナ」を扱えるらしいぞ」

アルル

「ペルソナ！？ボク達が持つてる能力を？」

「またまたマスターから受け取ったんじゃないの？」

サタン

「いや、あいつは最初から使えているんだ・・・」

「多分上級のペルソナ使いらしいな、多分・・・」

アルル

「ペルソナにも格があるんだ・・・」

サタン

「あ、そうだ。話をそらすけど」

「ここからゴッドパークに近いぞ」

アルル

「え？そうなの？ソニック達も待っててくれるかな？」

サタン

「多分な・・・それとお前、裏切り者じゃないな？」

アルル

「え？何言ってるの？ボクは裏切り者じゃないよ？」

サタン

「そうか・・・さっき、電話でお前に2票入ってるんだが・・・」

アルル

「ええっ!？」

アルルが裏切り者か・・・？

無幻

「よし、ついた・・・」

無幻 はゴッドパークに到着する。

無幻

「あれがレバーだな・・・降ろすぞ!」

レバーを降ろそうとするが、降ろせない・・・

無幻

「あれ?あれ?何で降ろせないんだ!？」

何かの手によってか・・・？」

????

「どうしたんだ?」

赤い色の騎士の鎧をまとった騎士がやって来る……。

無幻

「お前は……マリオ!？」

マリオ

「……そうだ……」

実は俺、まだここまでは言えないが騎士なんだ。

家の事情があるからってごまかしてたんだ……」

無幻

「騎士……!?!?驚いた」

マリオ

「レッドは、知ってるな?あいつも騎士なんだ……」

無幻

「レッドもかよ……!?!?」

マリオ

「おっと、それは置いといて。レバーの前に立っててどうしたんだ?」

無幻

「レバーを降ろそうとしてるんだが降ろせないんだ……!」

マリオ

「それは……」「ある秘密」を解かなければならないんだ」

無幻

「ある秘密・・・？」

ある秘密とは・・・？次回に続く・・・。

謎と危機が迫る！（後書き）

ある秘密とは・・・？

ミッション1終了！(前書き)

ミッション1終了！

ミッション1終了!

ある秘密とは

マリオ

「太陽の神殿」近くにパスワードがあるんだ」

無幻

「パ、パスワード?それ入力しなきゃならないってことか」

マリオ

「俺が案内するからついて来てくれ」

2人は太陽の神殿に向かった。

ボム兵

「よし、ここなら来ないボム・・・」

ボム兵は月の砦の陰に身を隠す・・・。

しかし、裏切り者が見た・・・。

????

「ボム兵、月の砦周辺にいます・・・」

裏切り者の通報を受けたハンターが、ボム兵の確保へと向かう。

ボム兵

「うわっ、ちよっと、ハンター来たボムよ！」

ボム兵は一目散に逃げる。

ロイ

「え、何連れて来てんだあ!？」

偶然、近くにいたロイが巻き添えにされる……。

ボム兵

「逃げてボム！」

ハンターの標的は……。

ロイ

「俺!？」

ロイだ……。

ロイ

「嘘だ、嘘だ〜！！！」 ポンッ

> i 3 3 7 8 1 | 4 2 6 0 <

ロイ

「この俺が……」

ブルルルル

スライムマン

「メールです……！」

マルス

「『裏切り者の通報によって』」

ピット

「『ロイ確保』……うわあ、ロイ捕まっちゃったよ」

ヴィータ

「あいつ何してんだよ……！」

?????

「ちっ、おとなしく捕まればいいのによ……！」

怒る裏切り者・・・。

アルル

「ゴッドパークに着いたよ」

サタン

「よし、急いでおろそう」

2人は一緒におろすが・・・。

アルル

「あれ？おろせないよ!？」

サタン

「待てよ・・・これはパスワードを入力しないと無理みたいだ」

アルル

「本当・・・!?!?誰かパスワード教えて・・・!」

ブルルルル

アルル

「こんなときにメール・・・!?!?」

サタン

「無幻 さんからのメールだ・・・」

レムレス

「『皆、そのままレバーを降ろしてもだめなんだ』」

シグナム

「『パスワードがいり、それを入力した後に』」

しら

「『レバーを降ろさなければならぬんだ!』・・・」

カイクウ

「『太陽の神殿でパスワードが得られる』」

ドラコ

「『俺はまだ向かってる途中だが、着いたら教えるぞ!』」

アルル

「メールはここまでか・・・」

サタン

「今はここで待とう」

その頃、太陽の神殿内部にて……。

アイク

「レッドとマリオはまだなのか……？」

ペルソナ神団騎士団長、アイク……。

ピーチ

「任務は無事成功できたのかしら……？」

上級女騎士、ピーチ……。

マリオ

「ただいま、戻ってまいりました」

マリオと無幻 は神殿の中に入る。

無幻

「ここでパスワードが得られるのか？」

マリオ

「そうだ、ここは太陽の神殿……

俺等はペルソナ使いの騎士だ」

アイク

「パスワードを知りに来たのか……」

無幻

「教えてくれ、レバーのパスワードを」

アイク

「パスワードは……『8637』だ」

無幻

「『8637』……ありがとな！」

無幻 は礼を言い、城を出た……。

ブルルルル

アルル

「またメールだ……」

サタン

「無幻 さんからのメールだ
『パスワードが分かった。』」

パスワードは『8637』だ」

アルル

「無幻さん、ありがとう！」

2人はレバーを降ろす。

ガコン！

ミッションクリア

アルル

「やったあ！」

サタン

「冷や冷やした・・・」

プルルルル

ヴィータ

「お、ミッションクリア情報か」

小野妹子

「『アルル、サタン、無幻の活躍によって』」

カイクウ

「『ミッションクリア』・・・」

ドラコ

「先にミッションクリアしちゃったの〜!？」

ウィッチ

「動かない方が良かった・・・」

ヴィータ

「今回、早くミッションクリアしてくれたな・・・」

賞金は全部あたしの物だ・・・!」

金の事しか考えておらず、
ゲーム開始時からずっと隠れているヴィータ……。

サタン

「……ん！？まずい、ハンター来てるぞ！」

アルル

「え！？ミッションクリアした瞬間に何来てんの！？」

2人は一目散に別れて逃げる。

ハンターの標的は……。

アルル

「こっちろ！？」

元祖ぶよぶよ主人公、アルルだ……。

アルル

「ミッションクリアして調子あがって来たのに……！」

アルル、ハンターとの距離が徐々に縮まっていく。最早、逃走不可
能……。

アルル

「きゃ〜！」 ポンッ

> i 3 3 8 1 7 — 4 2 6 0 <

アルル

「うそ〜？ ミッションクリアした瞬間に……」

元祖ぶよぶよ主人公、敗北……。

ブルルルル

アミティ

「うわっ、気づかれちゃうよ、ハンターに……!!」

シエゾ

「確保情報、『ゴッドパーク付近にて、』」

レムレス

「アルル確保……!!」

クルーク

「無駄に動くところなるんだね……」

ヴィータ

「ミッションやるところっていう定めになるんだよ・・・
本当こいつバカだぜ・・・！」

サタン

「アルル〜！」

牢獄DEトーク

アルル

「もう嫌だよ・・・」

アルルは牢獄に入る。

ロイ

「おいおい、そんな落ち込むなよ
俺なんか何もしてないのに確保された方だぞ？」

ティアナ

「私だつて・・・」

エスピオ

「こっちなんかオープニングゲームで捕まってこのザマだぞ……！」

なのは

「アルルちゃんが捕まったのは意外だね〜」

アルル

「でも捕まったら牢獄にずっといなきゃなんないんでしょ？」

エスピオ

「それを考えると暇だ……」

キャラ

「意外な人が捕まっていくな〜……」

ハンターに怯えているキャラ……。

キャラ

「それにしても裏切り者は誰なんだろう……？」

裏切り者の正体が明かされるのは、後だ……。

ミッション1終了！（後書き）

ミッション1、終了したが・・・？

強制失格を免れよ！（前書き）

新たなるミッションが送られる！

そして、新たなる謎の組織が現れる・・・。

強制失格を免れよ！

ルイージ

「怖いなり、ハンター……」

僕、見つかったら即捕まっちゃいそうだよ……！」

ベクター

「チャーミーの奴は何してんだ……？」

キャロ

「最年少の私、機動六課のメンバーとして頑張らないと……！」

月の誓にて……。

ガノンドロフ

「ちっ、正義のペルソナ神団め……！」

皇帝の騎士、ガノンドロフ……。

ゼルダ

「太陽と月……勝つのは月よ」

女帝の騎士、ゼルダ……

デデデ

「あの組織を滅ぼしてやるゾイ……！」

法王の騎士、デデデ……。

ガノンドロフ

「いや、むやみに突撃してはこっちがやられる。
ここはある方法を使おう」

デデデ

「？ある方法って何だデ？」

ガノンドロフ

「勿論、あの邪魔者達を消す事だよ」

ガノンドロフは何かのスイッチを押し、
謎の装置を逃走者達の腕に取り付けた！

ガノンドロフ

「名づけて、『一網打尽』作戦……」

ブルルルル

シエゾ

「・・・うるせえ、何だよ・・・」

エリオ

「『逃走者達の腕に謎の装置が取り付けられた』謎の装置って、これ？」

クルーク

「『残り650分までに雷の塔の一階にあるカードキーを探し』」

天の助

「『謎の装置にスキャンしなければならない』」

ソニック

「『さもないと、強制失格になってしまう』はあ！？強制失格！？」

MISSION? 強制失格を免れよ!

逃走者達の腕に謎の装置が取り付けられた。

残り650分までに雷の塔の最上階にあるカードキーを探し、

謎の装置にスキャンしなければならない。

さもないと、強制失格になってしまう!

紀葉

「ななな、何だってええええええ!?!」

カルピスフロート

「ここで強制失格になりたくありません……!」

ヴィータ

「ケツ、また面倒なミッションが来やがったぜ」

レイくん

「30分しかないですか……」

少し慌てるレイくん。

ナナ

「嫌だよ、強制失格になるのは!」

ブロリー

「強制失格……許せん」

ソニック

「アミティと合流しねえと」

シャドウ

「誰かに出会う、これが優先だ……！」

りんご

「雷の塔って……これ？」

偶然雷の塔周辺にいたりんご。

りんご

「壁に雷の塔って刻まれてある……近いよ！」

りんごは雷の塔に入った。

りんご

「あつた！さて、スキャンするか」

りんごはカードキーを装置にスキャンする！

りんご

「早かった〜」

あんずひりんご「ミッシュンクニア

シャマル

「裏切り者……ハンター……二重にも重なってて怖いな……」

2体の恐怖に怯えている、シャマル……。

シャマル

「でも、ここはしっかりしないと……！」

だが、シャマルの近くに、ハンター……。

シャマル

「前……後ろ……ハンターが！」

シャマルは一目散に逃げる。

シャマルは建物の角を利用しながら逃げる。

ハンター

「……」

見失った……。

シャマル

「もう、ハンター来ないですよ……！」

しかし……。

???

「シャマル、隠者の草原にいます……」

裏切り者の通報を受けたハンターが、シャマルの確保へと向かう。

シャマル

「……えっ!? てっ、前方からハンター来た!？」

シャマルは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

シャマル

「いや〜!」 ポンッ

> i333829 | 4260 <

シャマル

「くそ〜、悔しい〜……」

プルルルル

シグナム

「確保情報……」

ヴィータ

「『裏切り者の通報によって』」

ナナ

「『シヤマル確保』裏切り者の仕業ね……!」

フェーリ

「誰なのよ、本当に……!」

スバル

「もつとも、悪いのは裏切り者よね……!」

驚き、怒りを見せる逃走者達……。

カイクウ

「強制失格か……いやなミッションだな」

嫌々ながらも、カードキーを探すカイクウ……。

首領パッチ

「あ、カイクウさんじゃないですか」

首領パッチ、カイクウと出会う……。

カイクウ

「首領パッチか、お前裏切り者じゃないよな？」

首領パッチ

「え？やだな、俺じゃありませんよー！」

カイクウ

「……心配だ」

カイクウ、いつの間にか首領パッチと合流……。

果たして、強制失格を逃れられるのか！？

強制失格を免れよ！（後書き）

果たして、強制失格を逃れられるのか！？

逃走者達、危機一髪（前書き）

危機一髪の逃走者達・・・。

逃走者達、危機一髪

聖徳太子

「妹子はどこだ〜!!!!!!」

大声で妹子を探す。その大声ではハンターに見つかってしまう・・・。

河合曾良

「？誰か大声を出しているバカがいますね・・・」

曾良は声を頼りに太子の方に向かう。

アコール

「先生もこのゲーム、ドキドキしますわ・・・」

プリンプ魔道学校の教師も、緊張感を味わっている・・・。

アコール

「ハンターに確保されたら賞金は0・・・。

こんなゲーム、ありませんよ・・・」

小野妹子

「太子はまだなのか・・・？」

雷の塔で太子を待っている遣隋使の妹子。

小野妹子

「太子と一緒にミッションクリアしよう・・・！」

意外と太子思いな、妹子・・・。

エリオ

「あ、フェーリさん」

フェーリ

「エリオ・・・偶然ね」

エリオ

「ここから近いんですからミッションいきましょつよ」

フェーリ

「分かってるわよ・・・今向かってる途中」

エリオ

「ごめんなさい、あ！前方からハンターが来てますよ！」

フェーリ

「え・・・！？」

2人は同時に後方に逃げる。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは気づいていない・・・。

2人

「・・・」

紀葉

「マジで、雷の塔じつ？」

ニコ厨の紀葉、雷の塔を探す……。

紀葉

「あ、ヘンタイシエゾ！」

シエゾ

「何ですか、そう呼ばないでください」

紀葉

「悪い、悪い、それより雷の塔どこ？」

シエゾ

「ここから遠いと思うが……一緒に合流するぜ」

紀葉

「サンキュー！」

紀葉、シエゾと合流……。

カルピスフロート

「逃走中……やはり緊張しますね」

現在、雷の塔周辺にいるカルピスフロート……。

カルピスフロート

「あ、妹子さん、何してるんですか？」

小野妹子

「太子を待つてるんです。貴方も解除しに来たんですか？」

カルピスフロート

「勿論ですよ・・・！」

小野妹子

「それはそうですね・・・雷の塔一階にカードキーありますよ」

カルピスフロート

「あ、ありがとうございます・・・」

カルピスフロートはカードキーをとる。

カルピスフロート

「この装置に、スキャンしてっ・・・」

スキャン完了。

カルピスフロート ミッションクリア

カルピスフロート

「他の皆さんもクリアしてるといいんですけど……！」

スライムマン

「あっ、ハンター来てます……！」

思うように動けない、スライムマン……。

スライムマン

「ハンターに見つかるで見つかるリスクが高まりますね……」

そのとおりだ……。

ルルー

「？スバルじゃない……」

ルルーはスバルの元に駆けつける。

スバル

「どうしたのルルー？」

ルルー

「シエゾ知らない？」

スバル

「あっ、そういえば紀葉さんと一緒に合流してたの見てたよ」

ルルー

「そうなの・・・」

雑談している2人の陰に、裏切り者が・・・。

???

「許せねえ・・・！」

スバル・ナカジマ、ルルー、魔術師の館周辺にいます・・・」

裏切り者の通報を受けたハンターが、2人の確保へと向かう。

スバル

「ちよつと、待って・・・誰か来たよ・・・！」

ルルー

「？誰なの・・・!？」

ハンター

「・・・」

見つかった……。

スバル

「ハンターよ！逃げよう！」

ルルー

「こんな時に……!!！」

2人は一目散に逃げる。そのハンターの標的は……。

ルルー

「こつち……!?!」

格闘女王、ルルーだ……。最早、逃走不可能……。

ルルー

「ぎゃあああああ！」 ポンッ

> i33902 — 4260 <

ルルー

「うそ……!?!?しかも裏切り者の仕業って……!」

格闘女王、ここに散る……。

ブルルルル

エックス

「ん！？何だ・・・！？」

ゼロ

「また確保情報か・・・！」

リデル

「『裏切り者の通報によって』」

シエゾ

「『ルルー確保』おい、裏切り者、フザけんよ！」

ナナ

「本当に、誰・・・！？」

アミティ

「うわわわわ・・・裏切り者のせいでどんどん捕まって行くよ・・・
！」

「早くソニックと合流しないと・・・！」

ソニック

「おっと、意外に早く着いたぜ……」

ソニック、雷の塔に到着……。

ソニック

「Et? なにしてんだこんな所で?」

小野妹子

「太子を待つてるんですよ……」

ソニック

「太子、か……何してんだろ、That guy」

ソニックは雷の塔に入り、カードキーをとる。

ソニック

「Well, you'll scan!」

ソニック・ザ・ヘッジホッグ ミッションクリア

ソニック

「アミティ、どこに行っただ？」

ソニックはアミティを探す。

聖徳太子

「妹子とツナは、仲良しtonight!

枕の中は、ツナでいっぱい」

河合曾良

「何下らない歌歌ってんですか？」

聖徳太子

「なっ！下らないとは何だ！これは私の最高傑作の歌だぞ！」

河合曾良

「（やっぱり太子さんは太子さんか・・・）」

バカやっていると強制失格になりますよ?」

聖徳太子

「バカではない!最高の歌だ!」

河合曾良

「そっちじゃありません」

果たして、強制失格になってしまふ者は、誰だ!?

逃走者達、危機一髪（後書き）

果たして、強制失格になってしまう者は、誰だ！？

万事休す・・・(前書き)

強制失格を免れていない逃走者達は、うまく、免れるのか!?

万事休す・・・

しら

「着いた・・・」

しら、雷の塔に到着・・・。

しら

「あ、妹子さん！何でそこに立ってるんですか？」

小野妹子

「太子を待ってるんですよ・・・」

しら

「太子さんがまだ来ないとは・・・」

しらはカードキーをとる。

しら

「スキャンです！」

しら ミッションクリア

しら

「危なかったです・・・」

レムレス

「?何揉め事をしてるんだろ・・・」

レムレスはあの二人の元に駆けつける

河合曾良

「とにかくその変な歌はやめろ!」

聖徳太子

「何を言う!この歌は・・・」

二人の喧嘩でレムレスはキレル。

レムレス

「いいかげんにするんだ!!!」

そのレムレスの叫びで、喧嘩はおさまった・・・。

河合曾良

「な、何ですか」

レムレス

「喧嘩やってないで、カードキーを探すんだ！
強制失格になるぞ君たち……！」

聖徳太子

「そ、それはわかってるぞ……」

河合曾良

「そうですね……こんな下らない喧嘩をやってるより
カードキーを探した方がいいですね……」

聖徳太子

「下らないとはなんだ……！」

レムレス

「また喧嘩を起こす気か……！」

アミティ

「どこへ、ソニック……？」

リデル

「あ、アミティさん……」

リデルが草むらからアミティをたずねる。

アミティ

「どづしたの？」

リデル

「今アミティさんの前方にハンターがいるんですよ……だから隠れてください……」

アミティ

「えっ、本当？」

アミティはリデルの傍に隠れる。

リデル

「アミティさん……何か変だと思いませんか？」

アミティ

「変？何が？」

リデル

「いえ、何でも……ありません」

アミティ

「そうなの？」

シエゾ

「紀葉さん、雷の塔の位置はわかりますか？」

紀葉

「いやw当然わからんよw」

シエゾ

「（さすがニコ厨・・・）あ。妹子いますよ」

小野妹子

「？何しに来たんですか？」

シエゾ

「当然、強制失格から免れる為だ・・・」

お前こそ、何してる？強制失格になっちまうぞ・・・！」

小野妹子

「太子を待ってるんですよ・・・！」

紀葉

「先カードキースキャンしといたら？」

その時、あの3人が来た・・・。

小野妹子

「おつ、太子さんと曾良さんとレムレスさんが来ました！」

紀葉

「おお〜！！！！やるなWWW」

聖徳太子

「うおおおおお！妹子すまああああん！」

河合曾良

「レムレスさんも来ましたよ」

レムレス

「あゝ、大変だった・・・」

小野妹子

「さて、皆でスキャンしましょう」

妹子はカードキーで自分も含めて皆の装置にスキャンする。

聖徳太子、小野妹子、河合曾良、紀葉、シェゾ、レムレス ミッシ
ヨンクリア

紀葉

「一気に六人もW」

エリオ

「フェーリさん、もうちょっとで着きますよ!」

フェーリ

「勿論よ・・・!」

だが、雷の塔周辺に、ハンター・・・。

後方からも、ハンター・・・。

エリオ

「あつ、前方からハンターが来てますよ!」

フェーリ

「え!?じゃあ後方に・・・」

エリオ

「駄目です!後方からもハンター来てます!」

フェーリ

「嘘……鳥か」の中の鳥と同じじゃない!」

万事休すだ……。

後方にいるハンター

「……」

見つかった……。

前方にいるハンター

「……」

更に、見つかった……。

エリオ

「うわああああ!どうしましょう!」

フェーリ

「逃げるしかないワ!レムレス先輩!皆!
ハンター来てるから逃げて!!」

フェーリは大声で6人に知らせる。

聖徳太子

「免れてこれかああああ!??」

紀葉

「マジパネエエエエ!!」

シエゾ

「こんな所で捕まりたくないぜ・・・！」

挟み撃ちにされた8人は、逃げ切れるのか!?

万事休す・・・（後書き）

挟み撃ちにされた8人は、逃げ切れるのか!?

大勢の危機（前書き）

さらに鬼畜な通達が送られる・・・。

大勢の危機

エリオ

「挟み撃ちです！」

小野妹子

「折角クリアしたのに何でハンター来るんだ!!」

8人は一目散に逃げる。

2人のハンターの標的は……。

レムレス

「もう嫌だああああ」

聖徳太子

「また私かああああ」

彗星の魔道士、レムレスと摂政、聖徳太子だ……。

ハンター

「悔しいぞ〜！！！！！！！！」

2人、まさかの敗北・・・。

プルルルル

シエゾ

「ん！？まさか・・・」

湊

「『雷の塔周辺にてレムレス、聖徳太子確保』・・・」

フェーリ

「先輩、捕まっちゃったの！？」

紀葉

「二人も捕まるとは・・・w」

リデル

「本当は、何か変なニオイがするんですけど……」

アミテイ

「変なニオイ？何それ？」

リデル

「あの皆みたいなの建物から、何か雷を放ってるような……」

月の皆にて……。

デデデ

「皆あの作戦を免れてますぜ……」

ガノンドロフ

「チツ。なら今度は……」

ガノンドロフは、スイッチを押し、
街のそこらじゅうに通報部隊を設置した……。

ブルルルル

ヴィータ

「あ！？何だよ・・・また確保情報か！？」

ナックルズ

「これは通達2だ・・・」

ソニック

「『謎の組織によって通報部隊が設置された』はあ！？フザケンなよ」

ヴェントウス

「『なお、この通報部隊は650分まで出動する』・・・」

シグナム

「どれだけ強制失格にさせたいんだこいつは・・・！」

ノコノコ

「更に通報部隊・・・かなり鬼畜なミッションになってきてます・・・！」

天の助

「もうやめてええええええ」

スライムマン

「くっ、通報部隊までとは……どうなってるんですか」

ミッションに悩む、スライムマン……。

通報部隊、裏切り者、ハンター……。3重の恐怖に重なる！

ゼロ

「通報部隊……フザケンなよ」

ゼロの背後に、通報部隊が……。

通報部隊 A

「ピーッ！！！！！！」

ゼロ

「しまった！笛で知らされた！」

ゼロ、万事休す！

それに巻き添えにされた者は……。

のび太

「ぎゃあああああ」

野比のび太だ……。

ゼロ

「通報部隊だ、逃げるぞ」

のび太

「嫌だあああ」

ハンターの標的は……。

のび太

「無理〜！」

野比のび太だ・・・。

のび太

「ドラえもん!!!!!!」

ポンッ

> i 3 4 0 5 5 — 4 2 6 0 <

のび太

「僕はただのバカだああああ」

プルルルル

ヴィータ

「確保情報か・・・!?!」

ドラえもん

「『通報部隊の通報によって』」

ジャイアン

「『のび太確保』こいつバカじゃねえの？」

静香

「情けねえ！もっと粘れただろ！！」

ブロリー

「ゴミが・・・」

シャドウ

「やっぱりこいつは逃走中に向いてないな・・・」

牢獄

レムレス

「来たね」

のび太

「くそ〜！通報部隊の最初の犠牲者になるとは〜！！！！！！！！」

ティアナ

「もっと頑張れたんじゃない？」

ルル

「そんなマイナス思考じゃ・・・」

アルル

「ゼロが通報されてのび太が捕まったみたいだね」

レムレス

「僕なんか強制失格から免れたのにハンターが来て捕まっちゃったよ・・・」

聖徳太子

「私も同意見だ」

一方、逃走者の方は・・・。

リデル

「通報部隊・・・怖いです！」

アミティ

「このまま隠れていれば、大丈夫だって！」

しかし、2人の背後に、通報部隊が……。

通報部隊B

「ピーッ！……！！！」

笛を鳴らす……。

リデル

「即座に見つかっちゃいました……！」

アミティ

「とにかく逃げよ……！」

リデル、アミティ、逃げ切れるか！？

大勢の危機（後書き）

リデル、アミティ、逃げ切れるか!?

3重の恐怖（前書き）

果たして、逃走者達は強制失格から免れることが出来るのか!？

3重の恐怖

通報部隊に見つかったリデルとアミティ。

果たして、逃げ切れるのか!?

リデル

「はあ、はあ、はあ……」

アミティ

「捕まりたくない!!!!」

2人は一目散に逃げている。

ハンターの標的は……。

アミティ

「うそうそ!?!来たよ!?!」

アミティだ……。

さらに、巻き添えにされた者は……。

ソニック

「Yeah! ?俺!？」

ソニックだ……。

アミティ

「ソニック!」

ソニック

「通報部隊の仕業か……俺の手を掴んでな!」

アミティはソニックの右手を掴む。

ソニックはそのまま全速で走る!

ハンター

「……」

見失った……。

アミティ

「ゼー、ゼー……あー、助かった……」

ソニック

「危機一髪だな……」

アミティ

「本当、通報部隊って厄介なんだよね……
謎の組織って、何がしたいのやら……」

ソニック

「それはともかく、強制失格にならない為に
急いでカードキーを取りにいこうぜ！」

アミティ

「でもこっから遠いよ？どうすんの？」

ソニック

「大丈夫、また俺の手を掴んでくれ！」

アミティはまたソニックの右手を掴む。

ソニックはそのまま雷の塔へ走っていった……。

クルーク

「通報部隊……裏切り者……ああ、ゾツとする」

クルークはそう放ちながら、雷の塔に到着する。

クルーク

「まっ、でも危なくなったら自首すればいいだけだし」

クルークはカードキーをスキャンする。

クルーク ミッションクリア

クルーク

「まっ、当然だね！次は隠れ場所を探そう」

エリオ

「やっと着きました・・・」

フェーリ

「早くスキャンしましょう・・・！」

2人は雷の塔に入り、装置をスキャンする。

エリオ・モンディアル、フェーリ ミッションクリア

エリオ

「さて、この場から離れましょう」

フェーリ

「OK・・・！」

2人は別々に分かれて行動した。

ソニック

「おっ、早く着いた」

あの2人は、雷の塔に到着する。

アミティ

「さて、スキャンしよー！」

スキャン完了。

アミティ ミッションクリア

ソニック

「これでお前も仲間入りだな」

アミティ

「助かった〜・・・」

ラフィーナ

「あら、ゼロさんじゃない？何息切らしてんの？」

ゼロ

「今通報部隊に追われて……」

ラフィーナ

「それなら捕まらないように動けばいいじゃない」

ゼロ

「それはわかってるんだけどさ……」

通報部隊やハンターは神出鬼没なんだよ……！」

ラフィーナ

「うん……私に着いて来て」

ゼロ

「え？なんで？」

ラフィーナ

「良い手があるの」

ゼロ、ラフィーナと合流……。

リデル

「怖いです……3重の恐怖……耐え切れません……！」

だが、その近くに、ハンター……。

リデル

「あつ、おにいさま！」

サタン

「何だリデル？ていうか「おにいさま」って呼ばないでくれ」

リデル

「あの……雷の塔はどこか分かりますか？」

サタン

「まだ言っていないから分からん……」

あつ、お前の後方からハンター来てるぞ！」

リデル

「ええつ、本当ですか……？」

サタン

「急いで隠れよう！」

2人は急いで隠れる。

ハンター

「……」

しかし、ハンターは、気づいていない……。

サタン

「よし、このままやり過ごせな……！」

リデル

「逃走中……やっぱり怖いです……！」

シャドウ

「りんごじゃないか」

りんご

「シャドウ君、ミッションクリアしたの？」

シャドウ

「勿論まだだ。今から向かうところだ」

りんご

「それなら雷の塔に案内するから一緒に来て」

シャドウ、りんごと合流・・・。

????

「ソニックか・・・」

????はソニックを発見する。

????

「ククク・・・逃走成功の大本命さんよ・・・精々苦しんで死ぬがいい・・・!」

????は携帯を取り出す。

????

「ソニック・ザ・ヘッジホッグ、法王の城周辺にいます・・・」

裏切り者の通報を受けたハンターが、ソニックの確保へと向かう。

ソニック

「ここまで来れば、心配なしと・・・ておわっ!!
ハンターいないのに何でくるんだ!!!!!!?」

ソニック・ザ・ヘッジホッグ、逃げ切れるか!?

3重の恐怖（後書き）

現在クリアしている者は、

あんどურიんご、カルピスフロート、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、
しら、

小野妹子、河合曾良、紀葉、シエゾ・ウィグイイ、クルーク、

エリオ・モンディアル、フェーリ、アミティの12人。

果たして、残りの逃走者達は強制失格から免れることができるのか
！？

天国と地獄（前書き）

ソニックは、無事逃げ切れるか！？

天国と地獄

ソニック

「嫌だ嫌だ、こんな所で捕まりたくねえよ!!」

さらに、巻き添えにされた者は……。

カイクウ

「おい、ソニック!何つれてきてんだよ!!」

首領パッチ

「首領パッチピンチ!!」

カイクウと首領パッチだ……。

ソニック

「I'm sorry!!」

ハンターの標的は……。

カイクウ

「お、俺!？」

作者さんの一人、カイクウだ・・・。

カイクウ

「あぎゃああああ」 ポンッ

> i 3 4 0 8 6 — 4 2 6 0 <

カイクウ

「この俺が・・・やられるだ!？」

作者さんの一人、敗北・・・。

プルルル

ソニック

「まさか・・・」

izumi

「『法王の城周辺にて』」

スライムマン

「『カイクウ確保』カイクウさん、捕まっちゃったんですか・・・！」

首領パツチ

「助けなかった俺も悪いからあやまります、
ごめんなさいカイクウさん！」

???

「くそっ！うまく行かなかったか・・・」

izumi

「あつ、新八さん・・・」

新八

「izumiさん！ミッションクリアしましたか？」

izumi

「いえ、まだ何ですが・・・」

新八

「そうなんですか・・・一緒に合流して探しませんか？」

izumi

「本当ですか！？ありがとうございます」

izumi、志村新八と合流・・・。

ドンキー

「ウホホ！賞金がどんどん溜まって行くぞ！」

バナナ目当ての、ドンキー・・・。

その時。

プルルルル

ドンキー

「ウホ？何だ？」

まぐる

「もしもし、まぐるだけとさ……」

オサレでマイペースな、ささきまぐるだ……。

ドンキー

「ウホ、何だ、まぐるか」

まぐる

「君、裏切り者じゃない？」

ドンキー

「ウホ！？違うぞ、断じて」

まぐる

「そうか……君に3票入ってるんだけど」

ドンキー

「ウホ！？」

誰が裏切り者なのか分からない……。

ピット

「……」

ピット、雷の塔に到着。

ピット

「カードキーがある、スキャンだ！」

ピットは装置にカードキーをスキャンする。

ピット ミッションクリア

ピット

「スマブラメンバーでクリアしてるのは僕だけか……」

太陽の神殿にて……。

レッド

「ただいま、戻ってまいりました」

レッド、太陽の神殿に到着・・・。

アイク

「女神ペルソナ像の様子はどうか？」

レッド

「特に変わったことはありませんでした・・・

でも、女神ペルソナ像の目の前に

メッセーじが書かれてある手紙が地面に落ちてました」

アイク

「？その手紙の内容は？」

マリオ

「俺も気になるんだが・・・」

レッド

「ちょっと読んでみますね」

レッド

「

『法王の城周辺にて

救いの手がこの国にたどり着いた。
しかし、しばらくするとその救いの手は
消えてしまう……」

メッセージはこれだけですな……」

ピーチ

「なに、救いの手って……？」

マリオ

「何だか知らんが、女神ペルソナ像からの手助けか？」

レッド

「手助け……」

アイク

「もしそれが本当の話だったら、

あの「月の神団」の奴等を一網打尽出来る……！」

レッド

「この運命の騎士、レッドが負けるわけには行きません！」

マリオ

「ああ、こっちも同じだ。

この星の騎士、マリオが倒してくれるわ……」

ピーチ

「勿論よ、この恋愛の騎士、ピーチに任せてらっしゃい！」

アイク

「一人一人団結して勝とう・・・この太陽の騎士、アイクと共にな」

4人は月の神団を倒す事を決意する・・・。

その時、

プルルルル

ピット

「またメール！？最近メールが多いな・・・」

フォックス

「『通達3、法王の城付近にてアイテムが設置された』アイテム！？」

順平

「『残り650分までそのアイテムは設置されている』」

ドラコ

「『手に入れないか入れるか、逃走者達の自由だ』
凄い、あたし達有利じゃん！」

ルイージ

「まさに、「救いの手」だね……！」

通達3 アイテムを手に入れる！

法王の城付近にてアイテムが設置された。
残り650分までそのアイテムは設置されている。
手に入れないか入れるか、逃走者達の自由だ……。

クツパ

「手に入れるしかないな……！」

パルポン

「おっしやあ！手に入れてやんぜ！！」

無幻

「行くしかないな・・・強制失格の方も大事だが」

ウルフ

「アイテム・・・」

キャラ

「着いた・・・！」

キャラ、雷の塔に到着・・・。

首領パッチ

「俺もついたぜ！」

さらに、首領パッチも・・・。

スライムマン

「着きました」

作者さんの一人、スライムマンも着いた・・・。

ドンキー

「ウホ、着いた着いた!」

さらに、ドンキーも……。

キャロ

「さて、行きましょう」

キャロは自分を含めて全員の装置にカードキーをスキャンする。

キャロ・ル・ルシエ、首領パッチ、スライムマン、ドンキーコング
ミッションクリア

首領パッチ

「それにしてもさあ、何かおかしくねえか?」

キャロ

「え?何がですか?」

首領パッチ

「ほらあ、だつてさあ、残り650分まであと15分だよ?
それでも17人ぐらいしかクリアしてねえって……」

ドンキー

「それは……確かに不思議だな、ウホ」

スライムマン

「きつと何かひっかけがあるんですよ・・・」

4人は時間の進みに悩む・・・。

天国と地獄（後書き）

4人は時間の進みに悩む・・・。

時の猶予（前書き）

突然起こったハプニング・・・。

時の猶予

パルポン

「おっと、ハンターが……！」

パルポンはすぐに身を隠す。

パルポン

「あぶねっ！アイテムを手に入れるのは中々難しいな……」

そう、アイテムを手に入れるのは、困難だ……。

リデル

「ああっ、雷の塔です……」

サタン

「着いて良かった。さあ、さっさとスキャンするぞ」

2人は装置にカードキーをスキャンする。

リデル、サタン ミッションクリア

サタン

「急いでこの場から離れよう！」

リデル

「はい、おにいさま〜」

サタン

「だから、」おにいさま、って呼ぶな」

その時……。

残り時間 660:12

残り時間 660:11

残り時間 660:10

残り時間 660:10

タイマーが突然停止した・・・。

ドンキー

「ウホ！？タイマーが止まったぞ！？」

スバル

「何よ、これ！？」

アミテイ

「まさか、第二の試練！？」

リンク

「故障・・・？ああっ、他の時計を見たら全ての時が止まってる！」

プルルルル

デイデュー

「もう、何だよ！？」

ウルフ

「通達4・・・通達多いな・・・！」

シエゾ

「『逃走中、いや、全ての時が止まった』時が止まった！？」

パルポン

「『強制失格のミッションで最後に残っている
スキヤンできなかった一人の者がいる』」

ピット

「『その一人は強制失格となる』・・・」

ユウちゃん

「ええっ、一人になって強制失格？」

通達4 最後の一人を免れよ！

逃走中、いや、全ての時が止まった。

強制失格のミッションで最後に残っている
スキャンできなかった一人の者がいると、
その一人は強制失格となる。

クツパ

「最後の一人にはなりたくないのだ！」

ファルコ

「ん？誰かいるのか？」

ファルコはその誰かの元に駆け寄る。

その正体は……。

ハンター

「……」

ハンターだ……。

見つかった……。

ファルコ

「ぎゃぴ〜!!!」 ポンッ

> i 3 4 1 0 1 — 4 2 6 0 <

ファルコ

「俺は誰も人を助けることを出来なかったぜ……」

秒殺だ……。

プルルルル

ウルフ

「ん!?なんだ?」

フォックス

「『星の花時計周辺にて』」

デント

「『ファルコ確保』……」

荒垣

「何やってんだあの隼……」

真田

「あの意気込みは何処に行ったんだ」

牢獄

エスピオ

「おい、時間が止まったぞ」

アルル

「何でだろ？ボク達が何かしたのかな……？」

ティアナ

「17人ぐらいしか、クリアしてなかったからじゃない？」

聖徳太子

「くそ、こつなつたら私も時が止められた感じを味わいたかつたぜ！」

レムレス

「すでに味わってるじゃん……」

一方、逃走者の方は……。

ブルース

「アイテム……発見」

ブルースは法王の城に着き、アイテムを手に入れる。

ブルース

「通報部隊捕らえ網」か……」

通報部隊捕らえ網

この網で通報部隊を一人捕らえれば一人除外できる。
さらに他の一人が巻き添えになるとその通報部隊も除外される。

ブルース

「通報部隊、か・・・」

ブルースは便利なアイテムを手に入れた・・・。

はやて

「怖いなく、ハンターも。あっ、あの子に電話しよつと」

はやては電話を取り出す。

はやて

「もしもし?」

まぐる

「あっ、はやてちゃん?誰に多く入ってるか分かった?」

はやて

「今ん所は」

フェーリっていう子に1票。
小野妹子っていう子に2票。
アルルっていう子に2票。
ドンキーっていう奴に3票。
ソニックっていう奴に1票。
ゼロっていう奴に2票。
数えるのって、大変やわ〜・・・」

まぐる

「こつちも調べてみたんだけど、今の所は

エコロに3票。

りんごちゃんに2票。

エリオ君に1票。

デイディー君に2票。

キャロちゃんに4票。

シェゾ君に2票。

キャロちゃんが多いね〜・・・」

はやて

「あれ、4票も入つとるんか！？だとしたら・・・」

まぐる

「キャロちゃんが裏切り者・・・！？」

誰が裏切り者なのか、分からない・・・。

時の猶予（後書き）

一体、誰が裏切り者なのか！？

間に合え逃走者達よ(前書き)

時間が止まった・・・。

間に合え逃走者達よ

松尾芭蕉

「あつ、曾良君!？」

河合曾良

「芭蕉さんですか。どうしたんですか？」

松尾芭蕉

「雷の塔の位置知らない？」

河合曾良

「知ってますけど・・・」

松尾芭蕉

「それならそこまで案内して!」

河合曾良

「ええ。わかりました」

松尾芭蕉

「ありがとう、曾良君!」

松尾芭蕉、河合曾良と合流・・・。

ラフィーナ

「で、例の話だけど」

ゼロ

「なんだよ」

ラフィーナ

「裏切り者が3人以上通報してるのは知ってるわね？」

ゼロ

「勿論、知ってるぜ」

ラフィーナ

「その裏切り者を確保させる手を考えたのですわ」

ゼロ

「どんな手だ？」

ラフィーナは静かに話す。

ラフィーナ

「まず貴方が囿になって

それを通報した奴にハンターを誘導するのよ

それなら裏切り者は捕まるから」

ゼロ

「えっ、今かよ？」

ラフィーナ

「もし通報されたらですけど。」

「まあ、頑張ってますわ！」

ラフィーナはその場から去っていった。

ゼロ

「誘導作戦か・・・中々良い手だな」

シグ

「そろそろ自首しようかな・・・」

自首とは、各エリアにある電話ボックスで自首を報告する事で、それまでの賞金を獲得出来る・・・。

シグ

「でも、まだ早いかな・・・」

izumi

「雷の塔・・・あれですか！」

新八

「急いでスキャンしましょう！」

2人は雷の塔に入り、装置にカードキーでスキャンする。

izumi、志村新八 ミッションクリア

izumi

「ふっ・・・」

新八

「危機一髪ですね・・・」

ドラコ

「あー、パラガスじゃん」

パラガス

「ドラコよ……」

ドラコ、パラガスと出会う……。

ドラコ

「こんな所で何やってんの？」

パラガス

「今雷の塔を探してるんだが……」

ドラコ

「が？」

パラガス

「……ど……ど……」

ドラコ

「へっ？ど……って、愚者の病院近くだけど」

パラガス

「そうか、忝い」

ドラコ

「迷子になってたんだ。雷の塔はすぐ近くだよ……」

パラガス

「恩にきる」

ドラコ

「それじゃあ」

ドラコは雷の塔に向かって走っていった……。

パラガス

「まさかこの親父が迷子になるとは……。」

ゼロ

「ちよつ、ハンター来てる！」

ゼロは別の所に身を隠す。

ゼロ

「？宝箱が……」

ゼロは宝箱を開ける。

ゼロ

「冷凍銃・・・！」

冷凍銃

ハンターに向けて氷の霧を放つと
1分間の間ハンターの動きを止めることが出来る。
ちなみに使用回数は1回。

ゼロ

「俺向きのアイテムが来たぜ・・・！」

その時、目の前にドラコが通り過ぎる。

ゼロ

「（・・・？ドラコか・・・）」

ドラコの後方に、ハンター・・・。

ゼロ

「（ハンター来てる・・・！）」

ハンター

「！」

見つかった・・・。

ドラコ

「もうすぐ、もうすぐだ……って嫌〜!〜!」

ドラコは一目散に逃げる。

ゼロは冷凍銃を持ち、自分から堂々とハンターの前に飛び出す。

ドラコ

「ゼロ!?!」

ハンター

「!」

見つかった……。

ゼロ

「おらあ!〜!」

ゼロはハンターに向けて冷凍銃で氷の霧を放つ!

ハンター

「……」

ゼロ

「イレギュラーハンターを甘く見るなよ」

ハンター、凍る……。

ドラコ

「あ、ありがとう」

ゼロ

「いいって。あ、急いで雷の塔目指そうぜ」

ドラコ

「OK！」

2人は雷の塔に向かった。

紀葉

「おっ、ドンキーじゃん」

ドンキー

「ウホ！紀葉さんじゃないですか」

紀葉

「こっち、ドンキー好きなんだよねw」

ドンキー

「ウホ！？俺のファンがいたんですか」

紀葉

「ファンというか・・・何て言えばいいんだろw」

ドンキー

「ウホ、まあ、俺が好きっていうことですかな？」

紀葉

「そうそう！それw」

ドンキー

「ウホ、そういう事だったんですね。

話を逸らすけど、アイテム取りに行きませんか？」

紀葉

「うーん、ハンターいるしな・・・」

ドンキー

「あゝ、そっか、ハンターも裏切り者も通報部隊もいるし・・・」

思うように、動けない、2人・・・。

間に合え逃走者達よ(後書き)

果たして、強制失格を免れる者はいるのか!?

有利と不利（前書き）

気合を入れていく逃走者達・・・。

有利と不利

スバル

「機動六課のリーダーの為に、負けないんだから！」

機動六課のリーダー、スバル・ナカジマは気合を出す……。

スバル

「えっ、ちよつと待って……？ハンター！」

スバルは一目散に身を隠す。

スバル

「折角気合入れてきたのに……」

プルルルル

アミテイ

「ん？シエゾ？」

シエゾから電話だ……。

シエゾ

「……」

シエゾは辺りを見回す。

アミティ

「シエゾ？」

シエゾは電話を切る。

アミティ

「えっ？何……？無言電話！？」

その時、裏切り者がアミティの姿を捉えた……。

???

「アミティ、ゴッドパーク周辺にいます……」

裏切り者の通報を受けたハンターが、アミティの確保へと向かう。

アミティ

「まさか……って来ちゃったハンター……！」

アミティは一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターに適うわけがない。最早、逃走不可能……。

アミティ

「ぎいやー!!」 ポンッ

> i 3 4 1 5 8 | 4 2 6 0 <

アミティ

「もう、信じらんない……シエゾ最低……」

ブルルルル

クルーク

「確保情報」

アコール

「『裏切り者の通報によって』」

ブルース

「『アミティ確保』裏切り者め……!」

ソニック

「アンヒリパボUnbelievable!」

孫悟空

「アミティが確保されちまっただ・・・」

izumi

「ただ通報したら気が済むんですか・・・！」

パルポン

「これがアイテムか。中身は無敵サングラスか！」

無敵サングラス

これをかけると1分間の間、ハンターに追われなくなる。

パルポン

「これはいいアイテムを手に入れたぜ・・・！」

小野妹子

「おっと、ディディーさんじゃないですか」

ディディー

「妹子君、ミッションクリアしたの？」

小野妹子

「はい。クリア出来てないんだっいたら良かったら案内しましょうか？」

ディディー

「有難う！」

ディディー、小野妹子と合流・・・。

ブロリー

「ダメ親父はどこだ〜？」

ブロリーはそう放ちながらも雷の塔に到着する。

ブロリー

「あの親父、先にクリアしてるといいんだが・・・」

ブロリーはカードキーで装置にスキャンする。

ブロリー ミッションクリア

ブロリー

「ここで待つか・・・」

ゼロ

「よし、着いた・・・！」

ドラコ

「同時にスキャンしよう……！」

ゼロ

「OK……！」

ゼロはカードキーで装置にスキャンする。

ゼロ、ドラコケンタウロス ミッションクリア

ドラコ

「もうっ、しんどいよ……」

ウィッチ

「そろそろ行動しようかしら……」

ゲーム開始時からずっとベンチの下に隠れているウィッチ……。

ウィッチ

「ハンターもいなさそうだし……動きましよう」

しかし、ウィッチの背後に、通報部隊が……。

ウィッチ

「雷の塔は……あ？あれかしら？」

ウィッチはその塔に向けて走る。

しかし……。

通報部隊C

「ピーッ……！！……！！」

ウィッチ

「しまった！見つかったちゃいましたわ！」

ウィッチは一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターに適うわけが無い。最早、逃走不可能……。

ウィッチ

「おいつす〜!!」 ポンッ

> i 3 4 2 0 1 — 4 2 6 0 <

ウィッチ

「何故〜・・・こんな筈じゃなかったのに・・・」

動いたらハンターに見つかるリスクが高まる、それが逃走中だ・・・。

プルルルル

サタン

「『通報部隊の通報によって』、」

しら

「『ウィッチ確保』・・・!」

ヴィータ

「やっぱり、動いたら捕まるのは逃走中らしいな・・・」

牢獄

ウィッチ

「悔しいよ〜!!」

ウィッチは牢獄に入る。

アルル

「魔道キャラは殆ど捕まっちゃったね・・・」

ルルー

「裏切り者も、通報部隊も、厄介だわ!」

シヤマル

「逃げ切れる人っているのかしら・・・?」

カイクウ

「分かんねえじゃねえかよ。誰かが逃げ切る人は」

アミテイ

「誰でもいいから逃げ切って〜!」

現在クリアしている者は、
あんどおりんご、カルピスフロート、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、
しら、
小野妹子、河合曾良、紀葉、シエゾ・ウイグイイ、クルーク、
エリオ・モンディアル、フェーリ、ピット、キャロル・ルシエ、
首領パッチ、
スライムマン、ドンキーコング、リデル、サタン、izumi、志
村新八、ブローリー、
ゼロ、ドラコケンタウロスの23人。

果たして、残りの逃走者達は強制失格から免れることができるのか
！？

有利と不利（後書き）

現在クリアしている者は、

あんどურიんご、カルピスフロート、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、
しら、

小野妹子、河合曾良、紀葉、シエゾ・ウイグイイ、クルーク、

エリオ・モンディアル、フェーリ、ピット、キャロ・ル・ルシエ、
首領パッチ、

スライムマン、ドンキーコング、リデル、サタン、izumi、志
村新八、ブローリー、

ゼロ、ドラコケンタウロスの23人。

果たして、残りの逃走者達は強制失格から免れることができるのか
！？

強制失格解除（前書き）

はやてとまぐろはまだ投票されている人を探している・・・。

強制失格解除

デイディー

「やった〜、着いた〜」

小野妹子

「じゃあ急いでスキャンしましょう」

デイディー

「うおっしや!」

デイディーは装置にカードキーでスキャンする。

デイディー コング ミッションクリア

デイディー

「ありがとう、妹子君!」

小野妹子

「大したことありませんよ。あれ?誰か来てますね」

その誰かとは……。

松尾芭蕉

「あつた〜!!!!!!」

江戸時代の俳人、松尾芭蕉だ・・・。

河合曾良

「あの、急いでくれませんか？」

芭蕉は雷の塔に入り、急いで装置にスキャンする。

松尾芭蕉 ミッションクリア

松尾芭蕉

「助かった、曾良君、ありがとう！」

河合曾良

「いえ、たいしたことじゃありません」

デイディー

「オイラって「早くしろ」っていう言葉嫌いなんだよね」

小野妹子

「それ今言うことですか？」

シャドウ

「よし、着いたぞ・・・！」

次々とたどり着いて行く逃走者達・・・。

シャドウ

「急がないと強制失格になっちまうからな・・・！」

りんご

「あつ、待って！」

途中で一緒に合流している、りんご・・・。

シャドウ

「これがカードキーか・・・」

シャドウは装置にカードキーでスキャンする。

シャドウ・ザ・ヘッジホッグ ミッションクリア

シャドウ

「?こんな所で何してんだ？」

デイディー

「いや別に・・・とにかく分かれよう」

デイディー達は1人に分かれた。

パルポン

「おっと、ハンターいるよ・・・！」

パルポンは慎重に雷の塔へ進む。

パルポン

「鬱陶しいのは当たり前だけど、通報部隊も裏切り者も厄介だよ・・・！」

ヴィータ

「ギリギリまで待つか・・・」

ゲーム開始時からずっと動いていないヴィータ・・・。

ベクター

「つ、通報部隊だ・・・！」

ベクターはすぐに身を隠しながら逃げる。

通報部隊には対抗できない・・・。

エックス

「うわっ！？何だこの幽霊!?!」

ユウちゃん

「じゃじゃ〜ん！……！！……ユウちゃんです……！！」

レイくん

「レイくんです」

エックス

「いきなり登場してビックリした……だけど

そんな大声出したらハンターに見つかるぞ……！！」

ユウちゃん

「きゃは〜！お兄さん面白い〜」

エックス

「おいおい……（こいつのペースについて行けねえ……）」

レイくん

「とにかく急ぎましょう……」

エックス

「もちろんだ、行くうぜ（こいつはまだマシな方だな……）」

エックス、双子の幽霊、ユウちゃん、レイくと合流……。

エリオ

「アイテムですか・・・フェーリさんどうします?」

フェーリ

「勿論、取りに行くに決まってるじゃないの・・・!」

エリオ

「やっぱりね・・・じゃあ行きましょう」

2人はアイテムを取りに行った。

パラガス

「おお〜!!!カードキー!!!!」

パラガスはカードキーで装置にスキャンする。

パラガス ミッションクリア

パラガス

「汚名返上できた・・・！」

シエゾ

「このままずっと隠れていよう・・・！」

シエゾ、見つかるリスクを治める為にベンチの下に隠れる・・・。

シエゾ

「ていうか裏切り者厄介だな・・・」

さっきの無言電話はアミティが喋っている声聞いて、

あいつの位置を調べようと思ったんだがな・・・」

裏切り者っぽい発言をするシエゾ。

はさて

「どつやった、まぐる君？」

まぐる

「誰が多く投票されてるのか

訳わからなくなってしまっっちゃったよ」

はやて、まぐると合流・・・。

はやて

「前々から頼んでる作戦、うまく行かなかつたんやな・・・」

まぐる

「そりゃそうだよ・・・！作戦はいつもうまく行くとは限らないし・

・・・」

その時、裏切り者が2人の姿を捉えた・・・。

???

「八神はやてとささきまぐる、隠者の草原にいます・・・」

通報を受けた4体のハンターが、2人の確保へ動く。

はやて

「てかこんな所で見つかったらもう終わりや。

ここには隠れ場所が無いんやから」

まぐる

「ええ、そうだね・・・ってハンター2体来たよ！」

はやて

「嘘やる！？何でこんな時に見つかるんや！」

2人は一目散に逃げる。

はやて

「嫌や〜！！！！！！」 ポンッ

> i 3 4 2 2 7 | 4 2 6 0 <

はやて

「う、嘘やる・・・！？」

史上最強の魔導師、ここに散る・・・

まぐる

「誰か、助けてくれえええ」

まぐるはまだ逃げ続けている。

しかし彼がハンターに適う訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

まぐる

「うわあ〜！！」 ポンッ

> i 3 4 2 2 8 | 4 2 6 0 <

まぐる

「りんごちゃん、後は頼んだよ〜・・・」

ぶよぶよメンバーささきまぐる、早くも散る……。

???

「よしっ、上手くいった……！」

偽善者2人は消えちまえばいいのに……！」

プルルルル

シエゾ

「うるせえな……ハンターに見つかるだろ……！」

フエイト

「『裏切り者の通報によって』……」

ヴィータ

「『八神はやて、ささきまぐる確保』何してんだはやて……！」

りんご

「まぐる君捕まっちゃいました……！」

???

「一気に一人も通報できた・・・！」

果たして、強制失格になる者は、誰だ！？

強制失格解除（後書き）

果たして、強制失格になる者は、誰だ！？

次々とクリアしていく逃走者達（前書き）

果たして、強制失格になる者は誰だ！？

そして今回は、あの2人が出る！

次々とクリアしていく逃走者達

ラフィーナ

「あ！？あれですわね」

ラフィーナはカードキーを取り、装置にスキャンする。

ラフィーナ ミッションクリア

ラフィーナ

「シグとかはどうしたのかしら？」

シグ

「あゝ……。賞金が止まってる」

「これじゃ上手く自首出来ない……。。」

自首狙いのシグ……。

シグ

「でもそろそろ自首しようかな……。。」

シグは自首に走る。しかし……。

ハンター

「！」

曲がり角でハンターに見つかった……。

シグ

「……」 ポンッ

> i 3 4 2 5 1 — 4 2 6 0 <

シグ

「自首しようとした瞬間にハンター……？」

プルルルル

しら

「またメールですか・・・!?!」

izumi

「『シグ確保』シグさん確保ですか・・・!」

パルポン

「ぶよぶよの新主人公がどんどん捕まっていくな・・・!」

無幻

「ていうか何でこんなに捕まるペースが早いんだ・・・!?!」

フェイト

「どうなってんだろっ、この逃走中は・・・!?!」

真田

「荒垣・・・」

荒垣

「・・・お前か」

真田、荒垣と出会う・・・。

真田

「相変わらずの様子だな」

荒垣

「……うるせえ」

真田

「どっするっ…ミッション行くのか?」

荒垣

「……行くに決まってんだろ」

真田

「……やっぱりな。俺も行くつもりだ」

荒垣

「……」

真田、荒垣と合流……。

ラングレー

「アイリス！」

アイリス

「ラングレー！まだ失格になってなかったのね」

ラングレー

「あんたこそ失格になってないのが珍しいわ」

アイリス

「全然珍しくないわよ！」

リンク

「・・・？」

リンクは2人の元に駆け付ける。

ラングレー

「バーカバーカ（怒）」

アイリス

「アーホアーホ（怒）」

女の戦いだ・・・。

リンク

「この人達どうしよう・・・」

リンク、困りがち・・・。

孫悟空

「やっと着いただ・・・」

孫悟空は雷の塔に到着する。

孫悟空

「よし、スキャンしてっと・・・」

孫悟空 ミッションクリア

孫悟空

「ベジータとかはまだかな？」

その後、コーン、シューティー、アコール、エックス、ユウちゃん、レイくん、
パルポン、無幻、スバル・ナカジマ、ヒュースケン、ところ天の
助などが
クリアしていった……。

ベクター

「ちよっ、通報部隊こっちに来てるって……！」

ベクターはそのまま身を隠す。しかし……。

通報部隊D

「ピーッ！……！」

見つかった……。

ベクター

「こんな所で見つかるのかよ……！」

ベクターは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターに適うわけが無い。最早、逃走不可能……。

ベクター

「うぉあゝー！」 ポンッ

> i 3 4 2 5 6 | 4 2 6 0 <

ベクター

「チャーミー、後は頼んだぞ〜・・・」

ブルルルル

ソニック

「うるせえ・・・!!」

シルバー

「『通報部隊の通報によって』、」

シャドウ

「『ベクター確保』・・・!!」

ヴィータ

「カオティクス探偵事務所の奴等情けねえな・・・!!!!」

エリオ

「あの人達何しに来たんですか・・・!!」

チャーミー

「はあ！？カオティクスのメンバーは僕だけなの？！」

牢獄

ベクター

「くそ〜！チャーミー頼んだぞ〜！！！」

ベクターは悔し言葉を放ち、牢獄に入る……。

エスピオ

「お主も捕まったのか……」

シゲ

「うへ〜……」

アミティ

「先生もクリアしてていいな〜……」

ティアナ

「皆クリアしてんだ……クリアしてないのあたしだけじゃん……」

「

カイクウ

「くそ、あと660分間もここにいなきゃ何ねえのかよ……！」

アルル

「あつ、誰か通ったよ」

牢獄の前を通り過ぎた者は、さかな王子とオトモだ……。

オトモ

「もう逃げ出さないでください！」

さかな王子

「嫌ダー！ヨハ自由ニナリタイー！！」

オトモはさかな王子を連れて城に帰った……。

牢獄の皆

「何でおんの……」

果たして、強制失格になってしまふ者は、誰だ！？

次々とクリアしていく逃走者達（後書き）

果たして、強制失格になってしまう者は、誰だ!?

（チャーミーの一人称が間違ってたら訂正お願いします。）

最終！強制失格！そして・・・。

シルバー

「ここが雷の塔か・・・」

シルバーは雷の塔のたどり着く。

シルバー

「よし、スキヤンだ・・・！」

シルバー・ザ・ヘッジホッグ ミッションクリア

シルバー

「テイルスはまだか・・・？」

この後、一名を除いて全員クリアした・・・。

一名を除いては……。

その一名とは……!?

ハリス

「え……?ワタシ一人……?」

ハリスだ……。

ハリス

「ま……まさか……!」

そう……。彼が最後の一人となった……!

> i 3 4 2 6 8 — 4 2 6 0 <

ハリス

「ガーン」

ついに、時は動き出した・・・！

残りゲーム時間 660:10

残りゲーム時間 660:09

残りゲーム時間 660:08

ブルルルル

ソニック

「メールだな・・・」

シヤドウ

「『強制失格ミッションが終わった』・・・やっとだな」

チャーミー

「『これより、普段通り時は流れ続け』・・・」

小野妹子

「『いつもの普段の逃走中に変わった』・・・！」

ウルフ

「あっという間ってか・・・意外に早く終わったな」

マリオ

「よし、アイテムを見つけたぞ・・・！」

マリオは単独行動をしてアイテムを見つける・・・。

マリオ

「どれも立派な剣だ・・・！」

しかし、立派な剣の一つだけ、違う物があった……。

マリオ

「……？何だこの時限スイッチは？」

マリオはその時限スイッチを押す。

その時！

ゴゴゴゴゴ……！！

突然、皇帝の隠れ家から謎の大砲が出現した……！

ガノンドロフ

「くくく……馬鹿め……！！」

大砲は雷の塔に方角を向ける。

その雷の塔の最上階には、30体のハンターが隠されていた……！！

プルルルル

順平

「何だよ、最近メールが多いな・・・！」

ヴィータ

「ミッション3・・・！またミッションかよ・・・！」

シエゾ

「『謎の組織によって、皇帝の隠れ家に大砲が設置された』」

アコール

「『残り630分になると、大砲が弾を発射し』」

シグナム

「『雷の塔に向かって発射され、その方角には』」

ゆかり

「『30体のハンターが隠されている』」

チャーミー

「『しかも30体のハンター放出を阻止する為には』」

サタン

「『パスワードが要り、さかな王子から聞き出さなければならぬ』
30体……!?!?出されたらかなり不利な状況だ……!」

MISSION? ハンター放出を阻止せよ!

謎の組織によつて、皇帝の隠れ家に大砲が設置された。
残り630分になると、大砲が弾を発射し、
雷の塔に向かつて発射され、その方角には、
30体のハンターが隠されている。
しかも30体のハンター放出を阻止する為には、
パスワードが要り、さかな王子から聞き出さなければならぬ。

シグナム

「行こう……!」

ドラコ

「もう一回、チャレンジだ!」

ゼロ

「ミッションを必ず成功させよう……!」

サタン

「アルルの為に行くぞ！」

キャロ

「行つといた方がいいのかな？・・・？」

しら

「ここは行きましよう」

紀葉

「このまま隠れよつとw」

シエゾ

「何でミッションがまた・・・！ここは行かねえぜ・・・！」

ヴィータ

「ミッション！？行くわけねえじゃん。」

それは誰かがやって捕まっちゃうえば良いんだよ・・・！」

ハンター放出の為に動く、逃走者達・・・。

一方、皇帝の隠れ家にて・・・。

オトモ

「皆さんには城って言ったんですが本当は・・・」

さかな王子

「城ガアノ組織ニヨツテ潰サレテシマッタノダー！」

オトモは皇帝の隠れ家に隠れる。

オトモ

「僕達は実は指名手配されてて・・・！」

さかな王子

「謎ノ組織ノメンバーニ間違エラレテ指名手配サレテシマッタノダ
ー！」

2人はまだ逃げ続ける・・・。

果たして、30体ハンター放出を阻止できるのか!?

最終！強制失格！そして……。 (後書き)

果たして、30体ハンター放出を阻止できるのか!?

作者

「あれ？普通ならここで次の話、前の話、目次って出るのに……」

ウルフ

「おい、作者！ちょっと聞きたい事がある」

作者

「ん？」

ウルフ

「強制失格のミッション飛ばしすぎだろー!!!」

作者

「ああ？あれ？もつきりが無いから飛ばした」

ウルフ

「今度からは気をつけてくれよ……!」

作者

「こつこつ事で、作者さん、逃走者の方々、すみませんでした」

30体ハンター放出を阻止せよ！（前書き）

果たして、30体ハンター放出を免れるのか！？

30体ハンター放出を阻止せよ！

エックス

「ていうか……」

ユウちゃん

「エックス、今日何して遊ぶ？」

エックス

「まだついてきてんのかよ……？」

ユウちゃん

「え？」

ボム兵

「どっかに隠れようボム……！」

ボム兵はすぐ近くの草むらに隠れる。

ボム兵

「近くにハンターが来てるボム……！！！」

バーダック

「先皇帝の隠れ家に行つとくか・・・」

バーダックも動く・・・。

izumi

「あ、サタンさん!」

サタン

「izumiさん。どうしたんでしょっつ?」

izumi

「ミッション行きますか?」

サタン

「今回は隠れてやり過じします」

izumi

「そうなんですか・・・まあ頑張って下さい」

i z u m i は皇帝の隠れ家に急いだ・・・。

安雄

「ドラえもんはどこだ？」

安雄はドラえもんを探す。

ドラえもん

「おーい、安雄！」

安雄

「おっ、来た来た」

ドラえもんは安雄の方に駆けつける・・・。

ドラえもん

「さっきから呼んでたのは何だ？」

安雄

「いや、もしアイテムを持ってたら貸してくれと呼んだんだ」

ドラえもん

「すまねえ、俺持っでねえ」

安雄

「え、そうなんだ」

ドラえもん

「またの機会にな」

安雄

「お、おお。ありがとう」

安雄は礼を言い、ドラえもんは去って行った……。

安雄

「またの機会っすね」

> i 3 4 2 8 3 | 4 2 6 0 <

パルポン

「こりゃ行くしかないな……!」

パルポンも動く・・・！

パルポン

「ハンター30体とかとんでもない・・・！！」

ヴィータ

「ん？あいつはエリオか・・・」

ヴィータ、エリオを発見・・・。

エリオ

「皇帝の隠れ家は・・・？」

「フェーリさん大丈夫かな？」

尚、ヴィータはそのまま隠れ続ける。

ヴィータ

「まあ、あたしはミッション行かねえけどな・・・！」

意地でも行くことは無いようだ・・・。

その時、裏切り者が2人の姿を捉えた・・・。

???

「意地でも動く気は無いヴィータ……。」

「こんな奴がいたら逃走中の邪魔だ……。」

???は携帯を用意する。

???

「ヴィータ、エリオ・モンディアル、輝く噴水広場にいます……。」

「

通報を受けたハンターが、2人の確保へと動く。

> i 3 4 2 8 5 — 4 2 6 0 <

ヴィータ

「ん？何だ？後ろからハンター……。」

「あいつ追っかけられるかもな……！」

エリオ

「ハンターに警戒して……後ろから来たよ！」

エリオは一目散に逃げる。

ヴィータ

「哀れな……ってあたしにもハンター来た！」

もう一人のハンターがヴィータを追いかける……。

エリオ

「助けて〜！」 ポンツ

> i 3 4 2 8 7 — 4 2 6 0 <

エリオ

「機動六課はこれで2人目・・・」

ヴィータ

「くそ〜、ハンターに追われたのはこれで初めてだ・・・！」

ヴィータは建物の曲がり角を利用しながら逃げる。

ハンター

「・・・」

見失った・・・。

ヴィータ

「はあ、はあ・・・。危ねえ・・・！」

賞金は全部あたしが貰って行くんだ・・・！」

ヴィータはまた隠れ場所を探す・・・。

ブルルルル

パラガス

「ん？メールか」

スバル

「『裏切り者の通報によつて』」

キャラ

「『エリオ・モンディアル確保』・・・！！』」

ラフィーナ

「機動六課の人もちよつと頑張つてよ・・・！！』」

現在、パラガスは輝く噴水広場にいる……。

パラガス

「よし、自首しよう……。」

パラガスは、自首へと動く！

パラガス

「どこかに電話ボックスは……無いかな？」

しかし、パラガスの背後に、ハンター……。

> i 3 4 2 8 6 — 4 2 6 0 <

パラガス

「電話ボックスには無いな……ってハンター!？」

パラガスは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターに適うわけが無い。最早、逃走不可能……。

パラガス

「ぎゃあ〜!」 ポンツ

> i 3 4 2 8 8 — 4 2 6 0 <

パラガス

「くそ……。」

自分だけ助かろうとした罰だ……。

ブルルルル

パルポン

「またメールか？」

バーダック

「『輝く噴水広場にて』」

ブローリー

「『パラガス確保』・・・フン、ダメ親父が」

果たして、30体ハンター放出から逃れられるのか！？

30体ハンター放出を阻止せよ！（後書き）

果たして、30体ハンター放出から逃れられるのか！？

裏切り者（前書き）

裏切り者の正体が明かされる・・・！

裏切り者

フエイト

「裏切り者って……もう5人以上も通報してるんじゃないの!？」

キャラ

「ここは……星の花時計?きれい……」

キャラは星の花時計にたどり着く。

キャラ

「あつ、りすくませんばい……」

りすくませんばい

「?キャラ君、君も寝転がりに来たのか？」

キャラ

「はい、そうなんです。少し体を休ませようと思って」

りすくませんばい

「体を休めるのはいいが、ここでハンターに見つかったらとんでもない」

キャラ

「あつ……そうでしたか。どうしましょつ」

キャラは悩む。

紀葉

「隠れる隠れる」

紀葉はどこかの草むらにずっと隠れている……。

ヴェントウス

「あっ、フェーリ……」

フェーリ

「ヴェン……どうしたの？」

ヴェントウス

「いや、たまたま通りかかっただけさ」

ヴェントウスはそのまま去って行った……。

フェーリ

「……？」

シルバー

「リデル……久しぶり」

リデル

「え、久しぶりですか？」

シルバー

「まあ、それは置いて、どうする？
ミッションは参加するのか？」

リデル

「いいえ、ずっと隠れてます……」

シルバー

「……そうか、やっぱりお前らしいな」

シルバー、リデルと合流……。

izumi

「ゼロさん!」

ゼロ

「izumiさん。貴方もミッションに参加するんですか?」

izumi

「ええ、勿論です!」

ゼロ

「それはそうですね・・・30体のハンターなんか相手にできません・・・!」

izumi、ゼロと合流・・・。

「無幻 さん……！何してるんですか？」

無幻

「勿論、逃げてるんですよ……！」

しら

「それ、誰だって同じじゃないですか……」

ヴィータ

「逃走中は動いたら負けなんだよ……！」

「ミッションなんて行ったら」「どうぞ捕まえて下さい」「てのと
同じなんだよ……！」

ドラコ

「ん？あれが皇帝の隠れ家か……！」

ドラコは皇帝の隠れ家に入る。

ドラコ

「つてここにもハンターいるよ……！」

ドラコ、万事休す……。

> i 3 4 2 9 6 | 4 2 6 0 <

しかも……。

ハンター

「！」

見つかった……。

ドラコ

「えっ！？ちよっ、見つかったよ！」

逃げる間も無くそのまま……。

ドラコ

「ぎゃあー！」 ポンッ

> i 3 4 2 9 7 | 4 2 6 0 <

ドラコ

「えっっ、何で……？ミッションやろうとした瞬間に何で来るの？」

プルルルル

シグナム

「確保情報……」

シエゾ

「『皇帝の隠れ家にて』」

スライムマン

「『ドラコケンタウロス確保』ええっ！？ハンターって、
皇帝の隠れ家にもいるんですか！？」

ヴィータ

「やっぱりな……。ミッションやるから
こうなるんだよ……。」

「本当バカだよなコイツ……！」

サタン

「アイツ、結構長く生き残りそうな予感がしてたんだけど……。」

ゼロ

「おいおい、皇帝の隠れ家も危険な場所じゃねえか……！」

しら

「ゼロさん？」

ゼロ

「おっと、何でもありません。行きましょう」

小野妹子

「ここからどうしよう……ってヴィータさん？」

ヴィータ

「何だ、妹子か……」

小野妹子、ヴィータと出会う……。

小野妹子

「ミッションはどうするんですか？」

ヴィータ

「あたしは絶対に行かねえよ！」

小野妹子

「・・・そうですね。捕まっても知りませんからね」

ヴィータ

「・・・」

小野妹子はヴィータと分かれた・・・。

???

「ここには通報したい奴らがいっぱいいるな・・・!」

裏切り者の正体が明かされる・・・。

裏切り者の正体は・・・?

フォックス

「これで6人も通報できたかな・・・？」

裏切り者はフォックスだ・・・。

時は、さかのぼる・・・。

そう、あの報告で……。

フォックス

「『君が脱落者に決定した』はあ！？許せねえぞ！！」

通報1人目 高町なのは

フォックス

「おっ、1人でブラブラしてるとはバカな奴……」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「高町なのは、ゴッドパーク付近にいます……」

その後、高町なのはは確保された。

フォックス

「よっしゃ……！まずは1人目……！」

通報2人目 シャマル

シャマル

「裏切り者……ハンター……二重にも重なってて怖いな……」

フォックス

「それならその2重の恐怖を味わいさせてやる……！」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「シャマル、隠者の草原にいます……」

その後、シャマルは確保された。

フォックス

「俺を敵に回したらだめなんだよ……！」

裏切り者はこれで賞金が20万プラスされた……！

通報3人目 ルルー

フォックス

「呑気に雑談なんかしゃがって……！」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「許せねえ……！」

スバル・ナカジマ、ルルー、魔術師の館周辺にいます……」

その後、ルルーだけが確保された……。

フォックス

「チツ。1人だけか……。さつさと2人とも捕まればいい者も……」

通報4人目 アミティ

アミティ

「?もしもし?」

無言電話が切れた・・・。

フォックス

「今のうちに・・・」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「アミティ、ゴッドパーク周辺にいます・・・」

その後、アミティが確保された。

フォックス

「ハハハ・・・!ざまあみやがれ」

通報5人目 八神はやて

フォックス

「二人で話しやがって。

八神はやてとささきまぐる、隠者の草原にいます……」

通報を受けた4体のハンターが、2人の確保へ動く。

はやて

「てかこんな所で見つかったらもう終わりや。

ここには隠れ場所が無いんやから……嘘やろ、ハンター！」

はやてはハンターに見つかり、その後確保された……。

フォックス

「よし……！まぐるも捕まっちゃまえ……！！」

通報6人目 ささきまぐる

まぐる

「うわ〜！巻き添えだ〜！

誰か、助けてくれ〜！」

その後、まぐるは確保された・・・。

フォックス

「おっじゃ・・・！上手いこと行ったぜ・・・！！！」

これで、裏切り者は賞金が60万プラスされた・・・！

通報7人目 エリオ・モンディアル

フォックス

「意地でも動く気は無いヴィータ・・・。

こんな奴がいたら逃走中の邪魔だ・・・

だが1人だけじゃつまらないから

エリオも通報してやるか・・・」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「グイータ、エリオ・モンディアル、輝く噴水広場にいます……。」

「

通報を受けたハンターが、2人の確保へと動く。

その後、エリオだけが確保された……。

フォックス

「チッ、どいつもこいつも1人だけ逃れやがって……!」

全て、恨みで通報している……。

裏切り者の正体が明かされた……。

裏切り者（後書き）

裏切り者の正体が明かされた・・・。

大きな障害（前書き）

さらに、大きな障害が放たれる・・・！

大きな障害

さかな王子

「シマツタ！ココモ行き止マリナノカ！」

オトモ

「これじゃ万事休す！もう逃げられませんよ！」

その時、太陽の神殿のいたメンバーがやって来た……！

アイク

「お前等を退治する！」

ピーチ

「指名手配の2人、とうとう見つけたわよ！」

レッド&マリオ

「逃がさんぞ〜！……！！！」

2人

「誰か助けて〜！」

プルルルル

ウルフ

「？通達5か・・・！」

ラフィーナ

「『さかな王子とオトモが今度は別の場所に逃げ出した』」

キャロ

「『今度は星の花時計に逃げ出したそうだ』・・・って私達がいるところ？」

りすくませんぱい

「これは偶然だ・・・」

izumi

「せつかくたどり着いたのに・・・」

ゼロ

「今度は星の花時計かよ・・・！」

銀時

「よー、お前等、何してるんだ？」

izumi

「あつ、銀時さん！」

銀時

「メールによるとさかな王子とやらが星の花時計に逃げ出したそうだな。」

ゼロ

「銀時……」

銀時

「よし、任せろ、俺がそこまで案内してやるぜ！」

izumi

「ありがとうございます、銀時さん！」

izumi、ゼロ、坂田銀時と合流……。

ラングレー

「ここは行かないわね……」

ラングレーはまたどこかに隠れている。

しかし……。

フォックス

「おっと、呑気に寝やがって、バカグレーが……！」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「バカグレーことラングレー、星の花時計にいます……」

通報を受けた4体のハンターが、ラングレーの確保へ動く。

ラングレー

「多分ここにおれば……ってハンターが……!!」

ラングレーは一目散に逃げる。

それに巻き添えになった者は……。

タケシ

「ぎゃあああああ」

タケシだ……。

> i 3 4 3 2 5 | 4 2 6 0 <

キャロ

「!?!? 誰か追われてる……」

りすくませんぱい

「いったん避難しよう……!」

ラングレー

「ぎゃあああああ」 ポンッ

> i 3 4 3 2 3 | 4 2 6 0 <

ラングレー

「くそくそ、嫌がらせか!?!」

タケシ

「じゃねえええええ」 ポンツ

> i 3 4 3 2 4 — 4 2 6 0 <

タケシ

「ラングレーに巻き添えを喰らうとは……」

プルルルル

シエゾ

「ん？確保情報かよ……！」

サトシ

「『裏切り者の通報によって』」

アイリス

「『ラングレー確保』ざまあみなさい！」

コジロウ

「『さらに巻き添えをくらったタケシも確保』」

サタン

「タケシか・・・あいつは結構残ると思ってたんだけどな」

ヴィータ

「ほらな、動いたら捕まるんだよ・・・!」

キャラ

「危なかった・・・」

りすくませんぱい

「おや?そこにいるのはさかな王子とオトモ君?」

さかな王子

「ダ、誰かヨヲ助ケルノジャア!」

アイク

「待てこの野郎」

さらに、あの組織が追いかけてくる・・・。

キャラ

「ちよっと待っててください！王子が何したって言ってますか！」

アイク

「実はこいつらは指名手配されてると聞いたんだがな・・・」

キャラ

「指名手配・・・？」

さかな王子

「ヨ達八何モ悪クナイノジャー！！」

キャラ

「そ、そつだよ、何でこの子達を敵だと決め付けて追いかけてるの！？」

アイク

「・・・月の砦の奴らから聞いた」

りすくませんぱい

「・・・まさか」

マリオ

「そう、ガノンドロフが『狙うんならあの2人を狙え』って・・・」

キャラ

「そ、そんな！敵の言葉を簡単に信じてどうするの！？」

全員

「・・・」

izumi

「あれ？」

izumi、ゼロ、坂田銀時が駆け付ける……。

izumi

「ど、どうしたんですか!？」

キャロ

「この人達が……」

全員

「……」

シグナム

「ここが皇帝の隠れ家か……」

シグナムはそこに隠れる。

果たして、30体のハンター放出を阻止できるのか!?

大きな障害（後書き）

果たして、30体のハンター放出を阻止できるのか!?

ミッション終了ー！しかし。。。(前書き)

さかな王子を発見したキャラ達は。。。。

ミッション3終了!しかし……。

キャラ

「とにかく行くぞよ!」

りすくませんばい

「ここでこんな話をしているのは何かと危ない……」

全員

「……」

全員は皇帝の隠れ家へと向かった。

皇帝の隠れ家にて……。

キャラ

「ハンター……よしいない!」

全員はゆっくり入る。

シグナム

「キヤロ！」

キヤロ

「あつ、ここで待ってたんですか！」

りすくませんばい

「用意周到だな・・・」

キヤロ

「とにかく降ろしましょう！」

izumi

「そ、それが良いですね」

キヤロ

「それじゃあ・・・王子、パスワードを教えてください！」

さかな王子

「シヨウガナイ・・・パスワードハ『397』ジャ」

izumi

「ありがとうございます！」

銀時

「さて、降ろすか」

izumiはパスワードを入力し、シグナムはレバーを降ろした。

ミッションクリア

キャラ

「やった〜!!!」

izumi

「これで30体のハンター放出は逃れられました……!」

りすくませんぱい

「私達もやれば出来るのだな……」

銀時

「よし、早いとこ分かれるか」

全員は1人1人に散らばって行動した……。

プルルルル

シエゾ

「お、ミッションクリア情報だ！」

小野妹子

『izinumi、りすくませんぱい、キャロル・ルシエ、

坂田銀時、ゼロ、シグナムの活躍によって、ミッションクリア』

」

ヴィータ

「おっ、リーダー……。やるな!!！」

新八

「銀さん、凄いです！」

シエゾ

「30体阻止か……。良かったぜ」

その頃、月の誓にて……。

ガノンドロフ

「さすが正義の騎士……あいつらは良く騙せやすい」

ゼルダ

「次はどんな作戦で行くの？」

デデデ

「早い所教えてくれデ！」

ガノンドロフ

「フツ……。次はこんな作戦で行くか……」

ガノンドロフはモニターを出現させ、

「エリア縮小」というボタンを押す。

ガノンドロフ

「名づけて、「総攻撃作戦」……」

ブルルルル

シエゾ

「!?!? 今度は何だよ……!」

フエーリ

「ミッション4……出現早いわね……!」

サタン

「『セッセイシヨツピングビルにエリア縮小阻止装置が設置された』
エリア縮小!?!」

スバル

「『残り610分までにその装置を見つけ、レバーを降ろさないと』

」

しら

「『エリアが縮小される』……」

これはエリア縮小されたらかなり不利ですよ!?!」

MISSION? エリア縮小を阻止せよ!

セッセイシヨツピングビルにエリア縮小阻止装置が設置された。
残り610分までにその装置を見つけ、レバーを降ろさないと、
エリアが縮小される……。

フォックス
「ククククク……！あのビルにいれば一網打尽だ……！」

紀葉

「うん……一応行つとこつ」

ラフィーナ

「行きますとも！ですわ！」

フェーリ

「これは行かないと……レムレス先輩の敵討ちで」

アコール

「皆さんのために行きましょう」

ゼロ

「よし、行くか……！」

しら

「もう一回です……！」

シエン

「ミッション？誰が行くかよ」

ヴィータ

「ミッションなんかクソ喰らえだぜ……！」

行きたい奴は行って、そいつはとっとと捕まっちゃえば
良いんだよ……！」

シグナム

「動くとハンターに見つかるリスクが高まるからな……ここは行かない」

ミッションに行くか行かないかは、逃走者達の自由だ……！」

ミッション3終了ーしかし。。。 (後書き)

更に、早くもミッション4が投下された・・・!

エリア縮小を阻止せよ！（前書き）

逃走者達は、エリア縮小を阻止出来るのか！？

エリア縮小を阻止せよ！

ソニック

「やっぱり、行こうかな・・・」

あの2人の為に、急ぐソニック・・・。

ドンキー

「うむ、ここはあえて行かないか・・・？」

ミッションに行くか行かないかは、逃走者達の自由だ・・・。

セッセイショッピングビルにて・・・。

ハンター

「・・・」

ハンターがそのビルに入っていく・・・。

ハンターに見つからず動くのは、容易では、無い・・・。

ラフィーナ

「あら、早くつきましたわ」

一番目に、ラフィーナが到着……。

> i 3 4 4 1 1 — 4 2 6 0 <

ラフィーナ

「でも、ここにもハンターがいるんでしょ……？」

凶星だ……。

シエゾ

「動いたらハンターに見つかるから参加しないって……」

変態魔道士シエゾ・ウイグイイ、動く気は無い様だ……。

ソニック

「hey!シエゾ!」

シエゾ

「ソニック……!?!?」

シエゾ、ソニックと出会う……。

シエゾ

「どうしたんだよ……?」

ソニック

「お前、ミッション参加するのか?」

シエゾ

「俺は行かねえぞ!」

ソニック

「だけだよ、もし行く人が捕まって

誰も行く人がいなくなったらどうすんだ?」

シエゾ

「……それは」

シエゾは悩む。

ソニック

「悩んでる暇は無いぜ!ほらほら」

ソニックはシエゾの服のえりを掴みながらを引っ張る。

シエゾ

「わ、分かったよ、行きゃいいんだろ、行きゃ!!--」

ソニック

「よし、そつこなくなっちゃ!!--」

シエゾ、強引にミッションに参加・・・。

フォックス

「よし、着いた・・・!!--」

裏切り者フォックスも到達・・・。

フォックス

「ん?あれはラフィーナか・・・丁度いい!!--」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「ラフィーナ、セッセイショッピングビルのエレベーター内にいます・・・!!--」

通報を受けた4体のハンターが、ラフィーナの確保へ動く。

エレベーター内……。

ラフィーナ

「多分4階かしら……？」

チーン

エレベーターが止まり、扉が開いた……。

その目の前には……。

ハンター

「！」

先ほど通報を受けた、ハンターだ……。

ラフィーナ

「いや〜！」 ポンッ

> i 3 4 4 1 2 — 4 2 6 0 <

ラフィーナ

「嘘よ……!?しかも裏切り者の仕業ね……!!」

ブルルルル

フェーリ

「?確保情報……」

ゼロ

「『裏切り者の通報によって』」

サタン

「『ラフィーナ確保』逃走中の本命が捕まってしまったぞ……!!」

ソニック

「O n n y s o u l !」

ボロドー

「これは俺が代わりに行くしかないな……!!」

ウィータ

「動くからこうなるんだよ……!!」

「どいつもこいつも好感度気にしやがって……!!」

紀葉

「よし、着いたぞ！」

紀葉も、到着……。

しら

「あつ、紀葉さん！」

紀葉

「しらさん！貴方もミッション参加ですか？」

しら

「勿論ですよ……！エリア縮小なんて、あり得ませんから……」

紀葉

「まあ、そうですねw」

紀葉、しらと合流……。

ソニック

「よし、着いた・・・！」

シエゾ

「ちよつ、速いって・・・！」

ソニックに引つ張られて来たシエゾ・・・。

2人も到着だ・・・。

フォックス

「ラッキー・・・！俺を敵に回した事を後悔するんだな・・・！」

しかし、フォックスは携帯を取り出さない・・・。

フォックス

「いや、でも、しばらく間を置いた方が面白いな・・・！
すぐ通報してもつまらないからな・・・」

悪の心を持った、フォックス……。

これでは立場が逆だ……。

ウルフ

「よし、俺も行く……！」

こちらは善の心を持った、ウルフ……。

ウルフ

「アコール先生とか、ゼロとか捕まったら

厄介な事になるからな……ここは俺が行つとくか……！」

ウルフも行動的だ……。

牢獄

ラフィーナ

「悔しいわ・・・！」

ラフィーナはそう放ちながら牢獄に入る・・・。

パラガス

「だが、お前にしてはよく頑張った方だ」

ラフィーナ

「自首しようとして捕まったアンタに言われたくないわよ」

果たして、エリア縮小を阻止出来るのか！？

エリア縮小を阻止せよ！（後書き）

果たして、エリア縮小を阻止出来るのか！？

実は複数の装置（前書き）

あのエリア縮小阻止装置は・・・。

実は複数の装置

フェーリ

「着いたワ……」

フェーリも到着……。

パルポン

「どつしよつかな……よし、ミッション参加しよつ……」

作者さんの一人、パルポンもミッション参加だ……。

ソニック

「おっと、これがあの装置だな……」

ソニックは俊足を活かして走る……。

シエゾ

「お、おい！俺ついていけてねえよ！」

更に、シエゾも到着……。

ソニック

「おっと、こりゃあ2人で降ろさなきゃ駄目みたいだな」

そう、実は装置には2つのレバーが着いており、それを2人同時で降ろさなければならぬ……。

シエゾ

「でも、ここに2人いるし、何とかなるんじゃないか？」

ソニック

「おっ、そうだった。じゃあ降ろそう」

2人は同時にレバーを降ろす。

エリア縮小阻止装置起動成功 残り6個

ソニック

「結構あっけなく終わったな……」

シエゾ

「でも、こんなにあっけなく終わるのって、おかしくねえか？」

ソニック

「へ？ああ、確かにミッションクリア情報が流れない・・・って」

シエゾ

「という事は」

ソニック

「あの装置は」

シエゾ

「複数あるってことかよ・・・！？マジか」

そう、あの装置は実は複数にあるのだ・・・。

ブルルルル

シエゾ

「うるせえ、ハンターに見つかる・・・！」

ソニック

「通達6・・・！」

フェーリ

「『実は装置には2つのレバーが着いている』それを先に言って・・・！」

紀葉

「『さらに、この装置は複数にあり、

2人で同時にレバーを降ろさなければならぬ』マジかよWW」

しら

「『その装置の位置が分かる地図が映画館に映し出されている』

助かりました・・・!」

フォックス

「よし・・・!ならば2人で降ろさせないようにしてやる・・・!」

こちらは通報する気満々の、フォックス・・・。

ウルフ

「フォックスく!!」

ウルフは突然ビルに入ってきた・・・。

更に……。

100体のハンター

「……」

1階の中心部に、100体のハンターがボックスに閉じ込められていた……。

アコール

「先生もきついです……」

プリンプ魔道学校のアコール先生も到着……。

アコール

「エレベーター使いましょう……!」

しび

「紀葉さん、ちょっと急いでください……!」

紀葉

「勿論ですよ……！急ぐ気満々です」

だが、その近くに、ハンター……。

> i 3 4 4 3 2 — 4 2 6 0 <

紀葉

「！嫌な予感がします、引き返しましょう」

しら

「嫌な予感？わかりました」

しらも紀葉につられ、引き返す。

ハンター

「……」

ゼロ

「複数の装置……厳しいな」

いつの間にか来ていた、ゼロ……。

フェーリ

「これが映画館……！」

フェーリは映画館内に入る……。

フェーリ

「来た来た……。位置を調べる地図が……」

フェーリは携帯で映画館のスクリーンに映し出されている地図を携帯の写真で撮る。

フェーリ

「必要な情報が集まったワ……！」

フォックス

「おっと、ゼロ」

ゼロ

「フォックス！……お前裏切り者じゃないよな？」

フォックス

「え？違うぞ、俺は裏切り者じゃない」

ゼロ

「そうか・・・なら助かった」

フォックス

「そうだよ・・・とりあえず装置降ろしに行こうか」

ゼロ

「ああ」

フォックス、ゼロと合流・・・。

フォックス

「(よっしゃ・・・！俺と離れたらすぐ通報してやる・・・！)」

ゼロ、危険が迫る・・・。

パルポン

「よっしゃ・・・!!」

ポロドー

「俺も着いたぞ・・・!!」

パルポン、ボロドーも到着……。

アコール

「あっ、装置に着きました……！でももう一人いないと……！」

アコール先生は誰かを呼ぶ。

ウルフ

「ん？」

ウルフだ……。

ウルフ

「どうしたんだ？」

アコール

「装置に着いたんですがもう一人足りませんから……！」

ウルフ

「あれか。よし俺が来たから一緒に降ろそうぜ」

アコール

「ええ」

2人は同時にレバーを降ろす。

エリア縮小阻止装置起動成功 残り5個

ウルフ

「よし、残るは5個だ……！」

アコール

「良かった……」

だが、その近くに、ハンター……。

ハンター

「！」

見つかった……。

今の二人に逃げ場は、無い……。

> i 3 4 4 3 3 — 4 2 6 0 <

ウルフ

「よし、次に……ってハンターだぞ!？」

アコール

「えっ!?!」

見つかった……。

もう、逃げ場は無い……。

アコール

「きゃ〜!」 ポンッ

> i 3 4 4 3 4 — 4 2 6 0 <

アコール

「後は頑張つて下さい……」

ウルフ

「くそお〜!こんな所で捕まつてたまるか!」

ウルフはハンターの横を上手く逃げ切る。

ウルフ

「よっしゃ……!つて前からハンターかよ!?!」

ウルフはまたハンターの横を逃げ切る作戦を使うが、そこは細い道だった為、作戦は失敗した……。

ウルフ

「うぎゃああああ」 ポンッ

> i 3 4 5 5 6 | 4 2 6 0 <

ウルフ

「くそ〜・・・！スターウルフの名が廃るぜ・・・！」

プルルルル

ソニツク

「確保情報かよ・・・！」

シエゾ

「『エリア縮小阻止装置周辺にて』」

フォックス

「『アコール先生、ウルフ確保』・・・！」

フェーリ

「先生、捕まっちゃったの・・・！？」

ヴィータ

「意外に残りそうな奴等が捕まっていくな……。」

まあ、当然の結果だ……！好感度上げようとするから

こうなるんだよ……！本当にバカだよなこいつ等……！」

エックス

「応援してた人が捕まっちゃったよ……！」

紀葉

「お、あれかな？」

しら

「良かったです。じゃあ早速降ろしましょう」

紀葉

「OK！」

2人は同時に装置のレバーを降ろす。

エリア縮小阻止装置起動成功 残り4個

紀葉

「イエイイ」

しら

「何とか阻止できました・・・！」

果たして、全ての装置を起動させる事は出来るのか!?

実は複数の装置（後書き）

果たして、全ての装置を起動させる事は出来るのか!?

ミッション4終了!しかし・・・。(前書き)

逃走者達は、全ての装置を起動出来るのか!?

ミッション4終了!しかし・・・。

天田

「2人も確保されちゃいましたか・・・僕が代わりに行きましょう」

ペルソナ使いの天田乾、ミッションに動く・・・。

ドンキー

「ウホ、うーん。2人も捕まるとどうも不利だな・・・。

よし、この穴埋めにミッション参加するか」

ジャングルの王者、ドンキーコングも参加・・・。

現在、3階にいるゼロ達・・・。

ゼロ

「携帯による地図で・・・。装置に着いた・・・」

実は2人は映画館に行って地図を携帯の写真で撮ったのだ・・・。

フォックス

「早いとこ降ろしちまおうぜ」

ゼロ

「おつよ」

2人は同時にレバーを降ろす。

エリア縮小阻止装置起動成功 残り3個

フォックス

「装置は起動したし、早いところっから出るか」

ゼロ

「OK!じゃあその時にな」

2人は別々に分かれて行動した・・・。

フォックス

「よし……ゼロは後で通報するか……」

今すぐ通報しない、裏切り者、フォックス……。

フェーリ

「誰か来て……!」

フェーリは装置の前に立っている……。

パルポン

「フェーリ!!」

フェーリ

「パルポンさん……!」

フェーリ、パルポンと合流……。

フェーリ

「良かった……。早いとこレバー降ろしましょう」

パルポン

「勿論だぜ」

2人は同時にレバーを降ろす。

エリア縮小阻止装置起動成功 残り2個

フェーリ

「結構の早さでクリアしていつてるわね・・・」

パルポン

「よっしゃ、装置を起動出来た！」

天田

「やっと着きました……！」

天田乾、到着……。

現在、最上階5階にいるシエゾ達……。

シエゾ

「このまま行動してちゃ捕まりやすいから、
こっから別々に行動しようぜ」

ソニック

「OK！」

2人は別々に行動した……。

デイディー

「兄貴、やってくれてるかな？」

こっちはミッション人任せの、デイディー……。

ドンキー

「ウホ、よし、着いた」

ドンキーも到着した……。

シエゾ

「やっぱり誰かと合流しなきゃな……」

やっぱり心配になって来た、シエゾ……。

天田

「シエゾさん……！」

エレベーターを使ってやって来た、天田乾……。

シエゾ

「よかった……！装置の場所わかるか？」

天田

「携帯の写真で撮って分かりました。
装置は最上階と一階です」

シエゾ

「まだ一階に合ったのか……」

天田はその写真を見せる。

> i 3 4 4 9 2 — 4 2 6 0 <

2人は装置に急いだ……。

紀葉

「ドンキー！」

ドンキー

「ウホ？偶然ですな」

紀葉、ドンキーと出会う……。

紀葉

「ここにまだ装置があるから、降ろしちやおう」

ドンキー

「OK」

2人は合流した。

紀葉

「すぐ近くだから、早く降ろそう」

ドンキー

「よし、任せなさい」

2人は装置に着き、同時にレバーを降ろす。

エリア縮小阻止装置起動成功 残り1個

紀葉

「おっしやく！見事クリア！だぜ」

ドンキー

「おふざけていいですね」

最上階にて……。

シエゾ

「急げ、急げ。もうミッション終わりまで後1分だぞ？」

天田

「急いでますよ」

その時、ポロドーと出会う……。

ポロドー

「おっと！ここの装置は3人で降ろさないとクリア出来ねえんだ！」

シエゾ

「そうだったのかよ！？まあ3人いるからいいけど」

天田

「何だか唐突ですけど、早く降ろしましょう」

3人は装置に着き、同時にレバーを降ろす。

ミッションクリア

シエゾ

「よっしゃ〜・・・もうミッションは当分来ないか・・・？」

天田

「でも、まだ気を抜いちゃ駄目です。最後まで気を抜かないでください」

ポロドー

「その通りだな。3人で逃げ切ろうぜ！」

3人は堅く逃げ切りを誓う・・・。

ブルルルル

リデル

「あ、ミッションクリア情報です……」

カルピスフロート

「ソニック・ザ・ヘッジホッグ、シェゾ・ウイグイイ、アコール先生、ウルフ、紀葉、しら、フォックス、ゼロ、フェーリ、パルポン、ドンキーコング、天田乾、ボロドーの活躍によってミッションクリア」

私も見習わないと……！」

チャーミー

「ソニック、やるじゃん」

ヴィータ

「やっとクリアか……でももっと早くクリアしてほしかったぜ」

デイデュー

「兄貴〜！ 凄いじゃん」

ハイホー

「見習いたい」

エックス

「今度は俺も参加しようかな〜・・・」

その頃、ある作戦が考えられた・・・。

ガノンドロフ

「よし・・・新たな作戦を考えたぞ・・・」

デデデ

「？何だデ？」

ゼルダ

「教えて、リーダー」

ガノンドロフ

「まあまあ、そう焦るな。

良い作戦があるんだ・・・」

ガノンドロフはモニターを出現させ、
セッセイシヨッピングビルに時限装置が
出現した・・・。

ガノンドロフ

「名づけて、「巻き添え大作戦」……」

プルルルル

ソニック

「？何だ？……通達？かよ

『このビルの中にいる者だけに対象する通達である』」

フェーリ

「『謎の組織によって時限装置が出現した』」

シエゾ

「『残り590分までにセツセイシヨツピングビルを脱出しないと』」

しら

「『100体のハンターが放出される』……」

これ、ミッション失敗したらとんでもない事になりますよ……

「！」

ドンキー

「『また、沢山ある出口は段々閉じていく』……」

通達？ セツセイショッピングビルを脱出せよ！

謎の組織によって時限装置が出現した。

残り590分までにセツセイショッピングビルを脱出しないと、100体のハンターが放出される……。

シエゾ

「100体って……！冗談じゃねえぞこりゃ……！！」

パルポン

「ちよつ、俺捕まりたくない……！」

早く脱出しないと100体のハンターの餌食となる……！！

> i 3 4 4 9 3 | 4 2 6 0 <

ミッション4終了ーしかし。。。 (後書き)

果たして、全員、このビルから脱出できるのか!?

ビル内から脱出せよ！（前書き）

逃走者達は、全員ビルから脱出できるのか！？

ビル内から脱出せよ！

紀葉

「入り口から近いから助かった・・・w」

ドンキー

「更に1階にいたのが幸いでしたね」

2人はビル内からでる。

紀葉、ドンキー、コング ミッションクリア

紀葉

「他の作者さん大丈夫かな？」

更に、ビル内にて……。

天田

「ここは分かれた方がいいでしょう……」

ボロドー

「固まって行動するより、単体で行動したほうがいいよな」

シエゾ

「じゃあそうしようぜ」

3人は別々に分かれて行動する……。

フォックス

「うわっ、ここも出口封鎖されてる……」

そう、出口はどんどん封鎖されて行くのだ……。

フェーリ

「早く脱出しないと……！」

フェーリは足を急がせる……。

しら

「エレベーターを使って……！」

しらはエレベーターを使う……。

シエゾ

「脱出しねえと……！闇の魔道士の名が廃る……！」

闇の魔道士ならぬ、変態魔道士だ……。

しら

「1階です……！」

しらはエレベーターに乗り、1階のボタンを押す。

しら

「ハンター、来ません様に……！」

しらは祈る……。

チーン

エレベーターが止まった……。

しらは即座に出る。

しかし……。

ハンター

「！」

見つかった……。

しら

「うわっ、ちょっと、何でここで見つかるんですか……!?!」

> i 3 4 5 0 5 | 4 2 6 0 <

見つかった……。

しらは一目散に逃げる。

しかし至近距離だった為、最早、逃走不可能……。

しら

「うわっ！」 ポンッ

> i 3 4 5 0 4 | 4 2 6 0 <

しら

「嘘でしょっ？目の前に出口があったのに……！」

しら、出口を目の前にして確保……。

ブルルルル

カルピスフロート

「確保情報です……！」

パルポン

「『しら確保』うわあ、しらさん捕まっちゃったよ……！」

ヴィータ

「ミッションに動いたから捕まったのか……？」

無幻

「これで2人目だぞ……！」

ビル内にて……。

天田

「あっ、ハンターです……！」

天田は階段近くにすぐに身を隠す……。

天田

「ハンターもいるし……。出にくいですよ……！」

天田、ハンターに怯える……。

ソニック

「よし、別の出口に出た……！」

ソニックは非常口から出た……。

ソニック・ザ・ヘッジホッグ ミッションクリア

ソニック

「頑張ってくれ、皆！」

ボロドー

「隠れるのは得意だ・・・！」

ボロドーは身を隠しながら移動する・・・。

ボロドー

「パルポンさんもクリア出来るといいんですけど・・・。」

パルポンの身を心配する、ボロドー・・・。

ゼロ

「よし、出口があった……！」

ゼロは別の出口から出る……。

出た瞬間に、出口の扉が閉まった……。

ゼロ ミッションクリア

ゼロ

「くそ、取り残されてる人達大丈夫かな……？」

現在、脱出出来ている逃走者は、
紀葉、ドンキーコング、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、ゼロの4人・

・
・
。

果たして、全員脱出できるのか!?

> i 3 4 5 0 3 | 4 2 6 0
<

ビル内から脱出せよ！（後書き）

現在、脱出出来ている逃走者は、
紀葉、ドンキーコング、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、ゼロの4人・
。。。

果たして、全員脱出できるのか！？

100体ハンター放出・・・。(前書き)

100体のハンター、ついに放出・・・!?

100体ハンター放出……。

パルポン

「よし……！出口は目の前だ……！」

しかし、出口の扉が開かない……。

パルポン

「冗談じゃねえぞ、ここも閉まってんのかよ……！？」

作者さんの一人、パルポン、戸惑う……。

フェーリ

「ここね……！あったワ……！」

フェーリは非常口から出る……。

フェーリ ミッションクリア

フェーリ

「レムレス先輩の敵をとったワ・・・！」

レムレスの為に頑張る、フェーリ・・・。

シエゾ

「やっと4階・・・！けど出口が見あたらねえ・・・！」

4階で迷う、シエゾ・ウイグイイ・・・。

シエゾ

「天田の奴、何してんだ・・・？」

天田

「100体のハンター・・・！」

天田はようやく1階に着き、出口を探す。

天田

「ここも開かない・・・！ここも・・・！」

天田は必死に出口を探す。

天田

「ここは・・・開いた！」

天田は出口から出る・・・。

天田乾 ミッションクリア

天田

「ボロドーさんとシェゾさん、大丈夫かな？・・・？」

ボロドー

「俺も着いたぞ、天田……！」

天田

「ボロドーさん……！」

ボロドー ミッションクリア

ボロドー

「シエゾが来るまで2人で行動するか……」

2人は一緒に行動し、別の場所に行った……。

フォックス

「おっと、ここも開いてねえな……！」

フォックスは別の場所を探す。

パルポン

「2階に着いたけど・・・出口を探さないと」

パルポンも、別の出口を探す・・・。

> i 3 4 5 1 0 | 4 2 6 0 <

フォックス

「もう1分しかねえ・・・！」

パルポン

「あつ、あつたぞ・・・！」

パルポン、無事に脱出・・・。

パルポン ミッションクリア

パルポン

「よし、しらさんの為にも頑張るぞ・・・！」

しらの為に頑張る、パルポン・・・。

> i 3 4 5 1 5 — 4 2 6 0 <

脱出出来ていない逃走者は、

シエゾ・ウイグイイ、フォックス・マクラウドの2人のみ……。

フォックス

「出口……！残り40秒……！」

40秒で、やっと脱出……。

フォックス

「よっしや〜！」

フォックス・マクラウド ミッションクリア

フォックス

「これで残り1人か……」

> i 3 4 5 1 1 | 4 2 6 0 <

シエゾ

「まさか、俺一人かよ……!?!」

そう、ビルの中に取り残されている逃走者は、
シエゾ・ウイグイイ、ただ一人……!

シエゾ

「1階に急がねえと……! 捕まってしまう!!」

シエゾは1階に急ぐ。

だが、出口はかなりの数が封鎖されている……。

> i 3 4 5 1 2 | 4 2 6 0 <

エレベーターを使い、1階に着いたシエゾ……。

ハンター放出まで残り

5

4

3

2

1

シエゾ

「くそっ、ここも開かねえ！」

そして……。

0……。

プシューー!!!!!!

100体のハンター、放出……。

セツセイシヨツピングビル、完全封鎖……。

ハンター

「……」

100体のハンターは、シエゾの確保へと向かう!

シエゾは一目散に逃げる。

シエゾ

「ヤベエよ……!ヤベエよ……!」

逃げ続けるシエゾ……。

その背後の遠くに、100体のハンターが……。

> i 3 4 5 1 3 — 4 2 6 0 <

シエゾ

「あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！開けて！ちょっと！開けて！！開けてよ！！！！」

100体のハンターが迫る・・・！

シエゾは100体ハンターの方角に向く・・・。

シエゾ

「あ！あ！嫌だ！！嫌だ！！ああああああ！！！！！！！！」
ポンツ

> i 3 4 5 1 4 — 4 2 6 0 <

100体のハンターによってシエゾ、確保・・・。

シエゾ

「う、あ・・・」

プルルルル

紀葉

「確保情報かよ？」

デイディー

「『100体ハンターによって』」

リデル

「『シエゾ・ウイグイイ確保、脱出失敗』え！？
脱出って……」

サタン

「あいつ……もうちょっと長く生き残る方だと思ったんだけどな・
……」

ヴィータ

「脱出失敗とかバカじゃねえのコイツ……!？」

牢獄

シエゾ

「くそ〜!」

シエゾは渋々牢獄に入る……。

アルル

「今牢獄でテレビ見てたんだけどシエゾ凄いや」

エリオ

「まあ、勢いか……なんていうか」

シエゾ

「おいおい、もうよしてくれ……。それとアルル」

アルル

「？」

アルルは首をかしげる。

シエゾ

「お前が……欲しい!!」

アルル

「ど、どという流れでそうなるの!?!」

その時、ソニックが牢獄にやって来、シエゾを蹴飛ばした。

ソニックはそのまま去っていった……。

シエゾ

「ちよっ……ソニック酷い……」

果たして、逃走成功出来る者は、誰だ・・・！？

100体ハンター放出・・・。(後書き)

果たして、逃走成功出来る者は、誰だ・・・!?

休憩タイム(前書き)

いよいよ、休憩タイムが始まる・・・。

休憩タイム

プルルルル

サタン

「？」

フエーリ

「『これより、いったんゲームを中断し……』」

パルポン

「『休憩タイムを行う』……よっしゃ〜!」

スバル

「確か食べ物を用意されるんだったよね？」

無幻

「腹いっぱい食べるぜ!」

マルス

「よしっ、休憩タイムですね……!」

ディディー

「やっと休憩タイムだね……!」

ウィータ

「よし……!休憩タイムとは、行けるじゃねえか……!」

牢獄

シエゾ

「休憩タイムだつてよ」

しら

「という事は、食べ物が送られてきますか？」

エリオ

「多分そうみたいですネ」

エスピオ

「どんな差し入れかな・・・？」

その時、逃走者は牢獄の前に転送された・・・。

シグナム

「おっと・・・」

チャーミー

「休憩タイム！」

クルーク

「転送されたね」

小野妹子

「早く食べ物送られてきませんか？」

その時、豪華な食べ物で牢獄の外に転送された。

牢獄の扉が開いた……。

シエゾ

「お〜！やっぱり外で食べないとな」

アルル

「よっし！早速食べよう！」

牢獄の者達は、外に出た……。

ヨッシー

「では、手を合わせて……」

全員

「いただきますす！！！！！！！！」

休憩タイムが、始まった……。

レムレス

「お〜、やっぱりお菓子はおいしいね」

スバル

「アイスクリームもある！」

紀葉

「サンドイッチも、ケーキもあるW」

ドラえもん

「よし、腹いっぱい食べるぜ……」

ハイホー

「食べる」

カルピスフロート

「カルピスもあります！」

全員

「美味しい！」

全員、食べ物に満足しているようだ……。

アルル

「カーくんも食べる?」

カーバンクル

「ぐー」

しら

「ステーキも美味しいです!」

シエゾ

「お前が・・・欲しい!」

ドンキー

「ウホ!?俺が欲しいだど!?
俺にそんな趣味は無い」

シエゾ

「アーツ!違う!お前の持っているバナナが欲しいのだ!」

カービィ

「わーい、食べ物だ!」

メタナイト

「カービィ、そう焦るな。行儀良く食べなくては」

フェイト

「メタナイト」

メタナイト

「？」

メタナイトはフェイトの方に顔を向ける。

フェイト

「あのオープニングゲームで『人でなし！』って言うてごめんね」

メタナイト

「もう、気にするな」

メタナイトはもう気にしてないようだ……。

その時……。

紀葉

「よし、今まで確保されて来た人達の捕まり方、見てみましょー
！……！」

ドンキー

「俺と紀葉さんが企画しました」

2人はスクリーンを用意し、牢獄の奥に広げる……。

紀葉

「パフパフパフ！あ、作者さんが確保された所は撮ってないからね」

しら

「良かった……」

カイクウ

「……ホッ」

2人は安心する……。

エスピオ

「我々が捕まった所を撮ったっていんですか……？」

紀葉

「いえ、竜斗さんが撮りました。まず、見てみまショー！！！！！！」

シエゾ

「うわー！！！！！！止めてくれー！俺の精神が持たん」

その時、シエゾはソニックとゼロとブロリーによって鎖で縛られ、シエゾの口をガムテープで塞いだ。

紀葉

「それでは、始まり始まり〜WWW」

数分後・・・。

ソニック

「結構面白かったな」

バーダック

「休憩タイムはまだ続くのか？」

アルル

「あつ、ちよつと待って！何かメールが来たよ」

アルルはそのメールの内容を開く。

その時、逃走者達（確保された者達は除く）はオープニングゲーム地点に転送された・・・。

ラフィーナ

「えっ！？転送されましたわ！？」

ロイ

「うん・・・おっと、悩んでる場合じゃなかった。

アルル、そのメールの内容を読んでくれ」

アルル

「うん、わかった」

アルルはメールの内容を読む……。

アルル

「『これより、復活ゲームを行う。』復活ゲームだ！」

ルールは次回へ……。

果たして、復活出来る者は、誰だ！？

休憩タイム（後書き）

果たして、復活出来る者は、誰だ！？

復活ゲーム（前書き）

復活ゲームが、行われる！

復活ゲーム

アルル

「復活ゲームのルールは……」

ロイ

「『牢獄の者達は各エリアにある宝箱の中にある』」

エリオ

「『復活の珠を持って行き、オープニングゲーム地点に行けば、』」

ウルフ

「『復活することが出来る』おっしゃあ！復活してやるっじゃないよ！」

しら

「『しかし、復活ゲームの間は30体のハンターが放出される』
うっん、有利と不利ですね……」

カイクウ

「『また、復活の珠をハンターの近くに落とせば、』」

シエゾ

「『5秒間の間ハンターの動きを止めることが出来る』か……」

果たして、復活出来る者は誰だ！？

牢獄内にいる者

エスピオ・ザ・カメレオン、高町なのは、ティアナ・ランスター、ロイ、アルル・ナジャ、シャマル、ルルー、レムレス、聖徳太子、野比のび太、カイクウ、ファルコ・ランバルディ、アミティ、ウィツチ、

八神はやて、ささきまぐる、シグ、ベクター・ザ・クロコダイル、ハリス、

エリオ・モンディアル、パラガス、ドラコケンタウロス、ラングレイ、

タケシ、ラフィーナ、アコール先生、ウルフ・オドネル、しら、シエゾ・ウィグイイ

> i 3 4 5 6 3 — 4 2 6 0 <

牢獄の扉が開き、牢獄の者達は一斉に脱出する……。

聖徳太子

「嫌だ〜！」

太子、即確保……。

聖徳太子

「この摂政が・・・」

更に、ラングレーも・・・。

距離を詰められ、成す術無く確保・・・

ラングレー

「うぎゃ〜!」

シグも・・・。

シグ

「・・・」

距離を詰められ、成す術無く確保・・・

シエゾ

「これか・・・?」

シエゾは復活の珠をゲットする。

しかし、オープニングゲーム地点まで行かなければならない・・・!

ロイ

「よし・・・! あったぞ!」

ロイも、ゲットだ……。

パラガス

「うわ、ハンターいっぱいいるし……」

その瞬間、ハンターに気づかずに確保……。

パラガス

「何っ!？」

更に、ドラコが……。

ドラコ

「いや〜!」

ティアナが……。

ティアナ

「こりゃ不可能よ〜!〜!」

カイクウが……。

カイクウ

「マジかよ……!〜?」

連続で確保……。

しら

「ありました……!」

しら、復活の珠ゲット……。

アミティ

「これだね」

アミティも、ゲット……。

エスピオ

「よし……！」

エスピオも、ゲットした……。

ウィッチが……。

ウィッチ

「いててだよ」

ラフィーナが……。

ラフィーナ

「いや〜!〜!」

はやてが……。

はやて

「ゴメンな……」

連続で確保……。

ロイ

「着いたぞ〜・・・!!」

ロイは、オープニングゲーム地点にたどりつく・・・。

> i 3 4 5 6 2 — 4 2 6 0 <

ロイ

「ふ〜・・・」

アコール

「ありました・・・!!」

アコール先生、復活の珠ゲット・・・。

ハリス

「よし、あつたよ」

ハリスも、ゲット・・・。しかし。

ハンター

「……」

ハリス、即確保……。

ハリス

「嘘だろう？」

アルルが……。

アルル

「見つけた！」

アルルも、ゲット……。

ベクターが……。

ベクター

「うおわ〜!!」

ファルコが……。

ファルコ

「おうっ!?!」

のび太が……。

のび太

「ぎゃあああああ」

まぐろが……。

まぐろ

「もう無理……」

連続で確保……。

エスピオ

「ここだな……!」

エスピオも、到着……。

> i 3 4 5 6 0 | 4 2 6 0 <

エスピオ

「お主も来てたのか……」

ロイ

「復活出来て良かったよ……!」

アコール

「オープニングゲーム地点まで、もうすぐです……!」

しかし、アコール先生の近くに、ハンター……。

アコール

「!?!?これを落として……」

アコール先生は復活の珠をハンターに向けて落とす。

すると、ハンターの動きが止まった……。

アコール

「よし……!」

しかし、前方からハンターが迫り、即確保……。

アコール

「嘘でしょう……!?!?」

しら

「着きました……!」

しらはその間に着く。

エリオが・・・。

エリオ

「嫌だ〜！」

なのはが・・・。

なのは

「きゃ〜！」

タケシが・・・。

タケシ

「ふざけんなよ〜！」

アミティが・・・。

アミティ

「着いた！」

アミティも、オープニングゲーム地点に到着・・・。

> i 3 4 5 5 7 | 4 2 6 0 <

アミティ

「アルルはまだかな？」

シヤマルが・・・。

シヤマル

「きゃあ〜！」

ルルルが・・・。

ルルル

「不覚・・・」

レムレスが・・・。

レムレス

「フェーリ、ごめん・・・」

連続で確保・・・。

現在残っている者は、
アルル・ナジャ、ウルフ・オドネル、シエゾ・ウィグイイの3人の
み。。。

ウルフ

「よし、もうすぐだ。。。」

シエゾ

「復活してやる。。。」

アルル

「ソニックと一緒に。。。」

3人は復活に急ぐ。。。

ハンター

「！」

しかし、3人はハンターに見つかる。。。

アルル

「しまった！」

ウルフ

「ここで見つかったら・・・！」

シエゾ

「俺が代わりになるから、お前らは先に行くんだ！」

2人

「で、でも・・・」

シエゾ

「このままじゃお前らも捕まるから！」

2人

「・・・わかった！」

2人はオープニングゲーム地点に急いだ。

シエゾ

「・・・」

シエゾも確保・・・。

アルル

「着いたよ……!」

> i 3 4 5 5 8 — 4 2 6 0 <

ウルフ

「よっしやああああ!」

> i 3 4 5 5 9 — 4 2 6 0 <

復活ゲームが、終わった……。

復活ゲーム（後書き）

復活した者達は、

ロイ、エスピオ・ザ・カメレオン、しら、アミティ、
アルル・ナジャ、ウルフ・オドネルの6人・・・。

ハンターへりを追い返せ！（前書き）

今回、月の砦の奴等の正体が明かされる・・・！？

そして、謎のへりが解き放たれる！

ハンターへりを追い返せ！

復活組は、オープニングゲーム地点に待機している……。

アルル

「あつ、タイマーが動いた！」

ロイ

「また始まるな……！」

しら

「頑張つて、逃げ切ります！」

エスピオ

「カオティクスのメンバーで長く生き残ってみせる……！」

アミティ

「とりあえず、頑張る！」

ウルフ

「俺も逃げ切つて見せるぜ……！」

10

9

8

復活組は、とっさに動く・・・。

0
.
.
.
。

1 2 3 4 5 6 7

プルルルル

フォックス

「？」

シルバー

「『復活ゲームの結果』？誰が復活したんだ？」

チャーミー

「『ロイ、エスピオ・ザ・カメレオン、しら、

アミティ、アルル・ナジャ、ウルフ・オドネルの6人』

6、6人も復活しちゃったよ！？」

ヴィータ

「復活組多いな……。まあ復活しても

捕まる運命に会っただからな……。！」

ソニック

「おお、アミティとアルルが復活した！」

マルス

「僕の仲間が増えたね……」

フォックス

「チッ、俺のライバルが……」

チャーミー

「これは心強いね！」

太陽の神殿にて・・・。

マリオ

「さかな王子、あの事はすまん」

さかな王子

「余ハモウ怒ツテナイノダカラ、良イノダ！」

オトモ

「でも、次からは勘違いしないでくださいね」

レッド

「・・・わかったよ」

アイク

「おっと、お前達に話したい事があるんだ」

2人

「？」

アイク

「月の砦の奴等は・・・何者なんだ？」

何か自分を半分改造されたような・・・」

さかな王子

「アア・・・アツラハ・・・」

さかな王子

「・・・人造人間サ」

その頃、月の誓にて……。

ガノンドロフ

「チツ、俺等の正体がばれてしまったか……」

デデデ

「どうするんだデ？ここから退散するのか？」

ガノンドロフ

「いや、俺等はそんな退散するほどヤワじゃない……」

ガノンドロフはモニターを出現させ、

「爆弾投下」というボタンを押す……。

ガノンドロフ

「あいつらには、消えてもらおう……!!」

プルルルル

アルル

「？」

ウルフ

「ミッション5か・・・早速きたぜ」

パルポン

「『Hヘリポート（？マーク）を構成する』」

しら

「『パネル16個全てを時間内にそのまま裏返さない』」

キヤロ

「『到着してハンターを5体放つ。』ご、五体！？」

MISSION？ ハンターヘリを追い返せ！

Hヘリポート（？マーク）を構成する

パネル16個全てを時間内にそのまま裏返さない、

到着してハンターを5体放つ。

ソニック

「よし、行くか……！5体なんてとんでもねえ」

ゼロ

「俺も行こう……！」

ブロリー

「やってやる……！」

キャロ

「行きます！」

しら

「僕も行きます！」

スライムマン

「ハンターへりを、追いついて見せます……！」

ヨッシー

「やってみます！」

無幻

「今回は・・・参加しないな」

ヴィータ

「チエツ！ハンター5体なんてそんなミッションやらねえぜ！
行きたい奴が行けば良いんだよ・・・！」

紀葉

「ハンター5体・・・放出したらオワタw」

デイディー

「隠れる隠れる」

じーさん

「嫌だ、絶対にワシは行かん！」

シグナム

「ム・・・ここは行かないだな・・・」

ドンキー

「悩むな〜・・・」

果たして、ハンターヘリを、追い返せるのか！？

ハンターへりを追い返せ！（後書き）

果たして、ハンターへりを、追い返せるのか！？

ハンターへリ（前書き）

無事、ハンターへリを追い返せるか!?

ハンターヘリ

残り560分になると、ハンターヘリが到着し、5体のハンターが放出される……！

フォックス

「おっと、ジーさんか……面白い、何もせずに捕まらせてやる！」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「ジーさん、ゴッドパークにいます……」

通報を受けた4体のハンターが、ジーさんの確保へ動く。

ジーさん

「よし、このまま待つか……」 ポンッ

> i 3 4 6 1 2 — 4 2 6 0 <

ジーさん

「……なあああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
「！」

プルルルル

孫

「確保情報だ！」

ウオツチ

「『裏切り者の通報によって』」

校長

「『じーさん確保』やった！ジジイに勝ったぞ！！」

ロボット

「結構ノペースで確保サレテ行キマスネ・・・」

ウィータ

「コイツ・・・裏切り者に通報されてるよ・・・！！」

ヴィータ

「頼むからミッション早くクリアしてくれよ……」

ヴィータ、この女は全く動く気は無いようだ……。

クルーク

「よし、そろそろ自首しようかな……」

クルークは電話ボックスを探す……。

ディディー

「兄貴はやってくれるかな？」

こちらも、人任せのディディーだ……。

ソニック

「おっと、ここはHへリポートか……」

ソニック、一番にたどり着く……。

ソニック

「でも、このパネル16枚も返さなきゃ行けないとかって……！」

その時、パルポンが来た……。

パルポン

「どうしたんだ？」

ソニック

「パルポンさん！今パネルを返そうとしてるんですが……」

パルポン

「よし、俺も手伝うよー！」

ソニック

「ありがとうございますー！」

パルポン、協力……。

ウルフ

「ここは動かない方がいいか……？」

こちらも人任せの、ウルフ……。

ミッションに行くか、行かないかは、逃走者達の自由だ……。

クルーク

「あつた、電話ボックス！」

クルークは電話ボックスを見つける……。

クルーク

「やっぱり、高い賞金を手に入ればそれで良いね……！」

しかし、クルークの近くに、ハンター……。

> i 3 4 6 1 5 — 4 2 6 0 <

しかし、クルークは、気づいていない……。

クルークは自首用の番号を押す。

クルーク

「もしもし、クルークです。自首します」

自首成立・・・。

> i 3 4 6 1 3 | 4 2 6 0 <

クルーク

「ボクが自首出来たのは初めてだね・・・」

プルルルル

アミテイ

「メールだ、『クルーク自首』・・・じ、自首!？」

ソニツク

「ハア!？」

ヴィータ

「おい、クルーク、ふざけんなよこの野郎!!」

ウォッチ

「酷イデスヨ、クルークサン!!」

ヨッシー

「私達が頑張ってるのに・・・」

ウルフ
「逃げるとか卑怯だぞこの野郎!!」

牢獄

じーさん

「クルーク自首だつてよ」

全員

「ハア!？」

シャマル

「卑怯ですよ、クルークさん……!!」

シエゾ

「あいつは自首する気満々だったからな……」

エリオ

「クルークさん酷い……!!」

ソニック

「よし、パルポンさん、そっちも裏返してください！」

パルポン

「OK！」

2人は順調に5枚くらい裏返している……。

しかし、2人の近くに、ハンター……。

> i 3 4 6 1 6 — 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

見つけた……。

ソニック

「！？ハンター来ましたよ！」

パルポン

「マジかよ……！？」

ソニック、パルポン、逃げ切れるか!?

ハンターヘリ（後書き）

ソニック、パルボン、逃げ切れるか!?

（クルークが自首した賞金の数字がおかしいと言っことは
気にしないでください。）

牢獄の者達に新たな奇跡が！（前書き）

牢獄の者達に・・・。

牢獄の者達に新たな奇跡が！

ソニック

「くそ〜！捕まってたまるか！」

ソニックは一目散に逃げる。

パルポン

「うおりゃ〜！！！」

パルポンは全速力で逃げる。

2人

「はあ、はあ、はあ・・・」

ハンター

「・・・」

何とか、振り切った・・・。

牢獄

シエゾ

「うわ、ヴィータ酷え……」

シヤマル

「全然動く気無いわね、ヴィータは……」

じーさん

「しかも作者さんにも暴言言ってたぞ」

エリオ

「マジですか？」

ファルコ

「本当らしいぜ。復活ゲームが終わった時に」

レムレス

「何だと!？」

なのは

「それは許せないわね……!!」

その時、ある人物達が牢獄の前に現れた……。

クロノ

「何だ? ずいぶんもめてるな」

シヤリオ

「どうしたんですか?」

クロノとシャリオがやって来る……。

シエゾ

「お前、機動六課のクロノとシャリオ!？」

クロノ

「ああ、そつだ」

シャリオ

「そつですよ」

2人は自己紹介をする。

ファルコ

「で、俺等の前に何しに来たんだ？」

クロノ

「実は、お前達に渡したい者があってな……」

クロノはバッグから紙を出す。

なのは

「……紙？」

クロノ

「ここに、誰がミッションクリアするかを予想するんだ」

クロノは牢獄内にその紙を置く。

シャリオ

「上手く当てれば、その人は復活できるといっわけです」

シエゾ

「マジでか・・・!?!」

クロノ

「ああ。よし、伝えたいことはこれだけだ。じゃあな」

2人は去って行った・・・。

なのは

「よし、当てちゃおう!」

全員

「オー!」

全員は紙に誰がミッションクリアするのかを記入した・・・。

一方、逃走者の方は・・・。

校長

「ここは動かない方がいいかな」

校長はゲーム開始時からずっと隠れている・・・。

ハンター

「！」

見つかった・・・。

校長

「しかし、とつても広い街ってハンター!？」

校長は一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

校長

「おべべ〜!!」 ポンッ

> i 3 4 7 0 0 — 4 2 6 0 <

校長

「くそ〜、悔しいぞ!!」

プルルルル

フェーリ

「確保情報ね・・・」

サタン

「『スターパークにて、』」

孫

「『校長確保』校長先生、捕まっちゃったよ・・・！」

ゲベ

「でんじやらすじーさん組がどんどん捕まっていくな・・・！」

ゼロ

「よし、着いた・・・！」

ヨッシー

「ああっ、ゼロさん！」

ゼロ

「？何だ？」

ゼロはヨッシーの方に駆けつける。

ヨッシー

「へりポートに着きましたから、私も手伝います」

ゼロ

「サンキュー」

ゼロ達はへりポートの上に立ち、早速ひっくり返した……。

ヨッシー

「よし、ここはできました！」

ゼロ

「ああ、俺も出来たぞ」

何とか、2枚返した……。

ウォッチ

「アッ、見ツケマシタ！」

ウォッチも、へりポートに到着……。

ゼロ

「良かった！ウォッチ、お前もパネルを返してくれ！」

ウォッチ

「了解！」

ウォッチも、ミッション参加……。

現在、路地裏に隠れているヴィータ……。

ヴィータ

「まだ隠れとくか……」

ゲーム開始時から、ろくに動いていない、ヴィータ……。

ヴィータ

「早くクリアしろよ……！あたしまで冷や冷やする」

人任せで口だけは達者のヴィータ……。

しかし、彼女の近くに、ハンター……。

> i 3 4 7 0 1 — 4 2 6 0 <

ヴィータ

「なっ……!? あれハンターじゃねえかよ……!?」

ハンター

「!」

見つかった……。

ヴィータ、逃げ切れるか!?

牢獄の者達に新たな奇跡が！（後書き）

ヴィータ、逃げ切れるか！？

ミッション5終了ー！そして・・・。
(前書き)

ハンターへりを、追い返せるか!?

ミッション5終了！そして……。

ヴィータ

「チッ」

ヴィータは舌打ちを放った後に逃げる。

ヴィータ

「捕まってたまるか……！賞金はあたしがもらって行くんだ」

ヴィータは必死に逃げる。

ハンターもヴィータの後を追う。

ヴィータは何とか路地裏を抜け、
建物の角を利用しながら逃げる。

それに巻き添えになったものは……。

ディディ

「ヴィータ！？」

デイディーコングだ・・・。

ヴィータ

「あたしの身代わりになれ!!」

デイディー

「嫌だ〜!!」

ヴィータはデイディーを追い抜かした!

>i34707—4260<

ハンターは標的をヴィータからデイディーに標的を変えた!

デイディー

「おわっ!!」 ポンッ

>i34709—4260<

デイディー

「何だよヴィータ!あいつ最低だな!!」

デイディーも、ヴィータに批判だ・・・。

ヴィータは、そのまま走って去って行った。

プルルルル

しら

「確保情報です・・・！」

パルポン

「最近確保情報多いな・・・！」

ドンキー

「『路地裏付近にてデイディーコング確保』
デイディー〜！！』」

シグナム

「長く生き残りそうな奴等がどんどん捕まっていくな・・・。」

フェイト

「メタナイトと頑張らないと・・・！」

ヴィータ

「あゝ、危ねえ・・・誰かいて正解だったな・・・！」

ロボット

「ゼロサン」

キャロ

「わっ、いつぱいいる！」

紀葉

「足が・・・w」

スライムマン

「着きました！」

ブロリー

「俺もだ」

しら

「ようやくです・・・」

ゼロ

「おっ、ありがとう！手伝って！」

6人

「了解！」

合計、9人となった・・・！

ウォッチ

「結構ノ数返セマシタ！」

ヨッシー

「こっちもです!」

ゼロ

「よし、絶好調だ!」

キャロ

「こっちも返しましたよ!」

紀葉

「大勢いるとはかどるぞ!」

しら

「よし、そろそろクリアに近いですよ!」

スライムマン

「こっちもひっくり返せました!」

ブローリー

「よし・・・」

ロボット

「私モデス」

ゼロ

「よっしゃ!あとはこの1枚をひっくり返せば・・・」

ゼロは残り1枚をひっくり返す!

>i34708|4260<

ゼロ
「おっしや〜!〜!」

ミッションクリア

ゼロ
「よし……。皆分かれるんだ!」

全員
「OK!」

全員、別々に行動した……。。

プルルルル

パルポン

「おっ、ミッションクリア情報か！」

シグナム

「『ゼロ、紀葉、キャロ・ル・ルシエ、ヨッシー、

Mr・ゲーム&amp;ウオッチ、ロボット、しら、スライム
マン、パルポン、

ソニック・ザ・ヘッジホッグ、ブローリーの活躍によってミッシ
ョンクリア』

おお〜……。なかなかの数だな」

ヴィータ

「もっと早くクリアしろよな……！」

メタナイト

「私も見習わないと……」

スバル

「次に参加しよう！」

牢獄

デイディー

「ミツシヨククリアだって！」

校長

「本当か！？復活したのは誰なのじゃい！？」

先ほど確保された校長もデイディーも、
誰がミツシヨククリアするかを予想していた……。

なのは

「誰、復活者？」

カイクウ

「気になるから言ってくれ」

デイディー

「ちよっと待って……。復活者は……」

ディディー

「シエゾ・ウイグイイ！」

全員

「おお〜！！！！！！」

> i 3 4 7 1 0 — 4 2 6 0 <

シエゾは、牢獄から脱出した。

シエゾ

「また頑張ってくるぜ！」

シエゾは元気良く行った……。

月の誓にて……。

ガノンドロフ

「チツ、また作戦はうまく行かなかったか……」

するとガノンドロフ達は、モニター室から操縦室へと向かった……

。

その時、ガノンドロフは不気味な笑いをした……。。

ミッション5終了！そして・・・。(後書き)

謎の組織はいったい何を考えている・・・？

ガノンドロフ達の新たな作戦（前書き）

ガノンドロフ達は・・・。

ガノンドロフ達の新たな作戦

ガノンドロフ達は操縦室に着いた。

ガノンドロフ

「フフフ……。人造翼竜メタリドリー！出向だ！！」

メタリドリー

「シャアアアアア！！！！！！」

メタリドリーは、月の砦の玄関前に現れる……。

ガノンドロフ

「フフフ……」

ガノンドロフ達は、メタリドリーの背中に乗った……。

メタリドリーは、トリニティ・ペルソナシティの中心へと飛び立った……。

更に……。

ハンター5体

「……」

メタリドリーの中に、ハンター5体が閉じ込められていた……。

牢獄

ファルコ

「あつ、問題児」

牢獄の前に、ヴィータが通りかかった。

ヴィータ

「問題児？あたしの事か？」

エリオ

「そうですよ」

ヴィータは牢獄に顔を向ける。

ヴィータ

「あたしのどこが問題児なんだよ？」

ベクター

「いやさあ、ミッション参加者に文句言ったり、作者さんに暴言放ったり、ディディーを囿にしたり等とか、何もいいとこねえじゃん」

ヴィータ

「・・・」

レムレス

「本当ならここでボコボコにしたいところだけどね・・・
まあヴィータ君に対して怒るのはいいんだけど」

ヴィータ

「？」

ファルコ

「でも、俺等が・・・おっと、これぐらいにしとくか」

ヴィータ

「・・・」

ヴィータは何故か悩む。

ヴィータ

「と、とにかく、あたしが賞金を貰って行く事は確定してるんだ！
それじゃあなー!!」

ヴィータは恥ずかしながら牢獄から去った。

牢獄の者達

「・・・？」

プルルルル

アルル

「復活者？復活者なんて出てたの？」

ソニック

『『牢獄でミッションクリア予想通達で、シェゾ・ウィグイイ復活』
シェゾ復活か！』

しら

「もっと活躍してほしいですね！」

アミティ

「変態魔道士復活か〜！」

ウィータ

「また復活者が出たか・・・だけどな、
結局は捕まる運命に会ったからな・・・！」

ウルフ

「来た、俺の救世主！」

アルル

「『更に、ミッション6発動』ミッション6!？」

シエゾ

「『ガノンドロフ達が、メタリドリーに乗って』」

フォックス

「『エリア中を探し回っている。』はあ？」

シグナム

「『更に、メタリドリーの中にハンター5体があり、』」

ヴィータ

「『逃走者を見つけ次第、空から通報する』・・・

ちよつと待てよ!?!今あたし達めっちゃ不利じゃねえかよ!?!」

スバル

「『だが、止める方法がひとつある』?」

アミティ

「『月の砦にある操縦室のメタリドリー不能レバーを』」

ウォッチ

「『上げなければならぬ』コレハモシヤ、

安全ナ地等、存在シナイ・・・?」

ロイ

「何を考えてるんだあいつ等は・・・!?!」

MISSION? メタリドリーを再び阻止せよ!

ガノンドロフ達が、メタリドリーに乗って、
エリア中を探し回っている。

更に、メタリドリーの中にハンター5体があり、
逃走者を見つけ次第、空から通報する。

だが、止める方法がひとつある。

月の砦にある操縦室のメタリドリー不能レバーを、
上げなければならない。

スバル

「行くっ!」

紀葉

「通報されたら嫌なんで……。行きません」

ドンキー

「誰かやってくれるだろ……」

セル

「俺が行こうか……?」

ヴィータ

「フン！ミッション行きたい奴らは行って、

そいつらはとっとと通報されちまえばいいんだよ！」

シグナム

「これは危ない……。！行こう！」

シエゾ

「通報とか、あり得ないだろ……。？だから行く」

ゼロ

「行かなくては……」

エックス

「ゼロに任せよう……。！」

カルピスフロート

「私も行きます！」

無幻

「俺は行かねえぞ……。！」

パルポン

「行つとこうかな？・・・？」

ヨッシー

「絶対に、阻止してみます！」

フォックス

「皆行く気がありそうだな？・・・俺も行く。
そして皆を通報してやる・・・！！！」

ジューゲム

「折角出させて貰つてるんだから、
一つぐらいは行かないと・・・！クツパ様の為に」

アルル

「誰かやってくれるでしょ・・・？」

ウォッチ

「ロボットサン！行キマスカ？私八行キマス」

ロボット

「エエ、私モ行キマス。私達八仲ガ良イノデスカラ」

ミッションに参加する逃走者が、大勢いる・・・。

しかし、ミッションに参加しない逃走者も、大勢・・・。

果たして、逃走者達はこの鬼畜なミッションをクリア出来るのか！
？

ガノンドロフ達の新たな作戦（後書き）

ミッションに参加する逃走者が、大勢いる・・・。

しかし、ミッションに参加しない逃走者も、大勢・・・。

果たして、逃走者達はこの鬼畜なミッションをクリア出来るのか！
？

ハンターの通報（前書き）

作者

「ヴィータ」

ヴィータ

「何だよ？」

作者

「お前、めっちゃ他の作者さんから苦情来てたぞ」

ヴィータ

「・・・で、それがどうしたんだよ？」

作者

「これからは禁句を言わないように。わかったな？」

ヴィータ

「わかったよ、あたしも何とかやってみせるよ」

作者

「よし、そっぴなくちゃ」

果たして、ミッションをクリア出来るのか!?

ハンターの通報

残り500分までレバーを上げないと、そのままメタリドリーが動き続ける……！

シグナム

「ソニックを誘うか……？」

シグナムはソニックを誘う。

プルルルル

ソニック

「もしもし、ソニックだけど。おっ、シグナム？どうしたんだ？」

シグナム

「お前、ミッション参加するのか？」

ソニック

「うーん、決めた結果、やっぱり行かないかな」

シグナム

「通報されるのが、怖いからなのか……？」

ソニック

「まあ、そつとも言えるな」

シグナム

「……まあ、行かないのは良いが、くれぐれも通報されないよう

にな」

ソニック

「OK!」

シグナムは電話を切った。

シグナム

「こうなったらあたしが行くしかない……!」

リデル

「通報、怖いです……!!」

リデルは通報に怯えている……。

フェーリ

「ヴェータって言う子、かなり苦情来てるみたいわね……」

フェーリも、牢獄からはやてに知らされているようだ……。

スバル

「ハンターヘリで通報と同じじゃない……!?!」

スバルも怯えている。

しかしミッシヨン成功の為、必ずやり遂げてみせるらしい……。

ルイージ

「嫌だよ、通報なんて!」

こちらはゲーム開始時から、あまり動いていない、ルイージ……。

しら

「ヴィータをどうしよう……」

しらはヴィータをポコポコにする方法を考えている様だ……。

ドンキー

「おっ、いい隠れ場所があった……!」

ドンキーは公園にある外の休憩所に隠れる。

ドンキー

「上から通報するんだから、

天井がある所では通報できないだろ……！」

ドンキーも、たまには考える……。

りんご

「怖いな……」

りんごも、ミッション参加だ……。

しかし、ハンターがりんごの姿を捉えた……。

ハンター

「あんどつりんご、ウォーターパークにいます……」

通報によって、ハンターは即座にりんごの確保へと向かう。

りんご

「でも、これだけ広いんだったら通報され……ってハンター!？」

> i 3 4 7 2 7 — 4 2 6 0 <

りんごは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

りんご

「やあああああ〜！」 ポンッ

> i 3 4 7 2 5 | 4 2 6 0 <

りんご

「こんな所で終わるなんて・・・」

プルルルル

りすくませんばい

「なっ・・・！？確保情報だと？」

ウルフ

「『ハンターの通報によって』」

フェイト

「『あんどつりんご確保』うわあ、通報されちゃったよー!？」

ヴィータ

「なんで動くんだよ・・・コイツバカ過ぎるぜ・・・!」

シエゾ

「通報一人目かよ……!?!」

安雄

「俺も通報されないように気をつけないと……!」

安雄も、慎重派だ……。

ヴィータ

「通報とか厄介だぜ……!でも動いてないあたしには関係ないけどな」

しかし、ハンターが、ヴィータの姿を捉えた……。

ハンター

「ヴィータ、オープニングゲーム周辺にいます・・・」

通報によって、ハンターは即座にヴィータの確保へと向かう。

ヴィータ

「よし、ここなら・・・ってハンターかよ・・・!?!?」

ヴィータは一目散に逃げる。

リデル

「ヴィ、ヴィータさん!?!?」

更に、リデルがヴィータの逃げる方向にいた・・・。

> i 3 4 7 2 8 — 4 2 6 0 <

ヴィータ

「邪魔だ!どけ!」

リデル

「キャッ!」

ヴィータはリデルを手で突き飛ばす。

上空では・・・。

ハンター

「リデル、月の細道にいます・・・」

通報によって、ハンターはヴィータからリデルに標的を変えた!

リデル

「嫌です〜・・・」 ポンツ

> i 3 4 7 2 6 | 4 2 6 0 <

リデル

「ヴァイターさん酷いです・・・!!」

ブルルルル

シグナム

「『ハンターの通報によって』」

サタン

「『リデル確保』 結構なペースで捕まっていくな・・・!!」

パルポン

「やはり、ここは行った方がいいな・・・。

そして後でヴァイターにDKトロップキックか・・・

剣で半殺しか・・・無理やりハンターの近くまで
引きずり出そうかな？」

牢獄

りんご

「通報だなんて・・・」

リデル

「私はヴィータさんに突き飛ばされました・・・」

2人は悔しながらも、牢獄に入る・・・。

シヤマル

「またヴィータの仕業の様ね」

カイクウ

「もしあいつが捕まったら俺達どうする？」

エリオ

「皆で袋叩き。これはどうかな？」

まぐろ

「それが良いね！」

ファルコ

「でも、ああいう人ほど長く生き残るって聞いた事があるぞ。
ボコボコに出来るのは時間の問題じゃねえか？」

はやて

「うん……確かにな……」

果たして、メタリドリーを止められるのか！？

ハンターの通報（後書き）

果たして、メタリドリーを止められるのか！？

メタリドリーを止める！（前書き）

逃走者達は、メタリドリーを止められるのか！？

メタリドリーを止める！

しら

「よし、ここなら見つかりません・・・」

しらは森の中に隠れ、うまくやり過す。

シグナム

「空からの通報はやはり怖い者だな・・・」

シグナムも、怖がっている・・・。

シグナム

「いや、ヴォルケンリッターの将として逃げ切ってみせる！」

意地を張るシグナム・・・。

ヴィータ

「ここに隠れとくか……」

現在ろくに動いてない、ヴィータ……。

だが、空からハンターがヴィータの姿を捉えた……。

ハンター

「ヴィータ、路地裏周辺にいます……」

通報によって、ハンターは即座にヴィータの確保へと向かう。

ヴィータ

「ここは路地裏だな……よし、ここに……ってハンターかよ！
？」

ヴィータは路地裏に逃げる。奥に進んで……。

> i 3 4 7 5 3 | 4 2 6 0 <

ヴィータ

「うおっ！？行き止まりかよ」

最早、逃走不可能……。

ヴィータ

「うああ〜！」 ポンッ

> i 3 4 7 5 5 | 4 2 6 0 <

ヴィータ

「何で行き止まりなんだよ……!?!?」

路地裏に逃げたのが負けだった……。

プルルルル

フェーリ

「何よ……?」

天田

「『ハンターの通報によって』」

ウルフ

「『ヴィータ確保』問題児が捕まったな……」

ドンキー

「危ね……」

フェイト

「絶対牢獄でお仕置きくらってるかも?」

izumi

「あれ？あそこにいるのはカルピスフロートさん？」

izumiはカルピスフロートを発見する。

カルピスフロート

「izumiさん？」

カルピスフロートはizumiの元に駆けつける。

izumi

「？」

カルピスフロート

「ミッションやりましょうよ？通報はとても痛いですからね」

izumi

「やります！」

izumi、誘われたら断れない性格だ……。

カルピスフロート

「よかったです。月の誓までもう少しですから一緒に合流しましよ
う」

izumi

「はい！」

izumi、カルピスフロートと合流……。

パルポン

「おっ、ハンターだ……！！」

パルポンはすぐに反対の方に逃げる。

ハンター

「……」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない……。

パルポン

「危ねえ〜！ここも安全な地じゃないな……」

この街に安全な地など、もう存在しない……。

ナツクルズ

「裏切り者か……」

ナツクルズは身を隠しながら向かう。

だが、裏切り者がナツクルズの姿を捉えた……。

フォックス

「よし、あいつはあんまり動く気は無さそうだな……!!」

ナツクルズ、隠者の公園付近にいます……」

通報を受けた4体のハンターが、フォックスの確保へ動く。

ナツクルズ

「前方に気をつけても後方から……ってハンターかよ!？」

> i 3 4 7 5 4 — 4 2 6 0 <

ナックルズは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

ナックルズ

「おわあ〜!!」 ポンッ

> i 3 4 7 5 6 | 4 2 6 0 <

ナックルズ

「畜生、ここまでか・・・」

フォックス

「ざまあみやがれ、俺を敵に回したことを後悔するがいいわ・・・!!」

フォックスは不気味な笑いを見せる・・・。

ブルルルル

ソニック

「携帯うるせえな・・・!!」

シエゾ

「『裏切り者の通報によって』裏切り者かよ……!?!?」

サタン

「『ナツクルズ・ザ・エキドゥナ確保』……」

テイルス

「ええ〜!?!? 捕まっちゃったの〜?」

フェーリ

「この人動いちゃったの……?」

牢獄

ナツクルズ

「って……その血まみれの奴はどうしたんだ?」

実は、ナツクルズが確保される前に、ヴィータに全員で袋叩きして、

パルポンがペルソナの力（疾風）を纏って剣で殺り、
d Kを^{ドロップキック}ヴィータに放ち、

紀葉がフライパンで滅多打ち、膝十字固めをして、
ブローリーによるポットごと握りつぶし投げ、

ジャンンバによる針山地獄の刑と

ボージャックによる殺戮シヨアの刑もしたのだ……。
その血まみれの正体は、ヴィータだ……。

ナツクルズ

「……ゴメン、俺ちよつとトイレ行ってくる」

吐きそうなのだろうか？

メタリドリーを止める！（後書き）

果たして、メタリドリーを、止められるのか!？

みんな隠れがち(前書き)

逃走者達は、通報を恐れて隠れ続けている・・・？

みんな隠れがち

スバル

「もうちよつとだ……！あつ、ジュゲムさん！」

ジュゲム

「？」

スバル、ジュゲムと出会う……。

ジュゲム

「見たところ、お前もミッション参加するの？」

スバル

「勿論ですよ……！このまま置いてたら

皆通報の餌食になります……！！！」

ジュゲム

「そりゃあ、そうだよね……オイラもミッション参加してんだ」

スバル

「えっ？本当ですか？じゃあ合流しましょう！」

ジュゲム

「OK！」

スバル、ジュゲムと合流……。

その頃、とある月にて・・・。

???

「フフフ・・・作戦は順調だな」

謎の人物は、ガノンドロフ達がメタリドリーで街を
暴れまわっているところをモニターに映している・・・。

???

「人造人間1号、ガノンドロフ・・・。

人造人間2号、ゼルダ・・・。

人造人間3号、デデデ・・・。

この私がお前達を作った事を敬え・・・」

謎の人物は高笑いをする・・・。

一方、逃走者の方は……。

シエゾ

「ハンターめ……何で俺らを妨害するんだよ……!?!?」

シエゾも、通報、裏切り者に怖がって慎重に動く……。

シエゾ

「あっち行けよ、ハンター……!」

シエゾは祈る。

ドンキー

「よし、ハンターいない……」

ドンキーはそのまま隠れ続ける。

ヨッシー

「ドンキーさん?」

ドンキー

「うわっ!?!?」

ドンキーは驚く。

ドンキー

「な、何だ、ヨッシーかよ……。急に出てくるなよ」

ヨッシー

「すみません。私もここに隠れさせて貰っていいですか？」

ドンキー

「おお、良いぞ」

ヨッシー

「ありがとうございます」

ヨッシーも、ドンキーの近くに隠れる……。

ヨッシーも、通報を怖がっているのだろうか……？

ドンキー

「それにしても、空からの通報って厄介だよな……」

ヨッシー

「見つかったら即終わりですもんね……」

2人は悩む……。

ピット

「あっ、ヒュースケンさん……！」

ヒュースケン

「ピットさん？」

ピット、ヒュースケンと出会う……。

ピット

「ここにはハンターが近くにいますからすぐ隠れてください……！」

ヒュースケン

「へっ？……はい！」

2人はすぐに近くの草むらに隠れる……。

ピット

「しかも空からの通報……これは本当に厄介ですよ……！」

ヒュースケン

「ハンターが鬱陶しいのは当たり前なんですけど、通報はもっと怖いですよ……！」

2人は通報に怯える……。

小野妹子

「何でミッションっていう物があるんでしょう……!?!?」

その時、河合曾良が小野妹子の元にやって来た……。

河合曾良

「どうしたんですか?」

小野妹子、河合曾良と出会う……。

小野妹子

「あつ、ハンターがきてます……!今すぐ隠れてください!」

河合曾良

「はい」

2人は急いで隠れる。

隠れる者が、大勢だ……。

紀葉

「カービィ〜！」

紀葉はゴミ箱の中に隠れようとしているカービィを呼び止める……。

カービィ

「何ですか？」

カービィはその場から降りた。

紀葉

「ハンター来てるよ……！」

カービィ

「マジで？」

2人は急いでゴミ箱の中に隠れる。

紀葉

「くせえ〜w」

カービィ

「ゴミ箱の中なんだからしょうがないですか……」

ヨッシー

「・・・さて、私はここから離れますか」

ヨッシーはドンキーから離れる・・・。

ドンキー

「くれぐれも通報されないようにな」

ヨッシー

「わかってますよ」

ヨッシーはその場から去った・・・。

ドンキー

「俺はこのまま隠れるか・・・」

しかし、ドンキーの近くに、ハンター・・・。

> i 3 4 7 6 3 | 4 2 6 0 <

ドンキー

「うおっ!?!あれハンターじゃねえかよ・・・!?!」

ハンター

「！」

見つかった……。

ドンキーコング、逃げ切れるか!?

一方、とある月で謎の人物は……。

???

「よし、見つかったな……」

????は微笑む。

???

「このまま全滅させる……!」

????の正体は……。

あやしいクルク

「私の命令で、次こそは失敗してはならん・・・!!」

ガノンドロフ達を作った張本人、あやしいクルクだ・・・。

みんな隠れがち（後書き）

ドンキーコング、逃げ切れるか!？

ミッションの終了ー！かし．．．（前書き）

ついに、ミッション6が終了ー！？

ミッション6終了!しかし・・・。

ドンキー

「捕まりたくないぞ〜!」

ドンキーは一目散に逃げる。

ハンター

「・・・」

LOCK ON DONKEY KONG

ドンキー

「うおおおお〜!」

ドンキーは建物の角を利用しながら逃げる。

ハンター

「・・・」

見失った・・・。

ドンキー

「危ねえ、危ねえ・・・!ここも安全な所じゃないな・・・!!」

ドンキーはまた隠れる場所を探す・・・。

スバル

「ジユゲムさん、こっちです!」

ジユゲム

「わかつてるぜ!」

2人は月の砦に向かう!

シグナム

「おっと、ジユゲム達よ・・・」

スバル

「あつ!」

スバル、ジユゲム、シグナムと出会う・・・。

しら

「シグナムさくん!」

しらも、来た・・・。

セル

「俺もだぜ!」

セルも、来た……。。

シエゾ

「何で皆きてんだよ……。？」

シエゾも、来た……。。

ヨッシー

「スバルさ〜ん！」

ヨッシーも、来た……。。

ウオッチ&ロボット

「私達モ来マシタ〜！」

あの仲良し二人も、来た……。。

カルピスフロート&izumi

「皆さん！」

作者さん二人も来た……。。

パルポン

「俺もだぜ〜！」

パルポンも、来た……。。

ゼロ

「うお〜！」

ゼロも、来た・・・。

スバル

「どれだけ来てるんですか・・・まあ大勢いると助かります！」

スバル達は、月の砦に進入した。

スバル

「操縦室にある筈・・・って何この大量のレバー!？」

壁に偽者のレバーが、沢山あった・・・。

これは、あやしいクルークの仕業だ・・・。

スバル

「こうなったら、一つずつ上げていくしかない！」

全員

「オーツ!!！」

全員は別々に行動し、一つずつレバーを上げていく。

ウォッチ

「コッチモ駄目デス！」

セル

「これも偽者かよ・・・！？」

スバル

「諦めないで！必ず成功させよう！！」

全員、諦めない心でやり続ける・・・。

ヨッシー

「これも偽者です！！」

ロボット

「ドレガ本物ナノカ、見当モツキマセン・・・」

カルピスフロート

「あれ？これ本物？」

カルピスフロートは本物のレバーを下ろす！

ミッションクリア

スバル

「ミッション大成功！！皆、ありがとう！」

全員はお礼を言い、別々に行動した・・・。

全員、月の砦から出た・・・。

プルルルル

カービィ

「あつ、メールだ〜！」

フェイト

「『スバル・ナカジマ、セル、シグナム、シエゾ・ウイグイィ、ゼ

ム、

カルピスフロート、izumi、パルポン、ヨッシー、ジユゲ
ム、
ウォッチ、ロボット、しらの活躍によってミッションクリア』
最後は団結だね！」

メタナイト

「作者さんは凄いな・・・」

クッパ

「我輩も見習わないと行けないのだ」

アルル

「シエゾ、凄い！」

エックス

「今度はどうしよう・・・？」

牢獄

デイデー

「ミッシェンクリアだって」

ファルコ

「しかも大勢いる！最後は団結って感動するぜ」

ナツクルズ

「メタリドリーはどうなったんだ？」

その頃、ガノンドロフ達は・・・。

ガノンドロフ

「ん？スピードが遅くなってきたな・・・」

ガノンドロフはメタリドリーのエンジンを見る。

『OVER HEAT』

ガノンドロフ

「・・・え？」

メタリドリーはガノンドロフ共々、一緒に落ちて行った・・・。

ドガシャーン!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

アイク

「おわっ!?!?」

偶然、アイクの近くに墜落した・・・。

アイク

「って、そこにいるのは、月の砦の奴等・・・?」

レッド

「あゝ、びっくりした・・・」

太陽の神殿の騎士達は、ゆっくりガノンドロフ達に近づく……。

ガノンドロフ

「不……不覚……」

ガノンドロフはテレポートの呪文を唱え、仲間ごと月の砦にテレポ
ートした。

ピーチ

「ボコボコにするチャンスが来たってわけ？」

とある月から出向した宇宙船にて……。

あやしいクルーク

「チッ！どいつもこいつも……」

あやしいクルークは操縦室の机を叩く。

あやしいクルーク

「……おっと、良い事を思いついた……」

あやしいクルークはモニターを出現させ、
『時限爆弾設置』というボタンを押した・・・。

あやしいクルーク

「これで、あいつら共々吹き飛ばしてやる・・・
フッフッフ・・・ハッハッハ!!」

あやしいクルークは高笑いをする・・・。

> i 3 4 7 6 7 — 4 2 6 0 <

一方、逃走者の方では……。

プルルルル

アミテイ

「今度は何？『ミツシヨン7』……！？」

ドンキー

「『街中全ての場所に時限爆弾が設置された』じ、時限爆弾！？」

シグナム

「『残り470分になると100体のハンターが放出され』」

シエゾ

「『逃走者達を襲う』俺等危ねえじゃねえかよ……！？」

ソニック

「『だが、星の花時計付近にある観覧車に避難せば』」

シルバー

「『捕まらずにすむ』これは大危機だな……！！』」

MISSION? 観覧車に避難せよ!

街中全ての場所に時限爆弾が設置された。

残り470分になると100体のハンターが放出され、
逃走者達を襲う。

だが、星の花時計付近にある観覧車に避難せば、
捕まらずにすむ。

ヨッシー

「100体のハンターなんて、とても相手にできません・・・!!」

紀葉

「時限爆弾って・・・WWW」

果たして、逃走者達は、時限爆弾から逃れられるのか!?

ミッション6終了！しかし・・・。(後書き)

果たして、逃走者達は、時限爆弾から逃れられるのか！？

観覧車に避難せよ！（前書き）

時限爆弾が設置された・・・。

観覧車に避難せよ！

フォックス

「？あれは偽善者2人か・・・」

フォックスはソニックとアミティと合流している所を見る。

フォックス

「あいつら見てると嫌気がさす・・・！！」

フォックスはその場からそそくさと離れた。

牢獄

はやて

「集計結果見てみるわ・・・」

はやては携帯を取り出す。

リデル

「何ですか、集計結果って？」

まぐる

「誰が多く投票された結果のだよ」

はやて

「ちょっと待つてな……。フォックスが多く投票されとる
フォックスが裏切り者や！」

そう、フォックスは誰よりも多く投票されていた……。

彼が裏切り者である事は、確定だ……。

ファルコ

「フォックスが!？」

ファルコは驚く。

りんご

「私も、フォックス君に入れたんだよ……」

ティアナ

「あたしだって、フォックスに入れたし……」

デイディー

「という事は、フォックスに投票した人は
制裁を加える資格が無いんだね……」

りんご

「やっぱり……。フォックス君を

脱落させようとした1人が私だしね・・・」

一方、逃走者の方は・・・。

小野妹子

「曾良さん、動きましょう・・・！」

もう、夜だ・・・。

河合曾良

「はい、ここぞじっとしてても何も始まりませんしね」

小野妹子

「当然ですね・・・！」

2人は動く・・・。

フェイト

「あつ、メタナイト……」

休憩タイムで会った、メタナイト……。

メタナイト

「どうした？」

フェイト

「ここから近いし、一緒に合流しない？
別々で行動しても他の人巻き添えに
してしまう可能性があるし……」

メタナイト

「……確かにそうだな。合流しよう」

フェイト、メタナイトと合流……。

首領パッチ

「マジかよ……！絶対に動かなきゃなんねえのかよ……！？」

首領パッチは、動く気が無いようだ……。

ドンキー

「？こんな所で何やってるんですか？」

ドンキーは紀葉達が隠れているゴミ箱の蓋を開ける。

紀葉

「おっ、ドンキー？よっ」

ドンキー

「その体勢で良く言えますね……」

カービィ

「ドンキー？ぼくゴミ箱にはまってるから抜いて」

紀葉

「実はこっちもだw」

ドンキー

「わかりました・・・よっ！」

ドンキーは紀葉達をゴミ箱から引っこ抜く。

紀葉

「あゝっ、助かった」

カービィ

「ありがとう、ドンキー」

ドンキー

「まあ、これぐらい・・・おっ、そうです。

俺が紀葉さん達を担いでいきましようか？

ここから遠いですし」

2人は賛成する。

紀葉

「サンキューｗｗｗｗ」

カービィ

「助かったよ！」

ドンキー

「いや、どつってことないですよ」

ドンキーは紀葉達を背中に担ぐ。

ドンキーはそのまま観覧車に向かった。

アルル

「ここから近いし・・・どうしようかな？」

アルルは動く。

アルル

「夜だし、ハンター、裏切り者もいるし、もう大変だよ・・・」

アルル、思い通りに動けない・・・。

ユウちゃん

「エックス？何暗いの？」

エックス

「（・・・もう付き合ってられねえ）」

レイくん

「・・・もう離れた方がいいんじゃない？」

このまま行動しててもハンターに見つかりやすいだけだし」

エックス

「（レイくん・・・そのとおりだ）」

ユウちゃん

「しょーがないな。じゃあ分かれて行動しよう」

エックス

「（うん、それがいい）」

3人は別々に分かれた・・・。

キャラ

「あつ、あれですね・・・？」

キャラ、大きな湖の近くにある観覧車に到着・・・。

キヤロ

「あれっ……？そこにいるのは響さんとくるみさんとひかりさん？」

観覧車の前に従業員のプリキユア組、

北条響、美々野くるみ、九条ひかりが立っていた……。

響

「ちよつと暇ですから仕事してます」

くるみ

「……で？どんな用なの？」

キヤロ

「あつ、観覧車に乗りたいですけど……」

ひかり

「観覧車に乗れるまで、後10分かかりますね……」

キヤロ

「10分……！？私は今すぐに乗りたいんです
すぐに乗れる方法ありませんか？」

くるみ

「待って……VIPチケット持ってんの？」

キヤロ

「VIPチケット？持ってますけど……」

キャラロはポケットからVIPチケットを取り出す。

実は逃走中が始まる前にこのチケットが配られていた。

VIPチケットとは、観覧車で待つ時間が0分に短縮できるのだ。つまり、すぐ乗れると言う事である。

くるみ

「それをあたしに渡せば、すぐに乗ることが出来るわよ」

キャラロ

「は、はい！ありがとうございます」

キャラロはVIPチケットをくるみに渡す。

くるみ

「じゃあ、このゴンドラに乗ってね」

キャラロ

「はい」

キャラロは言われるがままにその通りに従う。

キャラロ・ル・ルシエ ミッションクリア

キャラ

「ふ〜・・・皆さんクリアして下さいよ・・・」

祈るキャラ・・・。

フォックス

「おっ、あそこにいるのはスバルじゃねえか・・・」

フォックスは携帯を用意する。

フォックス

「ミッションに活躍してもらったことだし、とっとと消えて貰おうか！

スバル・ナカジマ、月の湖付近にいます・・・」

通報を受けた4体のハンターが、スバルの確保へ動く。

スバル

「よし、ここなら見つからな……ってハンター来てるじゃん！
」

> i 3 4 7 7 9 — 4 2 6 0 <

スバルは一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターに適うわけが無い。最早、逃走不可能……。

スバル

「ぎゃえ〜！」 ポンッ

> i 3 4 7 7 8 — 4 2 6 0 <

スバル

「こんな筈じゃないよ……！」

機動六課のリーダー、敗北……。

プルルルル

ドンキー

「何々・・・確保情報かよ？」

フェイト

「『裏切り者の通報によつて』えっ・・・」

メタナイト

「『スバル・ナカジマ確保』あいつは、

もう少し長く生き残る方だと思つてたんだがな・・・」

シグナム

「なのはメンバーは、あたしとフェイトとキャロだけか・・・」

ルイージ

「裏切り者怖いよ・・・!!」

牢獄

スバル

「裏切り者め・・・!!」

スバルは恨みを込めながら牢獄に入る……。

カイクウ

「スバル、そう恨むなよ。皆同じ気持ちだ」

スバル

「まあ、それはそうなんですけど……」

エリオ

「カイクウさんの言うとおりですよ」

カイクウ

「（えっ……？マジで？俺正論言っちゃった？」

俺が魔法少女リリカルなのは、好きだから？）」

果たして、逃走者達は観覧車に避難出来るのか！？

観覧車に避難せよ！（後書き）

果たして、逃走者達は観覧車に避難出来るのか！？

裏切り者と観覧車（前書き）

逃走者達は、無事、観覧車に避難出来るのか！？

裏切り者と観覧車

フォックス

「ん？お前くるみとひかりと響じゃねえのか？」

フォックスも、3人の事を知っている……。

くるみ

「そうよ。で、何の用？」

フォックス

「俺、観覧車に乗りたいんだけどよ」

くるみ

「VIPチケットはお持ちで？」

フォックス

「VIPチケット……？俺、持つてるぞ？」

フォックスはポケットからVIPチケットを出す。

フォックスはくるみにそのチケットを渡す。

ひかり

「では、こちらのゴンドラにどうぞ」

フォックスは、別々のゴンドラに入る……。

フォックス・マクラウド ミッションクリア

フォックス

「ふっ……って、観覧車内は俺、通報できなかつたんだ……」

半分喜び、半分悲しむ、フォックス……。

アミティ

「別々に行動した方が良くない？」

ソニック

「……そうだな、固まって行動したらすぐに見つかる」

2人は別々に行動した。

だが、アミティの近くに、ハンター……。

> i 3 4 8 0 4 — 4 2 6 0 <

アミティ

「……何か嫌な予感がする……」

そう……。

ハンター

「！」

見つかった……。

アミティ

「ぎゃあ〜!!」 ポンッ

> i 3 4 8 0 6 — 4 2 6 0 <

アミティ

「マジかよ……?」

何もせず、終わった……。

プルルルル

ソニック

「なっ、確保情報かよ……！」

アルル

「『アミティ確保』確保されるの早いよ……」

トゥーン

「復活組捕まるの早いよ……！！！」

シエゾ

「早く捕まりすぎだろ……！！！」

その頃、孫とリンクが合流していた……。

リンク

「これは、大きな観覧車ですね」

孫
「感心してる場合ですかよ……」

2人はとりあえず、3人の所に向かう。

響
「あつ、お二人さん？」

孫
「（……かつ、かわいい……）」

孫はプリキュアの3人に一目惚れをする……。

リンク
「（孫さん……）」

ひかり
「どんなご用ですか？」

リンク
「観覧車に乗りたいのですが」

くるみ
「VIPチケットは持ってるの？」

リンク
「VIPチケット……？」

2人はあのチケットを出す。

孫

「これを渡せばいいんですね・・・？」

響

「はい」

2人はくるみにチケットを渡す。

くるみ

「じゃあ、このゴンドラに乗ってね」

2人は別々のゴンドラに乗る。

孫、リンク ミッションクリア

孫

「ジーちゃんより頑張ってみるよ・・・」

リンク

「トウーンはまだですか・・・？」

ピット

「あつ、ハンターいるよ……!」

ピットはすぐに身を隠す……。

ピット

「嫌だな……」

ハンターに怯える、ピット……。

松尾芭蕉

「曾良くんに連れてって貰おう……」

松尾芭蕉、河合曾良を待つ……。

だが、その近くに、ハンター……。

> i 3 4 8 0 5 | 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

見つかった……。

松尾芭蕉

「ってハンターかよ!? まずい、逃げ場が無い！」

そう、行き止まりな為、最早、逃走不可能……。

松尾芭蕉

「酷いよ〜!」 ポンッ

> i 3 4 8 0 7 | 4 2 6 0 <

松尾芭蕉

「ハンターめ、許せねえ……!! 復讐してやる〜!!」

ブルルルル

ヒューズケン

「うるさいですよ……!!」

アルル

「『松尾芭蕉確保』芭蕉さんまで……」

河合曾良

「何だ、芭蕉さんも何もせず終わってるじゃないですか」

ゼロ

「ていうか何しに来たんだよ……?」

牢獄

アミティ

「早くも復活組がやられたか……」

松尾芭蕉

「くそ〜!悔しいぞ〜!」

2人は牢獄に入る。

ファルコ

「アミティが早くも捕まったか・・・」

無幻

「誰かに連れてって貰おう・・・！」

無幻 は携帯を用意する。

ブルルルル

ゆかり

「ん？もしもし、ゆかりですけど？」

岳羽ゆかりだ・・・。

無幻

「丁度良かった・・・！俺を観覧車に連れて来てくれ」

ゆかり

「えっ？観覧車まですぐそこじゃないですか」

無幻

「ハンターがいるから俺、危険なんだよ……！だからさ……」

ゆかり

「無幻 さんの足で向かえば良いじゃないですか？」

無幻

「生意気な事言っつてねえで、早くこっち来いよ！」

無幻 は携帯を切る。

ゆかり

「なっ、何？切られたんだけど……」

無幻

「チツ、誰か来てくれよ……！！」

その後、エコロ、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、アルル・ナジャ、
フェイト・T・ハラオウン、メタナイト、紀葉、カービィ、ドンキ
ーコング、

ノコノコ、ボロドー、しら、パルポン、シエゾ・ウイグイィ、河合
曾良、

小野妹子、フェーリ、子リンク、シルバー・ザ・ヘッジホッグ、ゼ
ロなどが

クリアした・・・。

裏切り者と観覧車（後書き）

その後、エコロ、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、アルル・ナジャ、
フェイト・T・ハラオウン、メタナイト、紀葉、カービィ、ドンキ
ーコング、
ノコノコ、ボロドー、しら、パルポン、シェゾ・ウイグイィ、河合
曾良、
小野妹子、フェーリ、子リンク、シルバー・ザ・ヘッジホッグ、ゼ
ロなどが
クリアした・・・。

大勢が観覧車に乗る（前書き）

結構の数が乗ってきた!?

大勢が観覧車に乗る

風花

「あつ、くるみさんと響さんとひかりさん……?」

風花も、観覧車の近くに到着……。

くるみ

「どんな用なの?」

風花

「あの、観覧車に乗りたいんですけど」

くるみ

「VIPチケットは持ってんの?」

風花

「あつ、はい!持ってます」

風花はポケットからVIPチケットを出す。

風花はひかりにそのチケットを渡した。

ひかり

「では、こちらのゴンドラにどうぞ」

風花は誘われるがままに従う。

風花

「はい」

山岸風花 ミッションクリア

風花

「皆さんも、クリアしてますかな・・・？」

一方、観覧車内にて・・・。

アルル

「わあ、良い景色・・・」

アルルはゴンドラの中から景色を覗いている・・・。

フェイト

「この街に住みたいな〜」

シルバー

「ああ・・・美しい」

風花

「今度この街にいつて、旅行してみましようかな〜・・・？」

プロリー

「む？あんな所にかわいい女性が・・・」

プロリーは観覧車の近くまで走る。

響

「どんなご用ですか？」

プロリー

「観覧車に乗りたくてな・・・」

くるみ

「VIPチケットは持ってる？」

ブロリー

「？持ってるが・・・」

ブロリーはポケットからそのチケットを出す。

ブロリーはくるみにそのチケットを渡した。

くるみ

「じゃあ、このゴンドラに乗ってね」

ブロリー

「よし・・・」

ブロリー ミッションクリア

ブロリー

「他の奴等はどうしたんだろう?」

無幻

「やべえ、こっち来てる・・・!」

無幻、そのまま隠れ続ける・・・。

無幻

「誰か来いよ・・・!」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

> i 3 4 8 3 4 — 4 2 6 0 <

無幻

「なっ・・・マジかよ!?!」

無幻 は一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

無幻

「ぎゃおっ!」 ポンッ

> i 3 4 8 3 1 — 4 2 6 0 <

無幻

「マジかよぶざけんなよクソが!!」

作者さんの一人、確保……。

ブルルルル

ウルフ

「『無幻 確保』うわっ、作者さんが確保された!」

カルピスフロート

「何か、確保ペースが早いような……」

天田

「僕も捕まらない様にしないと・・・！」

アイギスも、観覧車に到着・・・。

アイギス

「観覧車は、これでございますか？」

くるみ

「まあ、そうなんだけど。VIPチケット持つてる？」

アイギス

「所持してます」

アイギスはポケットからそのチケットを出す。

アイギスは響にそのチケットを渡す。

響

「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

アイギス

「かしこまりました」

言われるがままに従うアイギス……。

アイギス ミッションクリア

アイギス

「あの方は大丈夫ですか……？」

ヴェン

「あっ、ヤバイ！ハンターこっち来てる……！」

ヴェンはすぐに身を隠す。

ハンター

「……」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない……。

ヴェン

「キープレード使いたいけど、逃走中では禁止だもんな……」

逃走中では、自分の能力を使うのは禁止となっている……。

ヴェン

「皆クリアしたのか……？」

ヒュースケン

「もう動かない方がいいですね、ハンターがいるし……」

だが、その近くに、ハンター……。

> i 3 4 8 3 5 | 4 2 6 0 <

ヒュースケン

「あつ、何だこの絵？つてハンターかよ！？」

ハンター

「！」

見つかった……。

ヒュースケンは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

ヒュースケン

「あゝ！」 ポンッ

> i 3 4 8 3 3 | 4 2 6 0 <

ヒュースケン

「くそ……」

ハリスの部下、ここに散る……。

プルルルル

ウルフ

「携帯うるせえな・・・！」

首領パツチ

「『ヒュー スケン確保』うわっ、アイツ確保されてる」

河合曾良

「残るギャグマンガ日和組と部下組は僕と妹子さんだけですわね・・・」

「

シグナム

「大変だ・・・早く避難しないと」

その後、カルピスフロート、シグナム、真田明彦、スライムマン、ウルフ・オドネル、カーバンクル、ユウちゃん、レイくん、りすくませんぱい、志村新八、ソラ、リク、izumi、トウーン

リンク、
安雄、ドラえもん、うずまきナルト、ボム兵、ヘイホー、などがク
リアした・・・。

大勢が観覧車に乗る（後書き）

その後、カルピスフロート、シグナム、真田明彦、スライムマン、ウルフ・オドネル、カーバンクル、ユウちゃん、レイくん、りすくませんぱい、志村新八、ソラ、リク、izumi、トウーンリンク、安雄、ドラえもん、うずまきナルト、ボム兵、ヘイホー、などがクリアした・・・。

ロシアンルーレット(前書き)

観覧車で・・・。

ロシアンルーレット

エックス

「あつ、響さん、くるみさん、ひかりさん？」

エックス、観覧車付近にたどり着く。

ひかり

「あつ、エックスさん。どんな御用ですか？」

エックス

「いや、観覧車に乗りたんですけど・・・」

響

「VIPチケットは持ってらっしゃいますか？」

エックス

「VIPチケット・・・？」

エックスはポケットからチケットを出す。

エックスはひかりにそのチケットを渡した。

ひかり

「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

エックス

「はい・・・」

エックス ミッションクリア

エックス

「頼むから皆クリアしてくれよ……」

その後、一人だけが残され、
他全員が乗った……。

その一人とは……。

長谷川

「えっ……？俺一人？」

そう、マダオの長谷川泰三が取り残された……。

プシュー！！！！！！

100体のハンター、放出……。

ハンター

「……」

ハンターは長谷川の確保へと向かう！

長谷川

「ヤバイよ〜!!!!!!」

長谷川は一目散に逃げる。

しかし彼が100体のハンターに適うわけが無い。最早、逃走不能……。

長谷川

「おんどりゃ〜!」 ポンッ

> i 3 4 8 3 7 — 4 2 6 0 <

長谷川

「くそ〜……マダオの称号から逃れたかった……」

その頃、観覧車にて・・・。

残りゲーム時間 480:23

残りゲーム時間 480:22

残りゲーム時間 480:21

残りゲーム時間 480:20

残りゲーム時間 480:20

また、時間が止まった・・・。

ドンキー

「なっ、また時間が止まったぞ・・・？」

ヨッシー

「ちよっ、高いですよ……!」

フェイト

「全ての時が止まってる……!」

紀葉

「ちよwやな予感がするってw」

スライムマン

「ど、どういう事何でしょうか……!」

観覧車、ハンター、いや、全ての時が止まった……。

その時。

ブルルルル

カルピスフロート

「なっ、通達ですか……?」

ゼロ

「『観覧車ルーレットを始める』観覧車ルーレット?」

シエゾ

「『観覧車を動かしたい時間を、5分刻みで下限5分上限30分で入力し、

メールで送信せよ』……」

キャロ

「『全員が入力した時間の合計時間だけ観覧車が作動する』・・・」

ドンキー

「『観覧車が再び停止した時、1番下にいた者は強制失格となる』・・・」

通達 8 観覧車ロシアンルーレット

観覧車を動かしたい時間を、5分刻みで下限5分上限30分で入力し、

メールで送信せよ。

全員が入力した時間の合計時間だけ観覧車が作動する。

観覧車が再び停止した時、1番下にいた者は強制失格となる。

ドンキー

「マジかよ・・・俺は15分だな・・・」

アルル

「ボクは10分・・・」

シエゾ

「俺の所には来ない様に・・・30分だな」

パルポン

「何だかわからねえが20分にしとくか」

紀葉

「こつちは30分・・・」

フェイト

「5分でいいでしょ・・・？」

ウォッチ

「私ハ10分デスネ・・・」

それぞれの逃走者達が、時間を投票した・・・。

ロシアンルーレット(後書き)

それぞれの逃走者達が、時間を投票した・・・。

観覧車と輸送艦（前書き）

ロシアンルーレット、スタート・・・。

観覧車と輸送艦

プルルルル

ルイージ

「？」「合計時間が判明した」・・・」

メタナイト

「『合計、500分間となった』」

「ご・・・500分間!？」

キャロ

「500分も乗ってるなんて、初めてだよ!」

パルポン

「俺に来るな・・・!!」

その時、観覧車が作動した・・・。

アルル

「こ、怖いよ・・・!!」

テイルス

「強制失格って・・・!!」

フェイト

「緊張する・・・!!」

ドンキー

「俺、失格になりたくない……!!」

キャラ

「この間、500分間も乗ってなきゃ駄目なのかな……？」

シグナム

「もう、寝るしかないな……」

紀葉

「疲れたし、寝よう……」

ほぼ全員、眠りについた……。

だが、誰かが起きていた……。

ウルフ

「この先どうなるんだろ……？」

ウルフは悩む……。

ウルフ

「もう夜だし、変な事件に巻き込まれるわ、散々だぜ……」

ウルフも、眠りにつく……。

ドンキー

「裏切り者は、フォックスに確定だな……」

逃走者達は、はやてとまぐるから

裏切り者はフォックスだと知らされていた……。

やっと、全員が眠りについた……。

牢獄

ヒューズケン

「暇ですね……」

ナツクルズ

「退屈だぜ……！しかも500分も待てと？」

ヴィータ

「あたしも、もっと長く生き残りたいかっただぜ……」

長谷川

「あの時、観覧車に行けば良かった……」

無幻

「ゲームも無いし、暇つぶしも出来ないし……」

カイクウ

「俺たちや、どうすりゃいいんだ？」

シャマル

「こうなったら、もう寝るしかないね……」

なのは

「それがいいね……」

ベクター

「寝ようか……」

牢獄の者達も、全員、眠りについた……。

クルーク

「ZZZZ……」

クルークは地べたで寝ていた……。

その後、数分たって・・・。

観覧車ロシアンルーレット終了まで 残り10:00

「アルル
ZZZ・・・」

ドンキー

「ぐがー、ぐがー・・・」

紀葉

「マジパネエっすよwちよっ、カオスwwwムニヤムニヤ・・・」

しら

「スピー、スピー・・・」

新八

「ぐぐ、ぐぐ・・・」

サタン

「アルル〜・・・ムニヤムニヤ」

シエゾ

「お前が・・・欲しい!ZZZ・・・」

その時、観覧車が振動を受けた!

ゴゴーン!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

アルル

「わっ、びっくりした・・・!!」

ソニック

「あっ、そうだった・・・寝てる場合じゃなかったぜ・・・」

河合曾良

「あっ、メールが来ました・・・」

全員、メールを開ける……。

エックス

「『これより、結果が出た』結果……!？」

エスピオ

「『観覧車ロシアンルーレット終了。』

強制失格になった者は……』」

牢獄

ラフィーナ

「ZZZ……」

シゲ

「んあ、メールだ……」

全員、メールの音で起きる……。

ファルコ

「ロシアンルーレットの結果が出たぞ……」

シャマル

「本当ですか……？眠い……」

長谷川

「誰だ？強制失格の奴は」

ヴィータ

「早く教えてくれよ」

ファルコ

「まあ、まあ、ちょっと待て。

『観覧車ロシアンルーレット終了。強制失格になった者は……』

ファルコ

その頃、観覧車の外では……。

アイク

「皆さん！この街には時限爆弾が仕掛けられています！
早く避難を！！」

レッド

「急いでください！」

住民

「うああああ〜！！！！」

住民、観覧車付近に設置されているアイクの輸送艦に乗る……。

そして、観覧車の従業員、

北条響、美々野くるみ、九条ひかりも乗り、

そして指名手配だったさかな王子もオトモも乗り、
いや、全員乗り、そして自分達も乗った……。

ガノンドロフ

「メタリドリーでここを離れるか……」

月の砦の奴等も、メタリドリーで避難する……。

デデデ

「こことはおさらばだデー！」

ゼルダ

「さっさと月に離れましょう」

ガノンドロフ達はメタリドリーに乗り、
月へと飛びだった……。

牢獄

長谷川

「おい、ちょっと待て！俺達はどつなるんだよ！？」

ソニック

「まさか、俺等、爆発に巻き込まれるんじゃない……！……！」

ヴィータ

「はあ！？マジかよ！？あたし達、死にたくねえよ！！」

その時、牢獄の者、自首者達は牢獄ごと
アイクの輸送艦にレポートされた・・・。

宇宙にて、宇宙船内にて・・・。

あやしいクルーク

「3・・・2・・・1・・・」

0 . . . 。

時限爆弾

『 (ピー) 』

ボガーーーーーン!!!!!!!!!!!!!!

!!!!!!!!!!!!!!

時限爆弾、大きな爆発を起こした．．．。

その時、逃走者達はどくなっただのだろうか……？

宇宙にて、アイクの輸送艦にて……。

逃走者組

輸送艦内のワープポイント内にテレポートされた……。

しら

「……どこですか、ここは……？」

シエゾ

「どうやら、ここは輸送艦みたいだな……」

アルル

「皆、無事かな……？ 爆発が起こった見ただけ……。」

その時、牢獄の者、自首組が逃走者組の
ワープポイントの隣のワープポイント内にテレポートされた……。

ラフィーナ

「ここは……輸送艦……？」

無幻

「どうやら、俺達は助かったみたいだな」

カイクウ

「あの街は、もう廃墟になってるぜ……」

ソニック

「初めて見たぜ、あんな大きい爆発……」

その時、全員の前にアイク達がやって来た……。

観覧車と輸送艦（後書き）

その時、全員の前にアイク達が出て来た・・・。

輸送艦オール（前書き）

輸送艦、オール・・・。

輸送艦オール

アイク

「俺はアイクだ。こいつらが、マリオ、レッド、ピーチだ」

アイクは自分と仲間の自己紹介をする。

河合曾良

「こちらこそよろしくお願いします。」

ところで、ここはどこなんですか？」

アイク

「ここは、輸送艦オールだ……。」

街が爆発しそうな時にこの輸送艦を出しておいて
正解だったぜ」

アイクはしばらく口論をする。

アイク

「長い話はここまでにして……皆疲れてるだろうっ？
いったん休憩室にいくといい」

全員

「はい」

全員、アイクに案内された。

> i 3 4 8 5 5 — 4 2 6 0 <

アイク

「ちょっと待ってくれ。今番号を行っていく」

アイクはメモ帳を取り、部屋の番号を書いた……。

1 F

101号室 ルイージ、アルル・ナジャ

102号室 Mr.ゲーム&amp;ウオッチ、ロボット

103号室 ソニック、テイルス、アミティ

104号室 しら、ピット、レムレス

105号室 フェイト・T・ハラオウン、メタナイト

106号室 紀葉、ドンキーコング、カービィ

107号室 シェゾ・ウイグイィ、パルポン

108号室 フォックス・マクラウド、ティアナ・ランスター

109号室 スバル・ナカジマ、ファルコ・ランバルディ

2F

201号室 リデル、サタン、シグ

202号室 カルピスフロート、ヒューズケン、ピカチュウ

203号室 デイディーコング、あんどつりん

204号室 八神はやて、ささきまぐろ

205号室 エックス、シグナム、シャマル

206号室 スネーク、ゼニガメ、ヨッシー

207号室 ドラえもん、安雄、ウルフ・オドネル

208号室 フェーリ、エリオ・モンディアル

209号室 キャロ・ル・ルシエ、りすくませんぱい

3F

301号室 ラフィーナ、トランクス

302号室 カイクウ、高町なのは

303号室 小野妹子、聖徳太子

304号室 ゼロ、ドラコケンタウロス

305号室 クルーク、野比のび太、ヴィータ

306号室 izumi、志村新八

307号室 首領パッチ、ところ天の助

308号室 岳羽ゆかり、無幻

309号室 リンク、孫

e t c . . . 。

全員、それぞれの部屋に分かれた．．．。

102号室 Mr・ゲーム&mp;ウォッチ、ロボット

ウォッチは休憩室のベッドに座っている。

ウォッチ

「ロボットサン、散々な目二会ツチャツテマスネ．．．」

ロボット

「コレカラドウナルンデシヨウカ．．．？」

仲良しのウォッチとロボット……口論が続く。

ウォッチ

「……？今、月二向カッテルソウデスヨ」

ロボット

「月……？」

ウォッチはモニターを見ており、ロボットもそのモニターを見る。

ウォッチ

「『ムーンシティ』……？何ナンデシヨウカ？」

ロボット

「サア……」

悩む2人……。

106号室 紀葉、ドンキーコング、カービィ

紀葉

「うお、結構な数のベッドだなWWW」

ドンキーコング

「これで自由に寝転がれるぞWWW」

カービィ

「腹減ったよWWW」

こちらは能天気な、3人・・・。

208号室 フェーリ、エリオ・モンディアル

フェーリ

「暇だワ・・・」

フェーリは休憩室のベッドに横になる。

エリオ

「輸送艦・・・爆発・・・いったいどうなるんでしょう・・・？」

フェーリ

「今はアタシにも分からないワ・・・」

エリオ

「・・・はあ」

エリオは休憩室のベッドに座る。

エリオ

「それにしても、この輸送船はどこに向かってるんでしょ？・・・」

エリオはモニターを見る。

エリオ

「・・・『ムーンシティ』？」

フェーリ

「？」

フェーリも、モニターを見る・・・。

1Fの休憩室外の階段近くにて・・・。

ヨッシー

「？あれは・・・」

ヨッシーは、地下への階段で落ち込んでいるティアナを見つける……。

ティアナ

「……」

ヨッシー

「どっしたんですか？」

ヨッシーはティアナに近づぐ。

ティアナ

「しばらく一人にさせて……」

ヨッシー

「……はい」

ヨッシーは消える様に言いつつ、すぐにその場から離れた。

情報屋の2人・・・。

はやて

「ちよっと、オール行ってみるか？1Fにあるから」

まぐる

「はい」

2人は休憩室を出て、オールに出かけた・・・。

オール

アイク

「よし、異常無しと・・・」

アイクは操縦室でコンピュータを操っている・・・。

はやて

「アイク、今の所の調子は？」

アイク

「今は順調だ。もうじきムーンシティに着くはずだ」

まぐる

「『ムーンシティ』・・・?」

2人は悩む・・・。

105号室 フェイト・T・ハラウン、メタナイト

フェイト

「ねえ、メタナイト」

メタナイト

「何だ?」

メタナイトはフェイトの方に向く。

メタナイト

「どうしたんだ?寝るんじゃないのか?」

フェイト

「いや、ちよつとね・・・」

フェイトは休憩室から出た。

メタナイト

「・・・？どうしたんだ？ちょっと後を追ってみるか」

メタナイトも休憩室から出、フェイトの後を追った。

オールにて・・・。

まぐる

「？誰か来たよ」

先ほど休憩室から出た、フェイトとメタナイトだ・・・。

はやて

「？？どうしたん？」

フェイト

「ちよつとね・・・」

メタナイトも、アイクの傍に駆け寄る。

メタナイト

「ところで、この輸送艦はどこに向かっているのだ？」

アイク

「ああ、今は、『ムーンシティ』へと向かっている」

メタナイト

「『ムーンシティ』……？何だそれは？」

アイク

「ちよつと待て……。今調べるから」

アイクはコンピュータで『ムーンシティ』の事を調べる……。

アイク

「……あれ！？情報が出ない……これはもしか、

あやしいクルークの仕業だな……？」

アイクは机を軽く叩く。

はやて

「あやしいクルーク……？ちよつと待って。

今皆に伝えてくるわ」

はやては携帯を取り出し、全員にそのメールを送る。

その時・・・。

ファイ　ファイ　ファイ　ファイ

『Warning warning
Please immediately and assemble
all』

訳すると、『警告、警告、すぐにオールに集合してください』だ・
。。

その時、全員がすぐにオールに集合した。

オール

首領パッチ

「どうしたんだよ……?」

アイク

「異常なハプニングにはまってしまった!

いかん!このままじゃ、他の星に激突してしまう!」

デイディー

「ええっ!?!それはヤバイよ!?!どうすれば助かるの!?!」

レッド

「一人用の脱出ポッドに乗って!そうすれば助かる」

全員、すぐに脱出ポッドの方に向かった。

約4名を除いて……。

その約4名とは、八神はやて、ささきまぐろ、
フェイト・T・ハラOWN、メタナイトだ……。

輸送艦オールは、警告が出た頃からずっと振動が起きている……。

はやて

「これ・・・どういう事なんや!?!?どういうハプニングなんや!?!?」

レッド

「何らかの宇宙の線を通り過ぎてしまった・・・!」

メタナイト

「宇宙の線・・・?」

アイク

「あれを通り過ぎると、全ての物が不調子になってしまう・・・

このままでは、他の星に激突してしまうんだ!!」

まぐろ

「嘘だろ・・・!?!?今すぐ脱出ポッドに向かわないと!!」

まぐろは一人で脱出ポッドに向かおうとするが・・・。

アイク

「待つんだ!これをもって行け」

4人

「・・・?」

アイク

「俺の大事なあの人のお守りさ」

アイクは、誰かを亡くしており、

その亡くなった人のお守りをずっと所持していた・・・。

アイク

「それを身のどこかに付けておけば、幸運が高まる……」

フェイト

「これ……本当なの？」

アイク

「……本当さ。俺を信じろ……」

アイクの言葉は、決して嘘ではない……。

フェイト

「……ありがとう」

4人はお礼を言い、脱出ポッドへと向かった……。

アイク

「フェイト、メタナイト、はやて、まぐろ……頼んだぞ」

脱出ポッドフロアにて……。

ピーチ

「人数分あるから、早く乗ってね!!」

ピーチは案内をする。

首領パッチ

「あれか・・・!!」

首領パッチも、脱出ポッドに入る・・・。

紀葉

「死にたくないよ!!」

紀葉も、脱出ポッドに入る・・・。

しら

「何なんですか、この大惨事は・・・!!」

しらも、そう放ちながら、脱出ポッドに入る・・・。

その時、1人用の脱出ポッドが満員になった時、あの4人が来た・・・。

ピーチ

「あつ、貴方達は4人用の脱出ポッドに乗って!!」

ピーチはそれを注意する・・・。

4人

「・・・コケッ」

フェイト、メタナイト、

はやて、まぐるも、息を合わせ、脱出ポッドに入る・・・。

ピーチ

「全員入った？それじゃあ、『脱出』ボタンを押して!!」

全員、一斉に脱出ボタンを押した・・・。

その時、中に入っている人ごと、

脱出ポッドは『ムーンシティ』へと向かった・・・。

その頃、4人用の脱出ポッド内にて……。

メタナイト

「本当に助かるのか……？」

はやて

「大丈夫や。順調に『ムーンシティ』って所に向かっている」

すると、メタナイトはホッと胸を撫で下ろす……。

まぐろ

「今日は散々な日だよ……」

フェイト

「しょうがないよ……全てはあやしいクルークの仕業何だし……」

3人（はやて以外）は肩を落とす……。

はやて

「いやいや、そんなに落ち込んだらアカンで……」

はやては3人を慰める……。

まぐろ

「……ああ、そうだね、ここで落ち込んだら何も始まらないしね」

フェイト

「また、元気良くいこ？」

メタナイト

「・・・勿論だな」

4人は自分の席に座る・・・。

はやて

「ちょっと待って・・・コンピュータ見てみるわ」

はやてはモニターを出現させ、現在地を調べた・・・。

はやて

「・・・あれ？あれあれ？」

はやて、不思議がる・・・。

フェイト

「どうしたの？」

はやて

「・・・調べられへん・・・!」

3人

「ええっ!？」

はやて

「何やコレ!?故障してんのか？」

はやては無理やりに調べようとする。

メタナイト

「うおっ!?!」

突然、脱出ポッド内に振動が起きる……。

『警告です。無闇に触らないでください。』

『さもないと故障してしまいます』

しかし、振動が起きた為、即ち故障となっていた……。

はやて

「うわあああああ!!!!!!!!」

メタナイト

「何だこれは……!?!?恐ろしいスピードで向かってる……」

フェイト

「このまま行ったら……!?!」

4人は絶望し、気絶する……。

ムーンシティにて・・・。

4人以外、無事にムーンシティにたどりついた……。

なのは

「うわ、景色が宇宙だよ」

カイクウ

「俺達、まるで宇宙のドームにいる様だな……」

トウーン

「わあ、月にたどり着いた！」

喜んでる皆……。

その頃、4人は・・・。

4人も、無事、ムーンシティにたどり着いた・・・。

まぐる

「う……」

フェイト

「……」

メタナイト

「くそっ……」

はやて

「……」

4人、まだ気絶している……。

なのは

「フェイトちゃん!?!どっしたの!?!」

りんご

「まぐるくん!?!」

カービィ

「メタナイト!?!」

シグナム

「主はやて・・・!?!」

4人は、あの4人の傍に駆け寄る。

フエイト

「あつ、なのは・・・大丈夫だよ」

メタナイト

「こつちもだ・・・」

まぐろ

「りんごちゃん、ごめんな」

はやて

「おお、心配かけてすまんかったわ・・・」

全員

「良かった・・・」

全員、スタート地点まで歩く・・・。

そして、また、逃走中の幕が開ける・・・。

輸送艦オール（後書き）

そして、また、逃走中の幕が開ける・・・。

新エリアにて、ゲーム、スタート・・・。(前書き)

新エリアにて、ゲーム、スタート・・・。

新エリアにて、ゲーム、スタート・・・。

サタン

「ここがムーンシティか・・・」

エリアを下見する、逃走者達・・・。

パルポン

「緊張するぜ・・・！」

フェイト

「このお守り、何かきれいだね・・・」

しら

「怖くてパニックです・・・！！！」

ドンキー

「絶対に逃げ切る！！！」

ゲームスタートまで・・・。

> i 3 4 8 6 2 | 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 3 | 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 4 | 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 5 | 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 6
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 7
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 8
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 9
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 7 0
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 7 1
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 7 2
— 4 2 6 0
<

プシュー!!!!!!

4体のハンター、放出・・・。

彼らは、480分間の逃走中の幕を上げる!!!!!!

魚雷ガール

「ちょっと買い物して見たい気分だわ」

ボケ殺しの生き残り、魚雷ガールは買い物に行きたい気分である・
・。

首領パッチ

「しかも建物の中侵入ありだもんな、逃げやすいぜ」

首領パッチも、余裕の面を見せる・・。

アルル

「ちょっと、隠れようかな。・・。」

魔道士の卵、アルル、ハンターに怯える・・。

ベジータ

「俺は逃げ切りを狙う・・。!!」

惑星ベジータの王子、ベジータも、逃げ切りを狙う・・。

シャドウ

「夜だからハンターを見つけにくいな・・。」

そう、宇宙にいる為、ハンターは暗闇の中に姿を消している・・。

ブロリー

「ん？誰か来たぞ」

その人物とは……。

ハンター

「！」

見つかった……。

ブロリー

「こんな時に見つかるのか……。嘘だろ!？」

ブロリーは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

ブロリー

「うおおおお〜!」 ポンッ

> i 3 4 8 7 4 — 4 2 6 0 <

ブロリー

「くそ……ここで終わるのかよ……!?!」

新エリアの初の犠牲者、ブロリー……。

ブルルルル

バーダック

「?確保情報かよ……!?!」

シャドウ

「『スタート地点近くにてブロリー確保』うわ、コイツ確保される」

シエゾ

「コイツ、もうちょっと長く生き残る方だと思ってたんだけどな……」

今回の舞台は、『ムーンシティ』。

月に設置されているドームの中で逃走劇の幕を上げる。

このドームは商店街、住宅街、施設など地球らしい建物が揃っている。

しかも、建物の中にも進入可能……。

ただし、ハンターに見つかり、確保されれば、賞金は0……。

果たして、この街で生き残る者は、誰だ！？

新エリアにて、ゲーム、スタート……。 (後書き)

今回の舞台は、『ムーンシティ』。

月に設置されているドームの中で逃走劇の幕を上げる。

このドームは商店街、住宅街、施設など地球らしい建物が揃っている。

しかも、建物の中にも進入可能……。

ただし、ハンターに見つかり、確保されれば、賞金は0……。

果たして、この街で生き残る者は、誰だ!?

あやしいクルークの過酷な罰(前書き)

あやしいクルーク、罰を与える・・・!?

あやしいクルークの過酷な罰

シグナム

「ヴォルケンリッターの将として、絶対に捕まってはならない……！」

プライドが高いシグナム。果たして、逃げ切れるのか。

しら

「うわー、広いな……あつ、この店の中に隠れましょつと」

しらは商店街内のパチンコ屋に隠れる。

しら

「ギャッ！うるさいですね……」

当然だ……。

ドンキー

「ん？牛小屋か……」

ドンキーは誰もいない牛小屋に隠れる……。

ドンキー

「くさっ！牛のにおい、糞のにおいがする……くさっ……！」

ドンキーは鼻をつまみながら隠れる……。

チャーミー

「暇だな〜・・・」

チャーミー、廃校した学校の屋上に隠れている・・・。

チャーミー

「これだけ高い所にいれば、見つからないだろ・・・！」

自信満々だ・・・。

その頃、宇宙船内にて・・・。

ガノンドロフ

「私達は、あいつらに油断してしまいました・・・」

ゼルダ

「どうかお許してください」

デデデ

「次こそは成功させますから」

3人は土下座してあやまる。真のボス、あやしいクルークに・・・。

あやしいクルーク

「黙れ」

その一言で、あの3人は沈黙を覚えた……。

あやしいクルーク

「役立たずが。使い物にならないな」

あやしいクルークは後方に向かって歩く……。

ゼルダ

「……そつ、そんな……」

あやしいクルークは突然あの3人の方向に顔と体を向ける。

あやしいクルーク

「消える」

あやしいクルークは指で鳴らすとガノンドロフ達を爆発させた!!

ドガン……………!!

そして、ガノンドロフ達は消し炭となった……。

あやしいクルク

「……フン。所詮はクズ共か」

あやしいクルクはモニターを出現させ、
ゲームマスターとの連絡を取った……。

あやしいクルク

「ゲームマスター・月村サトシ。様子はどうか？」

月村サトシ

「こっちも順調だ……。」

実は、月村サトシもあやしいクルクと計画を立てていた……。

あやしいクルク

「そうか。こっちも順調だ」

月村サトシ

「……それはそうと、新しいミッションは考えたのか？」

あやしいクルク

「考えてきた。今から送信する」

月村サトシ

「ああ」

あやしいクルークはモニターを出現させ、

『ミッション送信』というボタンを押した……。

月村サトシ

「こつちに届いたな……」

月村サトシはモニターに書かれてある『開く』ボタンを押す。

月村サトシ

「……フム。こいつは使えそうだ……」

月村サトシはモニターに書かれてある

『ミッション発動』というボタンを押した……。

月村サトシ

「これは面白い事になりそうだ……」

プルルルル

パルポン

「何だ・・・？『ミッション8』!？」

シエゾ

「街中に、指紋認知装置が10個設置された。『指紋?』」

ウルフ

「残り440分までに誰でも良いので指紋を装置で認知しなければ『』」

アルル

「『10体のハンターが放出される』・・・
放出されたらヤバイよ・・・!!』」

MISSION? 指紋を認知せよ!

街中に、指紋認知装置が10個設置された。

残り440分までに誰でも良いので、

指紋を装置で認知しなければ、

10体のハンターが放出される。

ウルフ

「とりあえず行つとくか・・・」

シグナム

「行こう・・・!!」

フェイト

「私も行きます・・・!!」

紀葉

「どうしよっかな」

ドンキー

「隠れよっ」と

しら

「参加しましょう・・・」

スライムマン

「行きます・・・!!」

メタナイト

「行くか・・・」

孫

「俺も行くぜ！」

ミッションに行くか行かないかは、逃走者達の自由だ・・・。

あやしいクルークの過酷な罰（後書き）

ミッションに行くか行かないかは、逃走者達の自由だ・・・。

指紋を認知せよ！（前書き）

ミッションが始まった・・・。

指紋を認知せよ！

シエゾ

「ミッションいくか・・・」

シエゾも、ミッションに行く気だ・・・。

紀葉

「悩んでもしょうがないからいきますか・・・」

作者さんの一人、紀葉も行く気だ・・・。

シャドウ

「あれか・・・」

シャドウは装置に着き、指紋を認証する・・・。

3・・・2・・・1・・・。

シャドウ

「早く……！」

残り9個

シャドウ

「よし……ってちょっと待て……！ハンターいる！」

エックス

「本当かよ……！？」

2人は一目散に身を隠す。しかし……。

フォックス

「よし、活躍してもらった事だし、とっとと消えてもらおう。
シャドウ、エックス、ムーンパーク周辺にいます……。」

裏切り者の通報を受けたハンターが、シャドウとエックスの確保へと向かう。

ハンター

「！」

別のハンターに、見つかった……。

シャドウ

「よし、ここなら見つからない……」 ポンッ

> i 3 4 9 6 4 — 4 2 6 0 <

シャドウ

「……嘘だろ？ここで終わりなのかよ……!？」

秒殺だ……。

エックス

「って、しまった……!？」

シャドウの確保を尻目に、逃げるエックス。
しかし至近距離だった為最早、逃走不可能……。

エックス

「ぎゃわ〜!」 ポンッ

> i 3 4 9 6 5 | 4 2 6 0 <

エックス

「チッ、折角ここまで残ったというのに・・・」

プルルルル

アルル

「何・・・!?!」

シルバー

「『裏切り者の通報によって』」

しら

「『シャドウ・ザ・ヘッジホッグ、エックス確保』確保ペースが半端ない・・・」

シグナム

「どっしりおっ、」は・・・」

ゼロ

「ロックマン組が初めて確保されたな……」

ブルース

「俺が代わりに頑張るか……」

トウーン

「何もしてねえじゃんエックスの奴……!!」

ロイ

「どつしよつ……ここは行った方がいいかな？」

ロイは、ミッションに行くか行かないか、悩む……。

ミッションに行くか、行かないかは、逃走者の自由だ……。

フェイト

「あつ、あれだね……」

フェイトは指紋認知装置を発見する……。

だが、フェイトの近くに、ハンター……。

> i 3 4 9 6 7 — 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

見つかった……。

フェイト

「これに指紋を……ってハンターじゃん!？」

フェイトは一目散に逃げる。

フェイトは曲がり角を利用しながら逃げる……。

ハンター

「……」

見失った……。

フェイト

「足の速さで助かった・・・」

しかし、装置から、離れてしまった・・・。

紀葉

「おっ？あれは・・・」

紀葉、ハンターを見かける・・・。

紀葉

「身を隠して・・・！」

紀葉はすぐ近くの草むらに隠れる・・・。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは、気づいていない・・・。

紀葉

「あっち行けよハンター……！」

河合曾良

「ありがとうございました……」

河合曾良も、指紋認知装置を発見する……。

3……2……1……。

残り8個

河合曾良

「残るは8個ですね……」

しら

「ちょっと待って……！ハンターがいる」

しら、デパート内で装置を探している……。

ハンター

「！」

見つかった……。

しら

「！？ここで見つかるなんて……！」

しらはすぐにエレベーターを使い、ハンターから逃れる……。

> i 3 4 9 6 8 | 4 2 6 0 <

しかし……。

ハンター

「！」

逃げた先にも、ハンターに見つかった……。

しら

「ぎいやあ〜！」 ポンッ

> i 3 4 9 6 6 | 4 2 6 0 <

しら

「く〜……」

作者さんの一人、しら、また敗北……。

プルルルル

カルピスフロート

「なっ、確保情報……!?!」

パルポン

「『しら確保』しらさん、また確保されちゃったよ……」

izumi

「私が頑張るしかない……!?!」

スライムマン

「くそ、裏切り者のせいなんですか……!?!」

紀葉

「よし、もう行けるかな……」

紀葉、ずっと隠れていたくさむらから動き出す。
しかし……。

フォックス

「作者さんには悪いけど、ここは捕まってもらいませぬ……！
紀葉さん、指紋認知装置周辺にいます……」

裏切り者の通報を受けたハンターが、紀葉の確保へと向かう。

紀葉

「……ってハンター来たよwww」

紀葉、逃げ切れるか！？

指紋を認知せよ！（後書き）

紀葉、逃げ切れるか！？

混乱する逃走者達・・・。(前書き)

確保ペースの早さに、混乱する、逃走者達・・・。

混乱する逃走者達……。

紀葉

「ヤダヤダ！こんな所でつかまりたくない！！」

紀葉は一目散に逃げる。

その時、誰かに助けられた……。

ドンキー

「紀葉さん！？運びましょうか？」

ドンキーコングだ……。

紀葉

「ハンターに追われてるから、今すぐ運んでくれっスW」

ドンキー

「OK！」

ドンキー、紀葉を背中に担ぎ、そのまま逃げていった……。

ハンター

「・・・」

見失った・・・。

トランクス

「何て広い街だ・・・ってええ!？」

ハンター

「!」

先ほど、紀葉を追っていったハンターが、トランクスを見つけた・・・。

トランクス

「うお〜!」

トランクスは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターに適うわけが無い。最早、逃走不可能・・・。

トランクス

「ぐわああああ〜!」

ポーン

> i35007 — 4260 <

トランクス

「ハンターに見つかって確保されるとは……」

早速、捕まった……。

プルルルル

フォックス

「よっしゃ……！嬉しい報告だ……！」

『トランクス確保』……はあ!？」

ウルフ

「あいつ……動いてしまったのか？」

シグナム

「どうなってるんだこの確保ペースは……!？」

フェイト

「よし、ハンター撒いた！」

フェイトはハンターの間を見て、装置に向かう……。

フェイトは指紋を認証装置に当てる。

3……2……1……。

フェイト

「早くしてよ……!」

残り7個

フェイト

「って、機械に急かしてもしょうがないわね……」

フェイトはすぐにその場から離れる……。

メタナイト

「・・・？これが・・・」

メタナイトも、指紋認知装置を発見する・・・。

メタナイトは、指紋を認証装置に当てる・・・。

3・・・2・・・1・・・。

メタナイト

「早くするんだ・・・！」

残り6個

メタナイト

「・・・機械はそう急げなかったな・・・」

メタナイトはフェイトとほぼ同じ事を言い、早速その場から離れた・・・。

シエゾ

「よっしゃ・・・！発見した・・・！！」

シエゾも、発見した・・・。

シエゾは、指紋を認証装置に当てる・・・。

3・・・2・・・1・・・。

シエゾ

「まだかよ……？」

残り5個

シエゾ

「おっ、もう5個かよ？結構順調に進んでるな……」

シエゾも、早速その場から離れた……。

孫悟空

「おっ！？そろそろ自首しようかな？」

孫悟空、自首を決意する……。

孫悟空

「電話ボックスは、無いかな？……？」

ベジータ

「牢獄前に来た訳だが……」

ベジータ、牢獄前に到着……。

はやて

「おっ？ベジータ？どうしたんや」

ベジータ

「いや、暇だから来て見た」

ベジータは頭をかく。

クルーク

「君も自首狙い？」

ベジータ

「はあ？自首するわけ無いだろ」

トランクス

「そうだよ、父さんはそんな人じゃないからな」

トランクスはベジータを慰める。

シグ

「・・・あつ、裏切り者に見られてる・・・」

ラフィーナ

「ここから離れた方がいいわよ」

ベジータは、そのまま離れていった・・・。

フォックス

「あいつは・・・後にしよう」

フォックス、不気味な笑いをする・・・。

孫悟空

「あつ、自首自首〜！」

孫悟空、電話ボックスを発見する。しかし……。

ハンター

「!」

見つかった……。

孫悟空

「ぼわ〜!」 ポンッ

> i35008 | 4260 <

秒殺だ……。

ブルルルル

ベジータ

「・・・何だ？『孫悟空確保』か・・・」

フォックス

「多分、コイツ自首しようとして捕まってるな・・・」

凶星だ・・・。

シグナム

「どうなってるんだ・・・！？あたしには着いて行けない・・・」

混乱する、シグナム・・・。

果たして、ミッションを成功させる事は、出来るのか！？

混乱する逃走者達・・・。(後書き)

果たして、ミッションを成功させる事は、出来るのか!?

3 度目の復活（前書き）

3 度目の・・・。

3 度目の復活

牢獄

プルルルル

レムレス

「?メールが来たよ?」

シヤマル

「何よ?」

レムレス

「えつと・・・復活のチャンスを与えるだつて!」

全員

「えゝ!?!」

一方、逃走者の方は・・・。

ブルルルル

シグナム

「ん？通達9？」

izumi

「今、牢獄の前に真珠1個が置かれた」

エスピオ

「その真珠を復活装置の中に置けば」

フェイト

「ランダムで3人復活できる・・・これは大チャンスだよ！！」

通達9 3人復活せよ！

今、牢獄の前に真珠1個が置かれた。

その真珠を復活装置の中に置けば、

ランダムで3人復活できる。

シグナム

「ミッシヨンも大事だが、これも行かなければ・・・」

天田

「また活躍してみせる！」

ボロドー

「行くぜ、俺等・・・！」

シエゾ

「行くっきゃないな・・・！」

izumi

「僕達の手で復活させましょう・・・！！！」

逃走者達は、やる気満々だ・・・。

牢獄

シャマル

「ランダムで復活するって言ってもねえ……」

しら

「誰が復活するんでしょうか？」

ファルコ

「まだ分かんないですよ」

一方、逃走者の方は……。

ベジータ

「前方だけ見てれば、ハンターに見つかる……ってハンターかよ！？」

ハンター

「！」

見つかった……。

ベジータ

「やべえ！！やべえ！！」

最早、逃走不可能・・・。

ベジータ

「馬鹿なッ！」 ポンッ

> i 3 5 0 7 1 | 4 2 6 0 <

ベジータ

「くそっ・・・そう・・・甘くはないか・・・」

プルルルル

フェイト

「何・・・？つて確保情報!？」

izumi

「『ベジータ確保』ベジータさん確保ですか・・・」

シグナム

「これは何としても復活させないと・・・!」

シエゾ

「うわっ？ハンターいるったらあらしねえ……！」

シエゾはすぐに草むらに隠れる……。

シエゾ

「クソツタレ……！」

思うように、動けない……。

紀葉

「おっ？装置だ！」

ドンキー

「偶然ですね！じゃあ早速指紋認証しましょう」

紀葉

「勿論！」

紀葉は装置に指紋を認証する・・・。

3・・・2・・・1・・・。

残り4個

紀葉

「ここですってん分かれよう」

ドンキー

「そっすいませう」

2人は別々に分かれて行動した……。

牢獄

ファルコ

「来るかな？」

ソニック

「わかんねえよ、そんな事」

しら

「でも、来るだけ予想しないと……」

その時、シグナムが牢獄の前に来た……。

シャマル

「！リーダー」

ファルコ

「発動時からずっと早いじゃん」

シグナム

「これも任務の為だ……。おっと、真珠を装置の中に入れるぞ！」

シグナムは牢獄の前に置かれている真珠を手に入れ、装置の中に入る。

そして、牢獄内のスクリーンに名前が表示された……。

その3人の名前とは……？

3 度目の復活（後書き）

牢獄内のスクリーンに名前が表示された・・・。

その3人の名前とは・・・？

3人の復活者！そして・・・（前書き）

3人が復活・・・しかし・・・

3人の復活者！そして……。

牢獄内のスクリーンに、復活者の名前が出た……。その3人の名は……。

シグナム

「『シャマル』と『しら』さんと『高町なのは』だ」

3人、復活……。

> i 3 5 0 9 0 | 4 2 6 0 <

しら

「2度目の復活！」

シャマル

「恩にきります……！」

なのは

「月でも頑張るわよ！」

3人は元気良く、牢獄から脱獄した……。

プルルルル

アルル

「？何々……って復活情報？」

フェイト

「『先ほどの通達は、シグナムの活躍によって
シヤマル、しら、高町なのは復活』
すごい！すごいよー！」

天田

「さすがヴォルケンリッターのリーダーだね……！」

ロイ

「今回も逃げ切りたいな……」

前回、龍神町での逃走中で逃げ切ったロイ……。

果たして、復活した彼が今回も逃げ切れるのか。

ロイ

「……って、もう終わりの頃じゃねえか!？」

そう、ミッション終了まで、かなりの時間が過ぎていた……。

ロイ

「不味いよ、早くミッションクリアしねえと……!!」

ロイも、ミッションに急ぐ……。

シグナム

「人助けて、いい物だな……」

シグナム、3人を救出した本人……。

しかし、彼女の近くに、ハンター……。

> i 3 5 0 9 3 — 4 2 6 0 <

シグナム

「って……背後からハンターか!?!」

ハンター

「!」

見つかった……。

シグナムは一目散に逃げる。

しかし、彼女がハンターを振り切れる訳がない。最早、逃走不可能……。

シグナム

「ぎゃ〜!」 ポンッ

> i 3 5 0 8 9 — 4 2 6 0 <

シグナム

「……後は頼んだぞ……」

3人の救世主、早くもここに散る……。

プルルルル

シエゾ

「何なんだよ……!? つて、確保情報かよ!?!」

フェーリ

「『シグナム確保』 3人を救出した救世主が……」

シャマル

「リーダーが確保されちゃった……!!」

なのは

「これは、私が頑張るしかないね!」

そして、時間が早く過ぎた……。

> i 3 5 0 9 2 | 4 2 6 0 <

ロイ

「なっ！？もう442分じゃねえか・・・！！」

シエゾ

「後2分でハンター放出だ・・・！！」

そして・・・。

ミッション失敗

ブルルルル

メタナイト

「・・・？何だ・・・？『ミッション失敗』！？」

シヤマル

「マジで！？『4体のハンターが放出』嘘よ！？」

フエーリ

「『合計8体となった』・・・ハンターが増えたから
余計逃げにくくなったわね・・・」

シエゾ

「マジかよ！？8体のハンターだなんて・・・！！！」

エスピオ

「だが、数が多ければ勝てるかもしれない・・・！！！」

その頃、宇宙船では……。

あやしいクルーク

「月村サトシ……。ミッションは大成功だな」

月村サトシ

「たまにはミッション失敗ても良いかもな」

あやしいクルーク

「そうだな……。ところで、次のミッションは考えてあるのか？」

月村サトシ

「いや、まだだ……」

2人が、通話をしていた……。

一方、逃走者の方は……。

フォックス

「もういいよな、通報しなくても……」

しかし、フォックスの前に、ゼロが通りかかった……。

フォックス

「おっ？今なら通報できる……！」

ゼロ、ウォーターライトパーク付近にいます……」

裏切り者の通報を受けたハンターが、ゼロの確保へと向かう。

ゼロ

「よし、ここなら見つからな……ってハンター来てる！？
まさか裏切り者の仕業なのか!？」

ゼロは一目散に逃げる。

フォックス

「よっしゃ、捕まれ捕まれ・・・!! ってごっちかよ!？」

ゼロは、ラフィーナからの作戦を使って

フォックスの方にハンターを誘導した・・・。

フォックス

「うわ、うわ!、ヤバイって、ヤバイって!! 止めるろ!!」
ンッ

ポ

> i35091 — 4260 <

フォックス

「くそ、ゼロの奴め・・・!!」

プルルル

シエゾ

「?」裏切り者フォックス・マクラウド確保
よっしゃ! 罰が当たったな!!」

シヤマル

「今頃牢獄ではどうなってるのかしら？」

アルル

「今まで散々通報してきた奴がとうとう捕まったね！！」

牢獄

カイクウ

「裏切り者捕まったってよ！！」

全員

「本当かよ！？」

エリオ

「早く来ませんか、フォックスさん……！！」

アミテイ

「今度はあたし達がボコボコにする出番だね！」

エックス

「早く来いよ、フォックスの奴……！！」

裏切り者に通報されたメンバーは、怒っている・・・。

3人の復活者！そして・・・。（後書き）

次回、牢獄でフォックス、罰を受ける！？

謎の霧発生（前書き）

謎の霧とは・・・？

謎の霧発生

牢獄

ファルコ

「来たな」

フォックスは渋々、牢獄に入る……。

ドラコ

「あんた最低ね……！人を容赦なく通報しやがって」

エリオ

「何で人に恨みを……！！」

フォックス

「うるせえんだよ……！俺を脱落させようとした奴等は誰だ？」

りんご

「私もだけど」

ティアナ

「あたしも」

エックス

「俺もだ……」

フォックス

「じゃあ何で俺に非難するんだよ……！！」

俺に投票した奴等は攻撃する資格がないわけだし」

フォックスは怒る。

りんご

「だって、フォックス君はあまり動かなそうだし・・・」

ティアナ

「フォックスがムカつくから」

エックス

「お前をただ短に脱落させたかったからだ」

フォックス

「お前ら・・・」

フォックスはあきれる。

エリオ

「とにかく、僕達を通報した事を謝って下さい！！」

「そうすれば許しますよ！！」

フォックス

「黙れ！貴様等のせいで、裏切り者になっちまったんだからよ！！」

フォックスは、謝る気が無い様だ・・・。

一方、逃走者の方は……。

シヤマル

「牢獄が騒がしいわね……何なのかしら？」

牢獄での罰だ……。

シエゾ

「だけどなく、8体のハンターってな……」

シエゾ・ウイグイイ、次からは動かない様だ……。

izumi

「どうしましょう……！余計逃げにくくなりました」

izumiも、8体のハンターに怯えている様だ……。

ドンキー

「何としても逃げ切りたい……！」

8体のハンターに打ち勝って、逃げ切りたいドンキーコング……。

その頃、宇宙船にて……。

あやしいクルーク

「……そうだ。いいミッションを思いついた」

あやしいクルークはそのミッションの内容をコンピュータで書き込み、

その内容を月村サトシに送った……。

月村サトシ

「まさか先手を取られるとは。何々……」

月村サトシはそのミッションの内容を読む……。

月村サトシ

「……成るほど。これは個性的なミッションだ」

月村サトシは、『ミッション送信』というボタンを押した……。

その頃、逃走者の方は……。

美鶴

「……？なんだこの茶色い霧は……!？」

美鶴、霧が目にしみる……。

美鶴

「くっ……くそっ！目にしみる！動けない……!」

美鶴は、そのまま倒れた……。

シエゾ

「な……何なんだよ、この霧は!？」

シエゾも、この霧で倒れる……。

しら

「く……苦しいです……!」

メタナイト

「不覚……」

なのは

「雰囲気……全然違う……!!」

逃走中のプレイヤー、全員が霧によって倒れた……。

牢獄

はやて

「……!?!何やこの霧!?!目えしみる……!!」

シグ

「ん……!!」

シグナム

「く……苦しい……!!」

フォックス

「おっと……ここは喧嘩してる場合じゃなかったな……!!」

ウィッチ

「こ……これは何なのですわ!？」

牢獄の者達も、霧によって全員倒れた……。

一方、逃走者の方は……。

ブルルルル

天田

「こ……こんな時にメール……!?! 『ミッション8』……」

アルル

「『あやしいクルークの仕業で、謎の霧が発生した』
あやしいクルークの仕業!？」

真田

「『残り400分までにこの霧を止めないと』」

シエゾ

「『ゲーム終了までずっとこの霧が発生する』・・・
くそっ！この中をもがきながら挑めつてのわ！？」

MISSION? 霧を止めよ！

あやしいクルークの仕業で、謎の霧が発生した。
残り400分までにこの霧を止めないと、
ゲーム終了までずっとこの霧が発生する。

シエゾ

「嫌だ・・・！俺は行きたくない・・・!!」

フェーリ

「レムレス先輩・・・悪いけどこのミッションには行かないわ・・・
!!」

ウルフ

「クソツタレ……!!誰が行くかよ……!!」

シヤマル

「苦しい……!!行きたくない……!!」

ほぼ全員の逃走者が、霧によって苦しんでミッションに行かない様だ……。

ユウちゃん

「幽霊でも通用するの??アハハ」

レイくん

「めっちゃ苦しいって……!!笑ってる場合じゃないよ」

ウォッチ

「コ……コレハ……。行ケマセン……!!」

ロボット

「マサカ機械ニモ通用スルトハ……!!不覚デス」

キヤロ

「嫌よ……!!苦しいし……!!」

ヨッシー

「ぎゃあ……!!苦しいですよ」

ドンキー

「まさか、こんなアクシデントが起きるとは……!!ウホ」

しら

「これは・・・どうしたらいい物が・・・!!」

izumi

「苦しい・・・!!」

スライムマン

「これって・・・毒霧・・・!!」

紀葉

「もうダメば・・・!!＼(^o^)/」

パルポン

「ぐえ〜・・・!!何じゃこの霧は〜!!」

天田

「誰か・・・助けて!!」

アイギス

「行動不能・・・!!」

サトシ

「オマケに、何か体が・・・苦しい!!」

霧に苦しむ、逃走者達・・・。

謎の霧発生（後書き）

霧に苦しむ、逃走者達・・・。

確保ラッシュユ（前書き）

確保ラッシュユ・・・。

確保ラッシュ

真田

「くそっ・・・！」
ポンッ

> i 3 5 1 2 3 — 4 2 6 0 <

有里

「動けん・・・！！」
ポンッ

> i 3 5 1 2 5 — 4 2 6 0 <

美鶴

「不覚・・・！！」
ポンッ

> i 3 5 1 2 4 — 4 2 6 0 <

まさかの確保ラッシュ・・・。

シエゾ

「3人とも確保かよ……!!俺は行かん……!!」

しら

「くそっ……!!ここでも……行きましょう」

しらは、何とか立つ。

ヨッシー

「ここですって駄目です……!!」

ヨッシーも、立ち上がる……。

トウーン

「ぎゃー!!」 ポンッ

> i 3 5 1 2 6 | 4 2 6 0 <

アイギス

「不覚……」 ポンッ

> i 3 5 1 2 7 | 4 2 6 0 <

ハンター8体によって、確保ラッシュ……。

アルル

「冗談じゃないよ……!!この霧の中を動けと!!?」

エコロ

「苦しいな……」

カービィ

「もう、自首しよう……」

カービィ、自首を決意する……。

パルポン

「無敵サングラスをかけよう……!!」

無敵サングラスは、ハンターだけでも無く、霧をも効かなくなる何とも有利なアイテムだ……。

牢獄

ファルコ

「エックスの隊員から貰った酸素マスク……」

シグナム

「酸素マスクがあるから助かった……」

しかし……。

パリーン!!!!!!!!!!

酸素マスクが、破裂した……。

アミティ

「ぐはっ……！ 苦しいよ……！」

シグナム

「まさか、酸素マスクをも破壊する力を持つ霧とは……ぐはっ」

また、牢獄の者達に地獄が訪れた……。

一方、逃走者の方は……。

アルル

「苦しいよ……」

シャマル

「こっぴうミッシヨンって、勇気があるじゃない……！？」

順平

「ぎゃわ〜!」 ポンッ

荒垣

「・・・」 ポンッ

コロマル

「アオーン!!」 ポンッ

山岸

「嫌〜!」 ポンッ

ナナ

「きゃ〜!」 ポンッ

> i 3 5 1 2 8 | 4 2 6 0 <

5人とも確保ラッシュ・・・。

果たして、この脅威のミッションから逃れられるのか!?

確保ラッシュユ（後書き）

果たして、この脅威のミッションから逃れられるのか！？

疑われる逃走者達（前書き）

そして・・・。

疑われる逃走者達

ヒカリ

「キヤー！」 ポンッ

コジロウ

「ぎよわ〜！」 ポンッ

チエレン

「ぎゃえ〜！」 ポンッ

アイリス

「嫌だ〜！」 ポンッ

シューティー

「くそう・・・」 ポンッ

> i 3 5 1 4 6 | 4 2 6 0 <

動けず、そのまま確保ラッシュ・・・。

紀葉

「うん、苦しい」

エロロ

「誰かクリアしてくれるかな？」

ヨッシー

「くそっ……どこです……」

ヨッシー、必死にスイッチを探す……。

しほ

「苦しいです……!」

しほも、苦しんでいる……。

ドンキー

「誰かやってくれ……!!」

ドンキーも、この霧には耐えられないようだ……。

ポッド

「おうわ〜!!」

ポンッ

コーン

「やだ〜!!」

ポンッ

スネーク

「うおお〜!!」

ポンッ

カミツレ

「不覚……」

ポンッ

ベル

「やだったら〜！」 ポンッ

ムサシ

「やな感じ〜!!」 ポンッ

> i 3 5 1 4 7 — 4 2 6 0 <

このままは、全滅になってしまっ……。

だが、装置の前にたどり着いた者が……。

ヨッシー

「あ……後もう少しです……!!」

ヨッシーだ……。

ヨッシー

「……う……うああああ〜！」

ヨッシーは、全力でスイッチを押す！

そして……。

クロノ

「……？霧が晴れた……」

シャリオ

「助かったわ……」

さかな王子

「苦シカッタノジャ」

オトモ

「もう、二度とこの霧が来ない様になったら良いですね……」

住民達も、助かった……。

牢獄

シグナム

「助かった……急に霧が晴れて」

カイクウ

「ヨッシーのお陰で助かったぜ」

はやて

「そつやな。で、あの続きやるつか」

牢獄の者達は、全員フォックスの方に向き、
フォックスを鎖で縛った……。

フォックス

「何だよ……!!まだなんか文句あんのかよ!?!」

エックス

「あるに決まってるだろうが!人を容赦なく金で売りやがって!?!」

フォックス

「やるべき仕事は、やらなきゃ行けねえだろが……!!
それが逃走中なんだよ……!!」

カイクウ

「お前って、本当に鬼だな……!!」

フォックス

「鬼?そんな事どうでもいいんだよ……!!」

ルル

「……とりあえず、皆に謝罪しなさい!?!」

全員、フォックスに武器を向ける。

しかしフォックスに投票した者には攻撃を与える資格は無い……。

フォックス

「……うるせえ奴等だな……!!」

カイクウ

「……言ってる場合じゃねえし!! さっさと謝れ!!」

フォックス

「……あゝ……うるせえ……!!」

一方、逃走者達は……。

シャマル

「ヨッシーさんのお陰で霧が晴れました……!!」

カルピスフロート

「ありがとうございます、ヨッシーさん……!!」

ヨッシー

「やった……!! これで私も大活躍かな？」

その頃、宇宙船内にて・・・。

あやしいクルーク

「月村サトシの様子をしてみるか・・・」

あやしいクルークは、モニターを出現させ月村サトシの様子を見た・
。。。

あやしいクルーク

「・・・！？いないのか？」

何故か、月村サトシがいない・・・。

あやしいクルーク

「・・・失踪か・・・まあ、いいだろう。」

私が代わりにミッションを作つてやる・・・！！！！

あやしいクルークは『催眠術』というボタンを押した・・・。

あやしいクルーク

「・・・ククク・・・」

一方、逃走者の方は……。

クロノ

「？何だこのオーラは……？」

住民、全員地面に倒れる……。

そして……、謎のビルが地面に配られた……。

次に……。

住民、全員、起き上がった……。

さかな王子

「……ココハドコダ？」

オトモ

「……ビラが……」

住民、全員、そのビラを見る……。

クロノ

「指名手配……住民共よ！奴等を捕まえる！！」

何とそのビラには、逃走者達の顔と名前が書かれていたのだった……。

シヤリオ

「了解！！」

住民A

「絶対にあいつらを捕まえるぞ！！！！！！！！」

まさか住民全員、逃走者達への確保へと向かった……。

ブルルルル

ウルフ

「何なんだよ……!!」『ミッション9』!?!?」

フェイト

「『あやしいクルークの催眠術によって』」

アルル

「『住民全員が、逃走者達を疑った』えっ!?!?」

カルピスフロート

「『なお、住民は逃走者達を見つけると大声で騒ぐ』

これ、不利じゃありませんか!?!?」

ゆかり

「『その大声で、ハンターに届く』……これ、私達逃げ場無いじやん!?!?」

ヨッシー

「『住民の目を覚ませるには、研究所の

オーラビーム装置を2人で阻止しなければならぬ』……」

M I S S I O N ? 疑いを晴らせよ！

あやしいクルークの催眠術によって、

住民全員が、逃走者達を疑った。

なお、住民は逃走者達を見つけると大声で騒ぐ。

その大声で、ハンターに届く。

住民の目を覚ませるには、研究所の、

オーラビーム装置を2人で阻止しなければならぬ。

さもなければ、ゲーム終了までずっと疑われる！！

果たして、この恐怖のミッションを阻止できるのか!?

疑われる逃走者達（後書き）

果たして、この恐怖のミッションを阻止できるのか!？

疑いを晴らせよ！（前書き）

そして、牢獄の者達が・・・。

疑いを晴らせよ！

残り370までに止めないと、ゲーム終了までずっと疑われる！！

izumi

「やりましようかな〜・・・」

izumi、怖がりながらもミッションに参加の様だ・・・。

しら

「やるうかな〜・・・でも、うん」

悩む、しら・・・。

ドンキー

「誰かやってくれるだろ」

こちらは人任せの、ドンキー・・・。

牢獄

トウーン

「暇だ」

スネーク

「何か良い物は無いのか？」

フォックスは、黒焦げになって倒れていた……。

その時、謎のメールが来た……。

ブルルルル

レムレス

「？」「これから、通報部隊を作る」作る？

募集するじゃなくて？」

トウーン

「いやいや、通報部隊っていう時点でおかしいから……

『脱落者の募集で

2番目、3番目、4番目、5番目に投票が多かった者が通報部

隊となる』」

シグナム

「『通報部隊出動の時間は、残り20人になった時点で出動。

ゲーム終了時まで』ゲーム終了時までか……」

ヴィータ

「『さらに、その通報部隊のメンバーを紹介する……』」

牢獄内のスクリーンに、通報部隊のメンバーが映された……。

2番目に多かった ヴィータ（通報部隊のリーダー）

3番目に多かった ティアナ・ランスター

4番目に多かった ラフィーナ

5番目に多かった ファルコ・ランバルディ

ヴィータ

「あたしらか……」

ティアナ

「三番目……意外に多かったわね」

ラフィーナ

「通報部隊でも頑張りますわよ！」

ファルコ

「唯一の男性通報部隊が俺か……まあ、どうでもいいことじゃ」

この4人が、通報部隊となる……。

一方、逃走者の方は……。

izumi

「ここなら安心です……って住民？」

izumi、住民を発見……。

住民A

「あつ！指名手配の奴だ！！」

住民B

「作者さんだからって、容赦しねえぞ!!」

izumi

「違います!! って、そんな大声出さないでください!!」

izumi、何とか治めようとするが……。

ハンター

「!!」

後方から、ハンターに見つかった……。

izumi

「通れない……って後方からハンター!?!」

> i 3 5 1 5 8 — 4 2 6 0 <

izumiは一目散に逃げようとするが、前方に住民が埋もれる様に居る為、

上手く進めず、最早、逃走不可能……。

izumi

「あうい〜！」 ポンツ

> i 3 5 1 6 0 | 4 2 6 0 <

i z u m i

「最悪だ〜・・・」

作者さんの一人、確保・・・。

ブルルルル

しら

「メールだ・・・『住民に騒がれi z u m i確保』!？」

i z u m iさん確保されちゃったです!!!」

カルピスフロート

「騒がれて確保・・・どうしたら良いんでしょう!?!？」

それはあのオーラビーム装置を阻止するしか、無い・・・。

シエゾ

「住民か・・・あの普段優しい住民が恐ろしく見えてきたぜ・・・
！！」

紀葉

「ハンター怖いよ」住民も

フェーリ

「迂闊に動いたら捕まっちゃうワ・・・」

サタン

「まるで、ここは本当の地獄の様だ・・・」

住民に恐れる、4人・・・。

シャマル

「はっ！住民だ……！！！」

シャマル、咄嗟に姿を隠す……。

クロノ

「ここにはいない……！！！」

さかな王子

「何トシテモ捕マエタイノジャ……！！！」

住民達は、今でも洗脳されている……。

カービィ

「あゝ、そろそろ自首しようかな……」

カービィ、ちよつと自首ボックスに近づく……。

その時……。

住民A

「あゝ！！ピンクの悪魔だ！！」

クロノ

「とっ捕まえる！！」

響

「さもないと・・・！！」

カービィ

「また見つかったよ！！！！！！」

カービィは一目散に逃げ、姿を隠す・・・。
しかし、ハンターにその声が届いた為、隠れる意味が無かった・・・。

ハンター

「！！」

見つかった・・・。

> i 3 5 1 5 9 | 4 2 6 0 <

カービィ

「うわあ〜!!」

カービィ、逃げ切れるか!?

疑いを晴らせよ！（後書き）

カービー、逃げ切れるか！？

住民の大声（前書き）

住民の大声・・・。

住民の大声

カービィ

「わあ、見つかったよー!!」

カービィ、逃げ切れるか。

ハンター

「!!」

ハンターも、カービィを追う・・・。

カービィ

「ハッ! そうだ! 確か無敵サングラスがあつたはず・・・!」

カービィは咄嗟に無敵サングラスを着ける。

ハンター

「・・・」

ハンター、カービィを仲間と思った・・・。

カービィ

「あの強制失格のミッションでアイテム取って置いて良かった・・・」

「

しら

「住民・・・!!どこに行ってもいます・・・!!」

しら、思う様に動けない・・・。

シャマル

「・・・見つかるな・・・!!」

シャマル、住民やハンターに怯える・・・。

カルピスフロート

「ちよつと待ってください・・・!!あれって・・・」

カルピスフロート、咄嗟に身を隠す・・・が。

住民B

「いたぞ〜!」

くるみ

「とっ捕まえなさい!」

クロノ

「容赦しねえぞ!」

カルピスフロート

「!!見つかった・・・!!」

そして・・・。

ハンター

「!」

ハンターにも、見つかった・・・。

カルピスフロート

「最悪です〜!!」

カルピスフロートは一目散に逃げる。

しかし、彼がハンターにかなうわけが無い。最早、逃走不可能・・・。

カルピスフロート

「うっお〜!」 ポンッ

> i 3 5 1 7 5 | 4 2 6 0 <

カルピスフロート

「くそっく……。最悪だ……!!」

作者さんの一人、連続で確保……。

プルルルル

フェーリ

「確保情報……『住民に騒がれカルピスフロート確保』
カルピスフロートさん、捕まっちゃったの!？」

キャロ

「まるで、ここは修羅場ですか……!？」

パルポン

「マジで……!？作者さん連続で確保かよ!？」

ヨッシー

「どっしりまじょう……!?!」

牢獄

ヴィータ

「早く出勤してえな」

ファルコ

「まあまあ、リーダー、気長に待とうぜ」

通報部隊の4人は、退屈になっている……。

その時、フェーリが牢獄前に通りかかった……。

フェーリ

「……？貴方達は……」

フェーリ、牢獄前に寄る……。

はやて

「フェーリちゃん……。一応聞くけど、
誰を脱落させようとしたんや？」

フェーリ

「シグナムっていう人よ」

シグナム

「あたしか・・・？」

シグナムは自分を指差す・・・。

はやて

「意外やな・・・」

フェーリ

「・・・それよりも、レムレス先輩！」

レムレスはフェーリの近くに寄る。

レムレス

「どうしたんだい？」

フェーリ

「先輩！絶対逃げ切って見せますから」

レムレス

「楽しみにしてるよ」

カルピスフロート

「・・・イチャイチャしてますね・・・」

あの2人以外は、ちょっと嫌がつてる・・・？感じだ・・・。

一方、逃走者の方は……。

ゼロ

「くそっ、ここにもいるのかよ」

ゼロも、住民を恐れて思う様に動けず……。しかし

クロノ

「偽善者発見だ!!」

住民C

「急いでとっ捕まえる!!」

ひかり

「あの人、良い人振りやがって!!」

ゼロ

「・・・チッ」

ゼロは一目散に逃げる。

ハンター

「！」

更にハンターにも、見つかった・・・。

もう逃げ場は、無い・・・。

ゼロ

「おうわ〜！」 ポンッ

> i 3 5 1 7 6 | 4 2 6 0 <

ゼロ

「クソツタレ・・・！！」

ほぼ全てのミッションに参加してきたゼロ、ここに散る・・・。

ブルルルル

ウオツチ

「!? マタ確保情報デスカ・・・!!」

ヨッシー

「『住民に騒がれゼロ確保』

うわっ、逃走中の本命が捕まっちゃいました・・・!!」

シャマル

「この人、ほぼ全てのミッションに参加してきたのに・・・!!」

ブルース

「・・・これは大変な事になりそうだ・・・!!」

まさかのゼロ確保に、驚く逃走者達・・・。

牢獄

ヴィータ

「やっぱりな・・・ミッションに動いたら
こうなる定めなんだよな・・・」

ゼロ

「ヴィータ・・・」

ゼロはそんな捨て台詞を吐きながら、牢獄に入る・・・。

シグナム

「ゼロ・・・お前の確保に驚いた」

カイクウ

「ていうか、結構落ち込んでるじゃんこの人」

カイクウはゼロを慰める・・・。

ロボット

「……！！ハンターガ……！！」

ロボットはすぐに、身を隠す……。

ロボット

「安全な地が、殆ど在リマセン……！！」

全てに安全な道は、無い……。

住民の大声（後書き）

全てに安全な道は、無い・・・。

容疑者（前書き）

まだ、疑いを晴らしていない逃走者達・・・。

容疑者

くるみ

「どこよ、あの容疑者共は!?!」

響

「あいつらを捕まえたらすぐにとっちめましよう!?!」

ひかり

「それがいい!?!」

さかな王子

「賛成ナノジャ!?!」

オトモ

「容疑者を絶対に捕まえてやります!?!」

クロノ

「とにかく、何としても捕まえてやる!?!」

シャリオ

「了解!?!」

住民全員

「オーツ!?!?!?!?!」

住民は、まだ洗脳されている……。

偶然、近くで見ていた紀葉……。

紀葉

「何この住民怖い」

その頃、アイク達は……。

アイク

「……クソツタレ！住民全員洗脳されてる……」

アイク達は、近くの廃校された学校の屋上におり、ノートパソコンで住民達の様子を調べていた……。

アイク達は、魔法を使ってあのオーラを免れたのだった……。

レッド

「どっつするんですか……!?!?」

アイク

「……決まってるだろう。皆で団結して

洗脳を解くしかない!!」

マリオ

「この炎人族、マリオが負けてはならないな……」

アイク

「炎人族のマリオ、水人族のレッド、風人族のピーチ、そして聖人族のアイクが負けてはならない……!!」

アイクは、コンピュータで復活アイテムを設置した……。

一方、逃走者の方は……。

アルル

「? 通達……『復活アイテムを設置した』

復活アイテム!？」

エスピオ

「『各エリアにある復活アイテムを牢獄に持って行き』」

チャーミー

「『誰か一人を指名すればその一人を復活出来る』 凄い！
これは大チャンスだよ！」

シャマル

「『ただし、ヴィータ、ティアナ、ラフィーナ、ファルコには
復活させる事が出来ない』・・・えっ？何よこれ？」

ロイ

「『宝箱の設置時間はこのミッションが終わるまで』。
これは早くゲットしないと・・・！！』」

逃走者達は、復活アイテムを手に入れる為に動く・・・。

しかし、動けばハンターや住民に見つかる可能性が高まる・・・。

牢獄

レムレス

「復活チャンスがまた来たね」

シグナム

「誰が来るのか・・・？」

カイクウ

「動けば住民に見つかる可能性が高まるからな・・・。

まあ、この通達に動く奴は殆どいないだろう」

izumi

「でも、誰かが来るかもしれないよ？」

ソニック

「誰でもいいから来てほしいぜ・・・！！」

牢獄の者達は、誰かが来てくれる事を願う・・・。

牢獄の外では・・・。

ヴィータ

「通報部隊の奴等は外で待て、か・・・」

ファルコ

「退屈だぜ」

ラフィーナ

「わがまま言わないで、ですわ」

ティアナ

「でも、残り20人になったらだなんてまだまだだよ・・・？」

通報部隊の者達は、退屈がっている・・・。

一方、逃走者達は……。

ロボット

「一寸待ッテ下サイ……!!アレッテ、マサカ住民達……!?!」

ロボットもすぐに身を隠す……。しかし、遅かった……。

くるみ

「あっ!!機械発見!!」

オトモ

「あいつを捕まえて解体してやりましょう!!」

クロノ

「そして再起不能にしてやる!!」

ロボット

「何ドサクサニ恐ロシイ事言ッテンデスカ!?!」

暗雲低迷、ロボットは一目散に逃げる。

> i 3 5 1 9 9 — 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

ハンターにも、見つかった……。

ロボット

「遺憾千万……」 ポンツ

> i 3 5 1 9 8 — 4 2 6 0 <

ロボット

「ウォッチサン、御免ナサイ……」

謎のロボット、ここに散る……。

プルルルル

ウォッチ

「何デスカ・・・!?!? 『住民に騒がれロボット確保』
ロボットサン!?!」

ウルフ

「住民・・・何て事しやがるんだ・・・!?!」

フェイト

「あわわわわ・・・!?!これ絶対ヤバイって・・・!?!」

牢獄

レムレス

「中々来ないね」

無幻

「そりゃそうだろ、こんな始まったばかりに来る訳無いだろ」

アミティ

「何も活躍出来なかった人が復活出来るといいね……!!」

牢獄の者達は、まだ待っている……。

ドンキー

「ディディーを復活させよう……!!」

ドンキー、相棒のディディーの復活へと向かう。しかし……。

クロノ

「あっ!!ゴリラ発見だ!!」

くるみ

「早くあのゴリラをとっ捕まえなさい!」

オトモ

「そして焼いてやる!」

ドンキー

「皆酷え〜!!ってそれよりとにかく逃げよう!」

しかし、ハンターに見つかった・・・。

ハンター

「!」

ドンキーコング、逃げ切れるか!?

容疑者（後書き）

ドンキーコング、逃げ切れるか!?

復活者（前書き）

復活者、現る・・・。

復活者

ドンキー

「くそっ!!」

ドンキーは一目散に逃げる。

ハンター

「!!」

更に、見つかった・・・。

ドンキー

「〜!!」

ドンキーは建物の曲がり角を利用しながら逃げる。

ハンター

「・・・」

上手く、撒いたようだ・・・。

ドンキー

「ここも、安全な場所では無いな・・・!!」

シャマル

「！これは宝箱・・・？」

シャマル、宝箱をゲット・・・。

シャマル

「復活の真珠・・・これね」

シャマル、復活の真珠ゲット・・・。

アルル

「あつた！」

アルルも、復活の真珠ゲット・・・。

ウォッチ

「復活デスカ・・・少々ワクワクシテ来マス」

ウォッチ、復活チャンスにわくわくして来ている・・・。

紀葉

「決めた！行こう！」

紀葉も、復活ゲームの為に動く様だ・・・。

パルポン

「あっ……！ハンターいるよ……！！」

パルポン、ハンターを追い払おうとする……。

ハンター

「……」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない……。

パルポン

「……？誰か追われてる……！？」

その誰かとは……。

銀時

「っおあ〜……！……！」

坂田銀時だ……。

銀時

「最悪だぜ！！！！！！」

ポンッ

> i 3 5 2 0 7 — 4 2 6 0 <

銀時

「クソツタレ……！！マジかよ」

ブルルルル

スライムマン

「あっ！メールです……！！！！」

新八

「『住民に騒がれ坂田銀時確保』
銀さん……！！！！」

しら

「確保ペースが……！！！！」

フエイト

「ていうか、もうそろそろ2桁に行くじゃん!？」

牢獄

レムレス

「これ、誰も復活しないってのもあるかな？」

銀時

「それだけは絶対に有り得ないだろ・・・」

シグナム

「あつ、誰か来たぞ・・・!!」

その人物とは・・・。

シャマル

「リーダー……!!」

シャマルだ……。

シグ

「で、誰を復活させるの〜?」

シャマル

「えっと……アミティさん!!」

アミティ

「あたし?」

シャマルはアミティに復活の真珠を近づける。

> i35209 | 4260 <

シグナム

「あたしじゃないんだな……」

シャマル

「すみません、リーダー。誰かが復活させてくれると思いますので」

アミティ

「まあ、何はともあれ助かったよ、ありがとうシャマル」

アミティはシャマルと合流した……。

更に、リンクも来た・・・。

リンク

「あつ、皆さん・・・!!」

リンク、到着・・・。

ソニック

「また来たな、リンク」

レムレス

「で、誰を復活させるんだい？」

リンク

「勿論・・・トウーンです!」

トウーン

「僕？」

トウーン、自分を指差す。

リンクはトウーンに復活の真珠を近づける。

> i 3 5 2 1 0 | 4 2 6 0 <

トウーン

「リン兄、サンキュー」

リンク

「まあ、いねぐらい・・・」

トウーンは、リンクの弟だ・・・。

アルル

「どい〜?」

アルル、牢獄を探す・・・。

しかし、アルルの近くに、ハンター・・・。

> i35208 | 4260 <

アルル

「後方には・・・ってハンター!?!」

アルルは一目散に逃げる。

しかし、彼女がハンターの足に適うわけが無い。最早、逃走不可能・

アルル

「ふんぎゃ〜！」 ポンッ

> i 3 5 2 0 6 | 4 2 6 0 <

アルル

「くそ〜・・・信じられない・・・なんで後方から・・・」

油断大敵だ・・・。

ブルルルル

新八

「あつ、メールだ・・・！」 『路地裏でアルル・ナジヤ確保』

トウーン

「って、復活してもあいつ隠れてるだけで何もしてねえじゃん！」

ウルフ

「復活組がどんどん捕まって行く・・・!!」

果たして、誰かを復活できるのか。

復活者（後書き）

果たして、誰かを復活できるのか。

エンドレスストーリー（前書き）

終わりは・・・。

エンドレスストーリー

牢獄

しら

「あつ、皆さん……!!」

しら、牢獄に到着……。

シューティー

「貴方は誰を復活させるんですか？」

しら

「えっと……カイクウさんです!!」

カイクウ

「うおっしゃああああゝ!!!!!!」

しらは復活の真珠をカイクウに近づける。

> i 3 5 2 5 8 — 4 2 6 0 <

カイクウ

「しらさん、サンキュー!!」

カイクウは元気良く牢獄から脱獄した……。

アミティ

「ちょっと待って……!!あれ、ハンター？」

アミティはすぐに身を隠す……。しかし

住民A

「あつ!!ぷよぷよの主人公だ!!」

クロノ

「今すぐ主人公の座から落としてやる!!」

アミティ

「ひよえ〜!!怖いよ〜!!!!!!」

住民に、見つかった……。

更に……。

ハンター

「!!」

ハンターにも、見つかった・・・。

アミティ

「うわ〜！」

最早、逃走不可能・・・。

アミティ

「なぎゃ〜!!」 ポンッ

> i 3 5 2 5 7 — 4 2 6 0 <

アミティ

「マジで〜!!?」

ぷよぷよの主人公組、全滅・・・。
そしてシャマルに失礼な事をした・・・。

プルルルル

ウルフ

「何だよ……!!」『住民に騒がれアミティ確保』うわっ、
何だよアイツ！シャルルに失礼だぞ!!」

トウーン

「アイツ最低だな！シャルルに謝れよ！
何もしてねえじゃねえかアイツ!!」

フエイト

「ぶよぶよ組の人情けなさすぎでしょ!!」

シャルル

「ええ〜！？折角復活させたのに〜!？」

アミティの確保で、様々な人から批判が届いた……。

パルポン

「ちよつと……!!これ、ヤバイんじゃないの!？」

パルポン、ミッションに不安を持っている……。

パルポン

「どうなってんだよこのゲームは……!？」

牢獄

ドンキー

「よっしゃ！着いた」

ドンキーも、牢獄に到着……。

スネーク

「誰を復活させるんだ？」

ドンキー

「デイディー」

デイディー

「きた〜！！！！！！」

ドンキーは復活の真珠をデイディーに近づける。

> i 3 5 2 5 9 | 4 2 6 0 <

デイデー

「行くぜ、兄貴!!」

デイデーは元気良く牢獄から脱獄した……。

サタン

「宝箱か……アルルを復活しよう!!」

サタンは勢い良く宝箱を開ける。が……。

ハンター

「……」

宝箱の中に、ハンターが入っていた……。

サタン

「えっ？」

ポンッ

> i 3 5 2 6 0 | 4 2 6 0 <

サタン

「くそ……!! 宝箱の中にはハンターも入ってるのかよ……
!!」

油断大敵だ……。

ブルルルル

シエゾ

「?」『宝箱の中に入っていたハンターによってサタン確保』
「うわっ、コイツ確保されてるし」

メタナイト

「しかも、『サタンがその宝箱を開けてしまった為ハンター1体放
出』」

「本当かよ……!!? 何してくれてるんだ、あの人は……!!?」

キャラ

「ちよっど!! ぶよぶよの人たち情けなさすぎでしょ!!?」

フェーリ

「ぶよぶよ組がどんどん確保されていくワ……!!」

エンドレスだ……。

エンドレスストーリー（後書き）

エンドレスストーリー・・・。

ミッショントの終了点が……。(前書き)

ミッショントの終了点……!?

ミッション9終了!しかし……。

トウーン

「リン兄が心配だな〜……」

とある毒舌家の小柄な勇者トウーンリンク、
リンクの事を心配している様だ……。

ルイージ

「ハンター怖いから、行かないよ……!」

ルイージ、ハンター9体にびびって動けない……。

ユウちゃん

「あつ、誰かいるの〜」

ユウちゃんはその誰か達に近寄る。
その誰か達とは……。

クロノ

「あつ!女幽霊だ!」

オトモ

「成仏させてやる〜!!」

シャリオ

「早くとっ捕まえなさい!!」

ユウちゃん、早くも住民に見つかった……。

ユウちゃん

「え?え?何コレ?ギャグ?」

ユウちゃんは笑いながら戸惑う。しかし、ハンターがユウちゃんの方角に来た……。

ハンター

「!」

見つかった……。

ユウちゃん

「アッハ〜」 ポンッ

> i 3 5 2 8 7 — 4 2 6 0 <

ユウちゃん

「みんなおもしろい」

捕まっても、呑気な幽霊……。

プルルルル

フエーリ

「何々・・・？『住民に騒がれユウちゃん確保』・・・」

トゥーン

「うわっ！何もせずに捕まっとるじゃん！」

レイくん

「姉ちゃん捕まったか・・・」

シヤマル

「これはおかしいわね・・・！！！」

その頃、牢獄では……。

紀葉

「ハンターに見つかりながらも来ちゃったw」

紀葉も、到着……。

レムレス

「誰を復活させるんですか？」

紀葉

「勿論、izumiさん！」

izumi

「僕？」

紀葉は復活の真珠をizumiに近づける。

> i 3 5 2 8 5 | 4 2 6 0 <

izumi

「紀葉さん、ありがとうございます……！」

izumiは元気良く牢獄から脱獄した……。

そして、トウーンが例の研究所に着いた・・・。

トウーン

「よし・・・！早く着いたぞ！」

更に、レイくんも到着・・・。

レイくん

「トウーン君・・・」

トウーン

「お前もか！丁度いい！ミッション手伝ってくれ！」

レイくん

「・・・了解」

レイくん、ミッションに協力・・・。

カーバンクル

「ぐっぐっ!!」

カーバンクルも、宝箱をゲット。しかし……。

ガチャ

ハンター

「!!」

中に、ハンターが入っていた……。

カーバンクル

「ぐっ!!!!!!!!」 ポンッ

> i35282 — 4260 <

カーバンクル

「ぐっ……」

ふよ世界のマスコットが、ついに力尽きた……。

プルルルル

ウルフ

「携帯黙ってくれよ……!!何だ？」

『宝箱の中に入っていたハンターによってカーバンクル確保』
「ちよっ、捕まりすぎじゃねえのか!？」

トウーン

「お前も何もせずに捕まってるかよ!？」

シエゾ

「魔道物語組がどんどん減っていく……!!！」

シエゾ

「捕まりたくない……!!！」

現在、魔道物語組の唯一の生き残り、シェゾ・ウィグイイ……。

シェゾ

「早く時が過ぎてくれ……!!」

ムーンライト研究所……。

トゥーン

「これか……!?!」

レイくん

「早い所降ろそう……」

トゥーン

「勿論……!!」

2人はレバーを一緒に降ろす。

ミッションクリア

トウーン

「やったぜ……!!」

レイくん

「良かった……」

その頃、住民達は……。

オトモ

「・・・あれ？ぼく達はここで何を・・・？」

クロノ

「・・・どうやら、催眠術にかかっていた様らしいな・・・」

さかな王子

「勝手ニ動イテシマウ、アレカ・・・！」

響

「そういえば、この紙に書いてある皆さんに酷い事を
言ってしまった様な気がする・・・」

くるみ

「やっぱり・・・こっちもそう感じていたのよ・・・」

ひかり

「ちゃんと皆さんに謝らないと・・・」

こうして住民達の洗脳は解け、住民達は逃走者達に謝罪した・・・。

ブルルルル

フエーリ

「あっ……メールだわ……」

『トウインリンク、レイくんの活躍によってミッションクリア』
2人つて、凄い……」

リンク

「弟、やるな……!!」

子供リンク

「僕も見習わないとな……!!」

トウイン

「……あっ……今すぐ「」から離れよう……」

レイくん

「えっ？何で……」

トウーン

「ハンター来てるから……！」

レイくん

「本当……！？」

更に……。

ハンター

「！」

見つかった……。

トウーン

「ヤベえよ……！！見つかったよ！！！」

レイくん

「逃げ切りたい……！！！」

ハンターの標的は……。

レイくん
「こっち……!?!?」

レイくんだ……。

> i 3 5 2 8 1 — 4 2 6 0 <

レイくん

「……」 ポンッ

> i 3 5 2 8 4 — 4 2 6 0 <

レイくん

「もう……あれ完全にサイボーグだよ……!!
逃げ切れたら凄いつて……」

双子の幽霊、仲良く牢獄行きだ……。

プルルルル

トウーン

「えっ！？『ムーンライト研究所にてレイくん確保』……
レイくん確保かよ……！？」

りすくませんばい

「ぶよぶよ組が……！！」

フェーリ

「ぶよぶよフィーバーチュー組はアタシだけ……！？」

エコロ

「どうなってやがる……！？」

何とか、疑いは晴らせたが……！？

ミッション終了ー！しかし・・・。(後書き)

何とか、疑いは晴らせたが・・・!?

牢獄の者達が洗脳される・・・（前書き）

その頃、牢獄では・・・。

牢獄の者達が洗脳される・・・

その頃、宇宙船にて・・・。

あやしいクルーク

「チツ！作戦はまた失敗か・・・」

そう放つと、あやしいクルークは

自分を自分でとある場所に転送した・・・。

廃校された校舎にて・・・。

あやしいクルーク

「ククク・・・」

あやしいクルークは自分の持っているノートパソコンで

何やら危険な作戦を考えた・・・。

あやしいクルーク

「・・・」

牢獄

レムレス

「・・・何この仮面・・・？どンドン近づいてくる！！！」

シグナム

「足もある仮面・・・！？まさか・・・！！！」

エリオ

「とにかく、逃げましょう！！！」

牢獄の者達は逃げようとするが、ここから出られない為、そのまま牢獄の者達の顔に仮面が取り付いてしまった・・・。

シグナム

「うわああああ！！」 ガシヤン

ゼロ

「止めるおおおお！！」 ガシヤン

カーバンクル

「ぐぐ！！！！！！！！」 ガシヤン

全員、仮面によって取り付かれました・・・。

そして……。

レムレス

「……」

全員、起き上がった……。

エックス

「……ココハイツタイナンナダ？」

レムレス

「……ソレヨリヒトガタクサンイル」

タケシ

「……ソノヒトラヲ確保スルカ……」

無幻

「……アア……ソウシヨウ……」

今度は、牢獄の者達が洗脳された……。

牢獄の者達は、壁をぶち壊してそこから出て行った……。

ブルルルル

シエゾ

「あん？『ミッション10』かよ……。かつたりいぜよ……」

エコロ

「『あやしいクルークの仕業により牢獄の者達が洗脳された』」

リンク

「『その者達はハンターと同じ様に君達を確保しに来る』」

嘘でしょう！？ハンターが大量にいると同じじゃないですか！？」

ウルフ

「『だが止める方法が一つだけある』」

何なんだ……！？」

トウーン

「『牢獄にあるスクリーンに映し出されている阻止ボタンを押せば

いい

「しかも牢獄の者達は団体で動く為振り切れやすい
何だ、簡単じゃねえか……」

MISSION? 牢獄の者達の洗脳を止めよ!

あやしいクルークの仕業により牢獄の者達が洗脳された。

その者達はハンターと同じ様に君達を確保しに来る。

だが止める方法が一つだけある。

牢獄にあるスクリーンに映し出されている阻止ボタンを押せばいい。

しかも牢獄の者達は団体で動く為振り切れやすい。

残り350分までに止めないと

止めないと、ゲーム終了までずっと洗脳されている!

シエゾ

「誰かが行くだろ……俺はパス」

ウルフ

「捕まりたくないからパス」

トウーン

「僕が行こうかな？この足を活かして」

フェーリ

「動いたら確実に捕まる・・・!!」

キャロ

「どうすんのこれ・・・!?!」

紀葉

「やらん(キリッ)」

izumi

「どうしましょうかな？・・・?行きます!」

行く人もいれば、行かない人もいる・・・。

果たして、この恐怖のミッションを成功出来るのか!?

牢獄の者達が洗脳される・・・（後書き）

行く人もいれば、行かない人もいる・・・。
果たして、この恐怖のミッションを成功出来るのか！？

洗脳者続々（前書き）

洗脳者が続々と出現・・・。

洗脳者続々

レムレス

「アア〜・・・」

孫悟空

「ウア〜・・・」

確保者は、ゾンビの様に洗脳されている・・・。

ウィータ

「ア〜・・・」

ファルコ

「ウウ〜・・・」

通報部隊も、洗脳されている・・・。

しほ

「じ・・・じわー!」

しら、すぐに身を隠すが……。

ドカッ！

しら

「おっと!？」

しらは誰かにぶつかる。その誰かとは……。

ナスグレイブ

「いって〜。誰だなあ〜す？」

ナスグレイブだ……。

しら

「ナスグレイブさん!？あつ……何でここに？」

ナスグレイブ

「いつの間にか地球さまよってたらここに来たんだなあ〜す」

しら

「そうなんですか……あつ、ちょっと話したい事があります」

ナスグレイブ

「何だなあ〜す？」

しら

「なぜ、牢獄の人達が洗脳されたんですか……？」

ナスグレイブ

「あれを見るんだなあゝす」

ナスグレイブは洗脳されている者に取り付いている仮面を指差す。

しら

「仮面？」

ナスグレイブ

「そう。あれを止めるには牢獄のスクリーンに映し出されている
阻止ボタンを押さなきゃいけないんだなあゝす」

しら

「そ、それはわかってますが・・・何か秘密があるんですか？」

ナスグレイブ

「オレと協力してスクリーンをタッチしなければ阻止できないんだ
なあゝす」

しら

「そんな秘密が・・・」

ナスグレイブ

「と、とにかく、牢獄に急ごうなあゝす！」

しら

「は、はい！」

しら、ナスグレイブと合流・・・。

ゲベ

「ちょっと待て……!!あれ牢獄の奴等か？」

ゲベはすぐに身を隠す。が、遅かった……。

ファルコ

「ウア……」

ゲベ

「え？え？おわーっ!!」

ゲベは一目散に逃げる。

しかし大勢いる牢獄の者達に適うわけが無い。最早、逃走不可能……。

ゲベ

「ぎよわ〜!!」 ガシヤン

> i 3 3 5 3 1 9 | 4 2 6 0 <

そして……。

ゲベ

「ウア〜・・・」

ゲベも、洗脳された・・・。

プルルルル

シエゾ

「うるせえな・・・！『牢獄の者達によってゲベ確保』
ゲベ・・・情けねえぞ・・・！！」

孫

「うわっ、ゲベ捕まっちゃったよ！！しかも

『ゲベも洗脳された』！？」

フェーリ

「ハンターが1体増えたのと同じね・・・！！」

トウーン

「ていうか何もしてないじゃんあの野郎は！？」

フェイト

「何で・・・！？何で洗脳ばかり起きるの・・・！？」

ドンキー

「行くか・・・」

人任せのドンキーが、今回は行く様だ・・・。

トゥーン

「おっと、牢獄に着いた・・・！！」

トゥーン、早速着いた・・・。

トゥーン

「？壁に穴があいとるし・・・」

トゥーンは突き破られた穴から入る。

トゥーン

「よし、これを押せばいいのか・・・ってあれ？」

何と、トゥーンがスクリーンを押しても押しても反応しない・・・！

トウーン

「はあ！？どうなってやがるんだよ！？」

その時、しらからメールが来た・・・。

トウーン

「こんな時に何だ・・・！？しらさんからメールか・・・」

『今、スクリーンをタッチしてますよね？』

そのままでは反応しないんです！

ナスグレイブさんの力を借りないとタッチ出来ません！』

おいおい・・・。いつからそんな式になったんだよ・・・。」

トウーンは呆れる・・・。

エコロ

「このままじゃ全滅だ・・・！！」

エコロ、思う様に動けない・・・。

シグナム

「・・・アア・・・」

見つかった・・・。

エコロ

「うわっ！？見つかったし」

エコロは一目散に逃げる。

しかし大勢いる牢獄の者達に適うわけが無い。最早、逃走不可能・・・。

エコロ

「ぎよあ〜！」 ガシヤン

> i 3 5 3 1 8 | 4 2 6 0 <

更に・・・。

エコロ

「アア〜・・・」

エコロも、洗脳された・・・。

ブルルルル

トウーン

「何だよ……!?!?」牢獄の者達によってエコロ確保
お前もかよ……」

なのは

「『さらに、エコロも洗脳された』……これ、
相当やばいんじゃない……!?!?」

フェーリ

「残るぷよぷよ組はアタシとシエゾとりすくませんぱいだけね……」

キャラ

「うわゝ、怖いな……」

現在、機動六課の唯一の生き残り、キャラ・ル・ルシエ……。

キャラ

「うわっ、ちょっと待って……!?!?あれ皆さん?」

キャラは牢獄の者達を発見する……。

ヴィータ

「アウア〜・・・」

しかし、まだキャラロに気づいていない・・・。

トウーン

「・・・あん？お前は？」

どんぐりガエル

「ケロ〜ン」

トウーンの近くに、どんぐりガエルがやって来た・・・。

どんぐりガエル

「ケロ？ケ〜ロケロ？」

トウーン

「・・・？何言ってるのか分からん・・・。

でも、可愛いな・・・」

ドンキー

「ん？玉ねぎが落ちてあるぞ？」

ドンキーも、謎の玉ねぎを発見する。

おにおん

「オオオン！！！！！！」

その謎の玉ねぎの正体は、おにおんだ・・・。

おにおんはドンキーに向かって棍棒を振りかざす。

ドンキー

「うわっ！？ちよっ、危ねえって！！」

おにおん

「オオ？」

するとおにおんは攻撃を止めた。

おにおん

「オオン？オオンオオン？」

ドンキー

「何言ってるのかわかんねえ……」

ドンキーも、頭を悩ます……。

ナスグレイブ、どんぐりガエル、おにおん。

この3匹が、どうゲームに関わるのか……!?!?

洗脳者続々（後書き）

ナスグレイブ、どんぐりガエル、おにおん。

この3匹が、どうゲームに関わるのか・・・！？

ミッション、終了！しかし……。 (前書き)

ミッション、早くも終了……。!?

ミッション10終了!しかし・・・。

牢獄

トウーン

「あの偽善者達を元通りにするのは気にいらねえけど・・・」

何故かトウーンは、エックス、ゼロ、アクセルの3人を偽善者扱いしており、その3人が大嫌いなのである・・・。

どんぐりガエル

「ケロ?」

トウーン

「ん?こっちの話」

ドンキー

「しかし危険そうな玉ねぎだな」

おにおん

「オオン?オオオン?」

ドンキー

「・・・駄目だ。シグとかいねえと理解できんわ」

しら

「もうすぐです・・・!!」

ナスグレイブ

「急ごうなあゝす!!」

しら

「えええ! 勿論です!!」

2人は早々に急ぐ・・・。

ドンキー

「とにかく牢獄まで行こつて?」

おにおん

「オオン？」

ドンキー

「スクリーンで問題になってんだ」

ドンキーはおにおんの手を引っ張り、牢獄まで走った……。

トウーン

「お前……何か秘められてる様な予感がするな？」

どんぐりガエル

「ケロン？」

その時、しらとナスグレイブ、ドンキーとおにおんが到着した……。

ナスグレイブ

「やっと着いたなあゝす」

トウーン

「結構早かったですね！」

ドンキー

「さて、こいつら3匹の力で押そう！」

その4人は牢獄に入る。

ナスグレイブ

「ほほう、これが問題か。」

じゃあどنگりガエル！おにおんよ！力を貸すんだなあ！

2人

「コクッ」

その3匹は手に光を集め、スクリーンにその光を発射する。

ナスグレイブ

「この宝石の守護神、ナスグレイブ達が難問を解いたなあ！

そう、あの3匹は^{ジュエリー}宝石の^{ガーディアン}守護神だったのだ・・・。

おにおん

「オオン、オオン！」

ナスグレイブ

「『これでスクリーンをタッチ出来る』って言ってるなあ！

さあ、スクリーンをタッチするんだなあ！

3人

「OK！」

3人は一斉に阻止ボタンを押した……。

ミッションクリア

しら

「やりました!!！」

ドンキー

「結構早かったですね……」

トウーン

「これで奴等の洗脳が解けたはずだな……」

その頃、牢獄の者達は……。

レムレス

「……あれ？」

仮面が取れた……。

シグナム

「あたし達は何をしてたんだ……？」

エコロ

「しかもこの仮面、何だよ？」

ヴィータ

「とにかく、この仮面は取れたしな」

サタン

「うむ、一度牢獄に戻ろう」

こうして、牢獄に戻ったのである……。

プルルル

izumi

「あつ!?メールですね・・・」

『しら、ドンキーコング、トゥーンリンクの活躍によって

ミッションクリア』僕も行きたかったですね。

でも、こんだけの短時間にクリア出来たのは凄いです!!」

りすくませんぱい

「これも、愛かな・・・?」

デイデー

「兄貴、やる〜!!」

リンク

「弟、凄いな・・・!!」

その頃、宇宙船にて・・・。

あやしいクルーク

「お、月村サトシが帰って来たか」

月村サトシ

「心配をかけてすまない。少し用事があったのでな」

月村サトシは自分のイスに座る・・・。

あやしいクルーク

「今回のミッション、成功したぞ」

月村サトシ

「そうか。次のミッションは・・・」

その時、2人が危険なミッションを思いついた・・・。

ミッション10終了！しかし……。(後書き)

その時、2人が危険なミッションを思いついた……。。

ゲーム時間を短縮せよ！（前書き）

ついに、幸運のミッションが送信される・・・！？

ゲーム時間を短縮せよ！

宇宙船では……。

月村サトシ

「よし、良いミッションを思いついた……」

月村サトシはミッションの内容を作り、

『ミッション送信』というボタンを押した……。

あやしいクルーク

「？何だ？」

一方、逃走者の方は……。

プルルルル

キャラ

「きゃッ！？」『ミッション1-1』……早いですね

izumi

「『先ほど、ゲーム時間短縮装置が設置された』」

ディディー

「『ムーンライト研究所に設置されたゲーム時間短縮装置に認証すると』」

トウーン

「『終了時に残り時間が短縮、その間の賞金も加算される』
ゲーム時間短縮だ〜!」

MISSION? ゲーム時間を短縮せよ!

先ほど、ゲーム時間短縮装置が設置された。

ムーンライト研究所に設置されたゲーム時間短縮装置に認証すると、終了時に残り時間が短縮、その間の賞金も加算される。

シエゾ

「パス」

紀葉

「無理、いかん」

トウーン

「少し疲れが出てるからな～・・・パス」

しら

「絶対に行きます!」

izumi

「僕も!」

フェーリ

「行った方がいいかしら・・・?」

キャラ

「私は行きません」

スライムマン

「行きましょう・・・!!」

ドンキー

「すまん、疲れたわ、だから行かん」

デイデー

「兄貴に任せよう・・・!!」

フェイト

「ここは、誰かに任せましょう・・・!!」

メタナイト

「これで最後のミッションらしいかもな・・・」

キャラ

「ここまで来れば、大丈夫でしょう・・・!!」

しかし、キャラの背後に、ハンター・・・。

> i 3 5 3 3 0 — 4 2 6 0 <

キャラ

「前方から、ハンター!?!」

キャラは後方に逃げようとするが・・・。

ハンター

「・・・」

後方にも、ハンターがいた・・・。

キャラ

「ええ〜!?!」

挟み撃ちだ……。

キャロ

「いや〜!」 ポンッ

> i 3 5 3 2 8 | 4 2 6 0 <

キャロ

「もうちょっと長く生き残りがかった……」

機動六課、全滅……。

プルルルル

シエゾ

「あん?何だよ……!!」

『キャロ・ル・ルシエ確保』 ついにキャロまで……!!」

フェイト

「機動六課、全滅だ・・・!!」

ネス

「うわ、結構頑張ってたのに、この人・・・!!」

スライムマン

「ムーンライト研究所からは、多分遠いですね・・・」

スライムマンの、勘・・・。

スライムマン

「多分このミッションで最後でしょうから、
気合入れて行かないと・・・!!」

牢獄

キャラ口

「ああ、捕まっちゃった……」

キャラは悲しみながらも牢獄に入る。

シグナム

「キャラの確保で機動六課全滅か……」

ナナ

「でも、リーダーより頑張ってたじゃん！」

スバル

「えっ……！？それあたしが頑張ってない様な言い方……」

カルピスフロート

「まあ、まあ、気にしないでください」

スバル

「気になるよ……」

一方、逃走者の方は……。

りすくませんぱい

「ちょっとここで休んでおくか・・・」

りすくませんぱいは近くのベンチに寝転がる。

しかし、休んでいられるのも今の内・・・。

何故なら、ハンターが近くにいるからだ・・・。

> i 3 5 3 3 1 — 4 2 6 0 <

ハンター

「!」

見つかった・・・。

りすくませんぱい

「!?!ハンター!?!」

ポンッ

> i 3 5 3 2 9 — 4 2 6 0 <

りすくませんぱい

「嘘だろ・・・!?!」

ぶよぶよ7組、全滅・・・。

プルルルル

紀葉

「なあにこれえ？」りすくませんぱい確保』
ついにりすくませんぱいもか〜」

シエゾ

「ぶよぶよ組、どつなつてんだ・・・!?!」

フェーリ

「残るぶよぶよ組はアタシとシエゾね・・・」

果たして、幸運のミッションを成功させれるのか!?!?

ゲーム時間を短縮せよ！（後書き）

果たして、幸運のミッションを成功させられるのか！？

膨大に強制失格（前書き）

膨大に強制失格・・・。

（この話だけは、ギャグ満載です。）

膨大に強制失格

牢獄

シューティー

「ん？君は？」

その時、ゴゴットが牢獄の前を通った。

ゴゴット

「？そこで閉じ込められててなにしてるネ？」

ファルコ

「言われたねえし・・・で？お前こそ何しに来てんだ？」

ゴゴット

「実はこのカードを持ってきたんだネ」

ゴゴットは逃走者の顔と名前が書かれたカードを差し出す。

ゴゴット

「ここから誰でもいいので引くネ」

ファルコ

「成るほど・・・」

牢獄の者達はそのカードを全部引いた・・・。

一方、逃走者の方は・・・。

ブルルルル

静香

「？通達？」

ジャイアン

「『牢獄でカードが引かれた』カードお？」

ゆかり

「『そのカードを引かれた者は』・・・」

全員

「強制失格!？」

全員、慌てる・・・。

全員

「『強制失格者は』……」

全員

「『クツパ、ドクターマリオ、ポポ、ピカチュウ、ゼニガメ、フシギソウ、リザードン、ルカリオ、プリン、ピチュー、ミュウツー、リュカ、神楽、桂小太郎、猿飛あやめ、近藤勲、土方十四郎、沖田総悟、サトシ、デント、ニヤース、マコモ、源静香、骨川スネ夫、ジャイアン、出来杉英才、はる夫、ソラ、リク、カイリ、ナミネ、アクア、テラ、ヴァニタス、ロクサス、レオン、ウェスカー、うずまきナルト、春野サクラ、うちはサスケ、カカシ先生、デイジー、カメック、エミー、ボーボボ、軍艦、エアーマン、ちゃむらい』何だよ！？全員出番ない奴等じゃん！？しかも強制失格になりすぎだし！！！！！！」

クッパ、ドクターマリオ、ポポ、ピカチュウ、ゼニガメ、
フシギソウ、リザードン、ルカリオ、プリン、ピチュー、
ミュウツー、リュカ、神楽、桂小太郎、猿飛あやめ、
近藤勲、土方十四郎、沖田総悟、サトシ、デント、
ニヤース、マコモ、源静香、骨川スネ夫、ジャイアン、
出来杉英才、はる夫、ソラ、リク、カイリ、ナミネ、
アクア、テラ、ヴァニタス、ロクサス、レオン、ウエスカー、
うずまきナルト、春野サクラ、うちはサスケ、カカシ先生、
デイジー、カメック、エミー、ボーボボ、軍艦、エアーマン、
ちやむらい 強制失格 残り54人

強制失格になった者

「俺らは何しに来たんだ〜・・・」

作者が上手くまとめられない為、強制失格となった・・・。

シエゾ

「何だよこの通達！？強制失格になりすぎだろ！？
これどういう基準だよ！？」

デイディー

「ていうか、54人でめっちゃ減ったじゃん！？」

ドンキー

「作者の仕業かよ！？どどういう考えだよ！？」

ドラえもん

「まずこんだけの奴等が強制失格になる事じたいありえねえし！！」

今回は、ギャグ満載だ・・・。

膨大に強制失格（後書き）

今回は、ギャグ満載だ・・・。

（強制失格になった者達の人数がおかしければ訂正お願いします。）

全滅回避（前書き）

果たして、全滅を回避出来るのか!?

全滅回避

ウオッチ

「54人デスカ・・・」

ウオッチ、強制失格によって54人になった事を悩んでいる・・・。

孫

「誰が行ってくれるでしょ？」

孫、この男は人任せの様だ・・・。

izumi

「これ、ヤバイですよね・・・！？時間短縮しないと、
全滅の可能性が高まります・・・！！」

しら

「全滅の可能性を回避する為に、動きます！！」

スライムマン

「こんにちは、放って置けませんよ・・・！！」

カイクウ

「みんなに人任せ」

紀葉

「同じく」

フェーリ

「迷いそう・・・」

シエゾ

「ここは俺が逃げ切らないと・・・!!」

逃走者達は、必死になっている・・・。

マルス

「ちょっと迷っちゃったね・・・」

マルス、早くも迷う・・・。

マルス

「・・・えっ？」 ポンッ

> i 3 5 3 4 5 | 4 2 6 0 <

マルス

「・・・うそおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお」

プルルル

ロイ

「何だよ？うわっ、確保情報かよ・・・」

ゆかり

「『マルス確保』とうとうマルス君まで・・・!!」

シエゾ

「どんな捕まり方したのか気になるな・・・」

なのは

「うわあ、どんどん減って行く・・・」

スライムマン

「ちよつと遠いですね・・・」

スライムマン、近くの壁にもたれ掛かる・・・。

スライムマン

「誰か来ませんか・・・？」

その時、カービイが到着した・・・。

カービイ

「スライムマンさん？どうしたんですか、壁にもたれ掛かって？」

スライムマン

「少し休憩してるだけです・・・そちらこそ、どうしたんですか？」

スライムマンは、息を切らしている・・・。

カービイ

「いえ、ちよつとミッションに行こうかな〜と思って・・・」

スライムマン

「本当ですか？実は私も行く所なんですよ。一緒に合流しませんか？」

カービイ

「勿論OKです！」

スライムマン

「ありがとうございます！」

スライムマン、カービィと合流……。

フェーリ

「アタシも壁にもたれよ……」

フェーリは壁にもたれ掛かれ、座る。

フェーリ

「早く時間が過ぎてくれないかしら……?」

シエゾと同じ事を言っている。

しかし、彼女の近くに、ハンター……。

> i 3 5 3 4 2 — 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

見つかった……。

フェーリ

「ふうう……ってハンター来てる……!?!」

フェーリは一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能……。

フェーリ

「きゃあ〜!」 ポンツ

> i 3 5 3 4 3 | 4 2 6 0 <

フェーリ

「もう……しんどいわ……」

レムレスに恋する乙女、ついに力尽きた……。

ブルルルル

トウーン

「ん?」壁付近にてフェーリ確保

「うわっ、フェーリまで!？」

シエゾ

「ちよっと待てよ!？残るぷよぷよ組って俺だけ!？」

ロイ

「結構、コイツ頑張った方だよな・・・」

牢獄

マルスとフェーリが、牢獄に入ってきた・・・。

ファルコ

「マルス何やってんだテメエ」

シューティー

「何か笑っちゃったよ?」

マルス

「うるさいよ!でも、僕は結構残った方だと思う」

フェーリ

「アタシだって・・・あつ、レムレス先輩!!」

レムレス

「フェーリ!?!」

フェーリはレムレスに抱き付く。

フェーリ以外

「（本当に懐いてるな・・・）（汗）」

しら

「あつ、また会いましたね・・・!」

ナスグレイブ

「また会ったんだなあゝす!」

しらはまた、ナスグレイブと再会・・・。

ナスグレイブ

「これからあやしいクルークのアジトに行くんだなあゝす」

しら

「えっ?ナスグレイブさん、あいつのアジトの場所、知ってるんで

すか!？」

ナスグレイブ

「アイクから聞いた。それじゃあなあゝす!」

少し話が噛み合っていないが、ナスグレイブはそのまま去って行った。
。。。

しら

「。。。何だったんでしよう?」

果たして、ゲーム時間を短縮し、全滅の可能性を回避出来るのか!
?

全滅回避（後書き）

果たして、ゲーム時間を短縮し、全滅の可能性を回避出来るのか！
？

事件の幕が終わる（前書き）

そして・・・。

事件の幕が終わる

スライムマン

「もうそろそろ行きましょう．．．!!」

カービィ

「そうですね!」

2人はついに動き出す．．．。

しら

「あっ、つきました．．．!」

しら、ムーンライト研究所に到着．．．。

その頃、牢獄では．．．。

アイク

「あつ、お前達……」

アイク、牢獄の前に到着……。

アイク

「悪いが、ペルソナとアルカナカードを貸してくれないか？
あのあやしいクルークを……おっと」

牢獄全員

「いいよ？でも何に使うの？」

アイクは牢獄の者達のペルソナとアルカナカードを預かる。

アイク

「ああ。ちょっとな……とにかく俺、急いでるから」

アイクはすぐに牢獄から立ち去った……。

ピーチ

「こつちも集まりましたわ」

ピーチも、まだ生き残っている者達の
ペルソナとアルカナカードを預かっていたのだ……。

アイク

「でかした、ピーチ！」

ピーチ

「当然よ！」

スライムマン

「着きました……!!！」

カービィ

「じゃあとつとと認証しよう！」

スライムマン

「勿論です!!！」

2人はムーンライト研究所に着いた……。

しら

「これ、4人でないと認証出来ないとは……。あっ、izumiさん!？」

それにスライムさんとカービー!？」

一気に、3人も来た……。

izumi

「少し遅れてしまいましたが……。早く認証しましょう!！」

しら

「勿論です!！」

4人は一斉に認証する。

ミッションクリア

しら

「あゝ、しんどかった〜・・・」

スライムマン

「これで、ミッションは多分終わりですね・・・!!」

その頃、宇宙船にて・・・。

あやしいクルーク

「また成功かよ・・・!!?」

その時、アイク達が宇宙船にテレポートした・・・。

あやしいクルーク

「!?!?お前等・・・!?!?何故」

アイク

「悪いな、今まで監視させて貰ってたよ」

アイクは、監視ビデオであやしいクルークの行動を撮っていたのだ・・・。

ピーチ

「今まで皆を巻き込んだ事を後悔するがいいわ!?!」

マリオ

「許さねえ・・・!?!」

レッド

「お前を、封印してやる!?!」

するとアイクはクルークの本を取り出す。

そう、あの時、クルークの本も預かっていたのだった・・・。

ナスグレイブ

「さうで、この後どうなるか、分かっているんだなあ?」

おにおん

「オオ〜ン!?!?!?!?!」

どんぐりガエル

「ケロ〜ン!!!!!!」

3匹は、叫んでいる……。。

アイク

「さうで、このクルークの本の中に戻って頂くとするか」

アイクはクルークの本をあやしいクルークに向ける……。

あやしいクルーク

「や、止める!!!封印されたら、私が消えてしまっ!!!!!!」

アイク

「……お前には、お前に消えてほしくないと思ってる、
そんな奴等はいるのかな？」

全員、あやしいクルークを睨む……。

あやしいクルーク

「ヒッ……」

アイクはクルークの本を開いた!!

あやしいクルーク

「ギャアアアアアアアアアア!!!!!!」

あやしいクルークは再び、封印された・・・。

バタン!

アイク

「よし、封印完了!」

ナスグレイブ

「これで事件は解決だなあゝす!!」

全員、大喜び・・・。

その頃、月村サトシは・・・。

月村サトシ

「あやしいクルークが封印された……か」

だが、月村サトシはそのまま続行する……。

しかし、ゲームの幕は、まだ閉じていない……。

スライムマン

「いったんここから出ましょう」

カービィ

「そうですね」

4人はこの研究所から外に出た……。だが

ハンター

「！」

外に出た途端、ハンターに見つかった……。

スライムマン

「！？ハンターです！？」

カービィ

「これ、逃げなきゃヤバイですよ！？」

4人は別々に分かれて逃げる。

そのハンターの標的は……？

スライムマン

「最悪だ〜！！」

カービィ

「こっち〜！？」

スライムマン、カービィだ……。

スライムマン

「あんぎゃ〜！」 ポンッ

> i 3 5 3 5 2 — 4 2 6 0 <

スライムマン

「そんな〜」

作者さんの一人、確保……。。

カービィ

「ぎゃあ〜!!」

スライムマンの確保を尻目に逃げるカービィ。
しかし距離がどんどん縮められていく。最早、逃走不可能……。。

カービィ

「ポヨ〜ン!!!!!!」 ポンッ

> i 3 5 3 5 3 — 4 2 6 0 <

カービィ

「マジで〜……。?メタごめん……。」

食いしん坊の生命体、ついに脱落……。

プルルルル

シエゾ

「ん？ 『ムーンライト研究所付近にて』」

izumi

「『スライムマン、カービィ確保』」

スライムマンさん……！！」

メタナイト

「まさかカービィが捕まるとは……！？」

しら

「あの人、逃げ切ってほしかったです……」

ついに、事件の幕が終わった……。

しかし、ゲームは、まだ終わらない……。

事件の幕が終わる（後書き）

ついに、事件の幕が終わった・・・。
しかし、ゲームは、まだ終わらない・・・。

確保のオンパレード（前書き）

残る逃走者は、

ルイージ、ドンキー、デイディー、ヨッシー、リンク、
トウインリンク、子供リンク、ピット、メタナイト、ウルフ、
ロイ、ネス、ウォッチ、シエゾ、新八、
ゆかり、天田、ドラえもん、安雄、ヴェントウス、
なのは、フェイト、シャマル、小野妹子、河合曾良、
孫悟飯、ピッコロ、フリーザ、セル、バーダック、
ワルイージ、ノコノコ、ボム兵、ヘイホー、ボロドー、
ジュゲム、テイルス、シルバー、エスピオ、チャーミー、
首領パッチ、ところ天の助、魚雷ガール、ブルース、孫、
しら、パルポン、紀葉、カイクウ、izumiの50人。

事件の幕が終わって・・・。

確保のオンパレード

> i 3 5 3 6 4 — 4 2 6 0 <

150分に、短縮された……。

ノコノコ

「絶対に逃げ切る……!!」

ノコノコ、気合を入れている……。

シエゾ

「俺、最後の一人になったらめっちゃカッコいいだろうな……」

シエゾは妄想をしている……。

その時。

ブルルルル

シエゾ

「……って何？通達？」

トウーン

「『エリア内に便利なアイテムが設置された』

マジでか……!!」

ルイーダ

「『手に入れる手に入れないか、逃走者達の自由だ』……
凄い！これはラッキーだよ！！！」

シエゾ

「うーん、悩むな」

紀葉

「作者さん以外の人の誰かに持ってきてもらおう」

トウーン

「少し疲れてるからな、パス」

ブルース

「もう持ってるからパス」

カイクウ

「やったるぜ！！」

しら

「宝箱を、手に入れましょう！！」

ノコノコ

「?早速宝箱があります!」

ノコノコはワクワクしながら開ける。その中身は……。

ハンター

「!」

ハンターだ……。

ノコノコ

「ええ〜っ!?!ちよっ、マジですか!?!」 ポンッ

> i35362 — 4260 <

ノコノコ

「今回も、宝箱の中にハンターが入ってたんですか……!?!」

プルルルル

ジュゲム

「ん？確保情報！？」

シエゾ

「『宝箱の中に入っていたハンターによってノコノコ確保』
ちよっ、あいつ何してくれてんだよ！？」

しら

「ハンターがまた1体増えた・・・！！」

ピッコロ

「どっかで休みたいぜ・・・」

ピッコロは草むらで寝転がる。

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「!」

見つかった……。

ピッコロ

「……おわっ!?マジかよ!?!」

ピッコロは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

ピッコロ

「むっわ〜!」 ポンッ

> i 3 5 3 6 3 | 4 2 6 0 <

ピッコロ

「ハンターが増えたから苦しい……」

プルルルル

シエゾ

「なっ・・・またかよ!？」

バーダック

「『ピッコロ確保』おいおい・・・」

ドラえもん

「ちよつと待て・・・!!ハンター大量にいるじゃねえか・・・!!」

安雄

「そうか・・・!？」

2人は咄嗟に身を隠す。

だが、見つかった・・・。

ハンター

「!」

見つかった・・・。

2人

「ぎゃあ〜!」ポーン

> i 3 5 3 6 0 | 4 2 6 0 <

> i 3 5 3 6 1 | 4 2 6 0 <

2人

「マジか〜・・・」

ドラえもん組、全滅・・・。

ヴェントウス

「ヤバイ、どこ行っても安全な地がない・・・!!」

ヴェン、思う様に動けない・・・。

更に・・・。

ハンター

「!」

見つかった・・・。

ヴェントウス

「おい！ちよつと待て！？見つかったのかよ！？」

ヴェンは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターの足に合う訳が無い。最早、逃走不可能……。

ヴェントウス

「ああ……」 ポンッ

> i 3 5 3 5 9 — 4 2 6 0 <

ヴェントウス

「クソ……！！」

キングダムハーツ組、全滅……。

ブルルルル

しら

「また確保情報……！！？」

ドラえもん、安雄、ヴェントウス確保』

確保のオンパレードですか！？」

紀葉

「ヤベえWWWこれ全滅フラグ多分立ってるWWW」

10体以上のハンターによって苦しめられていく逃走者達……。
果たして、アイテムを手に入れられるのか!?

確保のオンパレード（後書き）

10体以上のハンターによって苦しめられていく逃走者達・・・。
果たして、アイテムを手に入れられるのか！？

有利なアイテムと不利なアイテム（前書き）

逃走者達は、無事アイテムをゲット出来るのか!?

有利なアイテムと不利なアイテム

izumi

「あつ、あれつて、宝箱・・・？」

izumi、宝箱を発見・・・。

izumi

「中身はどんなかな？」

izumiは期待しながら開ける。

中には、冷凍銃が入っていた。

izumi

「冷凍銃！これで逃げやすくなりました」

izumi、冷凍銃ゲット・・・。

孫悟飯

「ちよつと不安だな・・・」

孫悟飯、早くも不安になる……。

だが、その近くに、ハンター……。

ハンター

「！」

見つかった……。

孫悟飯

「！？ハンター来てるってヤバイヤバイ!!！」

孫悟飯は一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

孫悟飯

「うおわ〜!!」 ポンッ

> i 3 5 3 7 8 | 4 2 6 0 <

孫悟飯

「くそ〜、ここまで持ったのに……!!！」

フリーザ

「背後にも気をつけ……ってハンター!？」

フリーザも一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

フリーザ

「ぎゃあ〜!」 ポンツ

> i 3 5 3 7 7 — 4 2 6 0 <

フリーザ

「この私が……!!」

プルルルル

バーダック

「確保情報……!? 最近確保情報多いな……」

『孫悟飯、フリーザ確保』フリーザ……!!」

しら

「どんどん人数が減って行く……!!」

紀葉

「うん、ヤバイWWW」

カイクウ

「ちよつと待てよ……?あれ宝箱か?」

カイクウ、宝箱ゲット……。

カイクウ

「中身は……。復活の珠だ!!」

復活の珠とは、確保者の一人を復活させる事が出来る。

カイクウ

「これはいいもんを手に入れたぜ……!!」

バーダック

「セル？」

セル

「奇遇だな」

バーダック、セルと合流……。

バーダック

「宝箱はどうすんだ？」

セル

「俺も手に入れる所だが」

バーダック

「そうかそうか、じゃあこの辺に宝箱あるから開けようぜ！」

セル

「勿論」

2人は期待して宝箱を開ける……。

ハンター

「！」

ハンターだ……。

2人

「……」 ポンツ

> i 3 5 3 7 6 — 4 2 6 0 <

> i 3 5 3 7 5 — 4 2 6 0 <

ドラゴンボール組、全滅……。

プルルルル

シエゾ

「何だ……！？『バーダック、セル確保』

ドラゴンボール組全滅かよ！？」

カイクウ

「確保ペースがヤバイな……！！」

これは一刻も早く誰かを復活させないと……！！！」

そう、宝箱の中にはハンターの確立が50%である……。

牢獄

レムレス

「確保ペースがヤバイね」

ファルコ

「たいぎーぜ……」

フェーリ

「もしかしたらこのまま全滅……?」

ナナ

「それだけは認めないわ!!」

ピッコロ

「けどどう、もう41人だぞ?しかも145分で。」

しかもハンターの数も多いから逃走成功の確率は低いかもな……

「

珍しく、良い事を言った、ピッコロ……。

一方、逃走者の方は……。

ワルイージ

「何かな、ちょっと不安を感じるんだよね」

ワルイージも、不安を感じる……。

しかし、彼の近くに、ハンター……。

ワルイージ

「ここで休むか……ってハンター!？」

ハンター

「!」

見つかった……。

最早、逃走不可能……。

ワルイージ

「ニヤア〜!」 ポンッ

> i 3 5 3 7 9 | 4 2 6 0 <

ワルイージ

「この俺様が〜・・・!!」

プルルルル

ルイージ

「!?!?また確保情報・・・!!?」

『ワルイージ確保』「ただ減るんだよ・・・!!?」

シエゾ

「不味いつて!!これ絶対に不味いつて!!」

エスピオ

「減りすぎだろ・・・!!?」

残る逃走者は、

ルイーダ、ドンキー、デイディー、ヨッシー、リンク、

トウリンリンク、子供リンク、ピット、メタナイト、ウルフ、

ロイ、ネス、ウォッチ、シエゾ、新八、

ゆかり、天田、なのは、フェイト、シャマル、

小野妹子、河合曾良、ボム兵、ハイホー、ボロドー、

ジユゲム、テイルス、シルバー、エスピオ、チャーミー、

首領パッチ、ところ天の助、魚雷ガール、ブルース、孫、

しら、パルポン、紀葉、カイクウ、izumiの40人。

果たして、この恐怖のゲームで逃げ切る者は、誰だ・・・!?

有利なアイテムと不利なアイテム（後書き）

残る逃走者は、

ルイーダ、ドンキー、デイディー、ヨッシー、リンク、
トウリンリンク、子供リンク、ピット、メタナイト、ウルフ、
ロイ、ネス、ウォッチ、シエゾ、新八、
ゆかり、天田、なのは、フェイト、シャマル、
小野妹子、河合曾良、ボム兵、ヘイホー、ボロドー、
ジユゲム、テイルス、シルバー、エスピオ、チャーミー、
首領パッチ、ところ天の助、魚雷ガール、ブルース、孫、
しら、パルポン、紀葉、カイクウ、izumiの40人。

果たして、この恐怖のゲームで逃げ切る者は、誰だ・・・！？

怨念の原子爆弾（前書き）

あやしいクルークの怨念・・・。

怨念の原子爆弾

クルークの本の中にて・・・。

あやしいクルーク

「この私が封印されるとは・・・許せん・・・!!
アイク共を復讐してやる・・・!!」

するとあやしいクルークは闇の力で
本の外の空に原子爆弾を作った・・・。

あやしいクルーク

「怨念の原子爆弾・・・!!」

一方、逃走者の方は・・・。

プルルルル

パルポン

「何だよ・・・『ミッション12』!?まだあったのかよ!？」

シエゾ

「何だ何だ・・・!？」

『上空の原子爆弾内にハンター50体がいる。
残り100分までに新エリアに侵入すれば』はあ!？」

しら

「『50体のハンターを防げ、
分断後の門開放は不可となる』出た〜・・・」

ドンキー

「『更に、宝箱はもう無くなった』
表示時間短すぎだろう!？」

MISSION? 新エリアに侵入せよ!

上空の原子爆弾内にハンター50体がいる。
残り100分までに新エリアに侵入すれば、
50体のハンターを防げ、
分断後の門開放は不可となる。

> i 3 5 4 0 7 — 4 2 6 0 <

パルポン

「これは早く行かないと・・・!!」

シエゾ

「不利じゃんかよ・・・!?!」

紀葉

「まだミッションは終わりじゃなかったのねw」

デイディー

「もう宝箱は表示されなくなったのか・・・ちょっと悔しい」

ゆかり

「50体のハンター・・・?」

エリアに悩む、ゆかり・・・。

だが、彼女の近くに、ハンター・・・。

> i 3 5 4 0 8 | 4 2 6 0 <

ゆかり

「……えっ!? ちょっと待って!?! あれハンター!?!」

ハンター

「!」

見つかった……。

ゆかり

「えっ!? キヤー!」

ゆかりは一目散に逃げる。だが……。

ハンター

「!」

挟み撃ちにされた……。

ゆかり

「そんな〜!」

最早、逃走不可能……。

ゆかり

「ギャ〜!」 ポンッ

> i 3 5 4 0 9 | 4 2 6 0 <

ゆかり

「ここまでか……」

ついに、力尽きた……。

ブルルルル

シエゾ

「何だよ……!!? 確保情報!？」

ブルース

「『草原付近にて岳羽ゆかり確保』
ついにコイツまでもか……」

リンク

「これは、ヤバインじゃないんですか……!？」

ピット

「嫌だ……!! 確保されたくないよ……!!」

パルポン

「あつた！」

パルポン、新エリアに入る……。

パルポン ミッションクリア

パルポン

「皆クリアしてくれよ……」

シエゾ

「中門まであともうちよつとだな……ゆっくり行こう」

明らかに油断している、シエゾ・ウィグイィ……。

ウォッチ

「ロボットサンノ仇ヲ取ル為ニ、新エリアニ急ギマス！」

ウォッチ、ロボットとの信頼関係が強い……。

ルイージ

「誰かに来て貰おう・・・」

こちらは緑の人気者、ルイージだ・・・。
果たして、彼が新エリアに急げるのか。

カイクウ

「復活の珠もあるし・・・どうしようかな。
よし、牢獄に急ごう!!」

彼は新エリアに急ぐよりも、牢獄に急ぐらしい・・・。

エスピオ

「あつ、チャーミー・・・!!」

チャーミー

「？」

エスピオ、チャーミーと会う・・・。

エスピオ

「ここでうろづろして何してるんだ・・・!!？」

チャーミー

「別に？新エリア探してるけど・・・？」

エスピオ

「何だ・・・何も勝手にウロチョロしてるんかと思った・・・」

しかし、雑談してる彼等の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「!」

見つかった……。

エスピオ

「!?ハンター来た……!!逃げるぞ!!」

チャーミー

「マジで?」

2人は一目散に逃げる。しかし……。

ハンター

「!」

前からも、ハンターが迫り来る……。

エスピオ

「挟み撃ちだ……!!」

最早、逃走不可能……。

エスピオ

「……!!」 ポンッ

> i 3 5 4 1 0 | 4 2 6 0 <

エスピオ

「クソッ……だが、ここまで残ったのは上出来だったな……」

チャーミー

「いやだ〜!!」

エスピオの確保を尻目に逃げるチャーミー。

しかし彼がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能……。

チャーミー

「おわあ〜!」 ポンッ

> i 3 5 4 1 1 — 4 2 6 0 <

チャーミー

「嘘だろ〜……?」

カオティクスメンバー、全滅……。

プルルルル

ネス

「今度は何！？また確保情報！？」

シエゾ

「『中門近くにてエスピオ、チャーミー確保』

うわっ、カオティクスメンバー全滅じゃねえか！？」

トウーン

「情けない……」

シエゾ

「ついたぞ……！！」

シエゾも、到着……。

シエゾ・ウィグイイ ミッションクリア

シエゾ

「他の奴等はまだかゝ・・・？」

トウーン

「待った！僕も入れさせるろ！！」

トウーン、転がりながら新エリアに到着・・・。

トウーンリンク ミッションクリア

トウーン

「リン兄は？」

しら

「私も入れさせて下さい・・・！！」

しらも、到着……。

しら ミッションクリア

しら

「いろいろクリアして来ますね……」

果たして、全員、新エリアに移動出来るのか!?

怨念の原子爆弾（後書き）

果たして、全員、新エリアに移動出来るのか！？

時間とクリアとハンターと（前書き）

迫り来るハンターの脅威・・・。

時間とクリアとハンターと

izumi

「ゼー、ゼー、ゼー……中門まであとまじゅつとです……！」

izumi、冷凍銃を担いだまま、走っている……。

トウーン

「あつ！izumiさん！急いでくださいー！」

izumi

「勿論です！」

izumi、やっと到着……。

izumi

「やった〜！」

izumi ミッションクリア

izumi

「で、ここで待てばいいんですね？」

実は通った者はずっとここに待機している……。

牢獄

カイクウ

「あつ、皆！」

カイクウ、牢獄の前に到着……。

カイクウ

「復活の珠持ってきた」

ファルコ

「やるじゃないですか。で、誰を復活させるんですか？」

カイクウ

「えっと……ミッションいっぱい頑張ってたスライムマンさん！」

スライムマン

「やった〜！」

カイクウは復活の珠をスライムマンに近づける。

> i 3 5 4 2 3 | 4 2 6 0 <

スライムマン

「また活躍してみますよ！ありがとうございます、カイクウさん！」

スライムマンは元気良く牢獄から脱獄した・・・。

カイクウ

「さうで、一件落着いてとこかな・・・」

魚雷ガール

「シルバー？」

シルバー

「魚雷ガールさん？中門までもつすぐですよ？」

魚雷ガール

「勿論だわ」

魚雷ガール、シルバーと合流・・・。

しかし、中門の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「!」

見つかった……。

魚雷ガール

「!? まずいわ、逃げるわよ!!」

シルバー

「こんな時に!!」

2人は一目散に逃げる。

しかし彼等がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能……。

魚雷ガール

「どうやら!!」 ポンッ

> i 3 5 4 2 4 — 4 2 6 0 <

シルバー

「ここまでか……」 ポンッ

> i 3 5 4 2 1 — 4 2 6 0 <

2人とも、ついに力尽きた……。

プルルルル

スライムマン

「何・・・！？確保情報！？」

ティルス

「『中門周辺にて魚雷ガール、シルバー確保』
2人とも！？」

孫

「こりゃヤバイぞ・・・！！」

フェイト

「これ・・・どうなってるの・・・！！？」

カイクウ

「あっ、中門だ……!!」

スライムマン

「じゃあ早く急ぎましょう!」

しかし、彼らの近くに、ハンター……。

カイクウ

「よっしゃよっしゃ」

しかし、2人は、まだ気付いていない……。

スライムマン

「!?ハンター来てますよ!?!」

カイクウ

「マジで!?俺が囿になりますからその間に
スライムマンさんは先に行って下さい!」

スライムマン

「へっ……?はい!!」

スライムマン、新エリアへと急ぐ……。

カイクウ

「……」 ポンッ

> i 3 5 4 2 2 | 4 2 6 0 <

カイクウ

「くっそ〜・・・!!でも、

スライムマンさんを復活出来たからいいか・・・」

スライムマン

「ああ〜・・・どうしましょう・・・」

スライムマン ミッションクリア

スライムマン

「カイクウさん・・・」

ブルルルル

紀葉

「ん？確保情報？またかよWWW

『中門周辺にてカイクウ確保』

うわっ、カイクウさん確保！？」

デイディー

「マジで！？作者さん組捕まり過ぎじゃない！？」

小野妹子

「こりゃ、全滅ですね・・・」

リンク

「？ハンターが1体出現・・・？」

リンク、遠い所からハンターが1体出現するのを見る・・・。

ブルルルル

リンク

「うるさい・・・！！通達！？

『これより1分経つごとにハンター1体追加』！？

ヤバイ！！！」

孫

「これ、完全にやばいって……!!」

子供リンク

「うわっ、もう一分経ってる!!」

ハンター1体、また追加……。

小野妹子

「ぜんぜん逃げ場がありません……!!」

その時、河合曾良達がハンターを連れて来たのが見えた……。

子供リンク

「ぎゃ〜!」

小野妹子

「危険です……!!」

テイルス

「巻き添えだよ〜!!!!」

ブルース

「・・・」

へいホー

「無理」

河合曾良

「って、後方からもハンター来てますよ・・・!？」

子供リンク

「俺等終わっちゃったよ・・・」

最早、逃走不可能・・・。

6人

「・・・」 ポンッ

> i 3 5 4 2 5 — 4 2 6 0 <

残る逃走者は、

ルイージ、ドンキー、ディディー、ヨッシー、リンク、
トウーンリンク、ピット、メタナイト、ウルフ、ロイ、
ネス、ウォッチ、シエゾ、新八、天田、
なのは、フェイト、シャマル、ボム兵、ボロドー、
ジュゲム、首領パッチ、ところ天の助、孫、しら、

パルポン、紀葉、izumi、スライムマンの29人。

果たして、この恐怖のゲームで逃げ切る者は、誰だ・・・!?

時間とクリアとハンターと（後書き）

残る逃走者は、

ルイーザ、ドンキー、デイディー、ヨッシー、リンク、
トウリンリンク、ピット、メタナイト、ウルフ、ロイ、
ネス、ウォッチ、シエゾ、新八、天田、
なのは、フェイト、シャマル、ボム兵、ボロドー、
ジユゲム、首領パッチ、ところ天の助、孫、しら、
パルポン、紀葉、izumi、スライムマンの29人。

果たして、この恐怖のゲームで逃げ切る者は、誰だ・・・！？

恐怖のハンター（前書き）

一分ごとに、増えて行く、ハンター……。。

恐怖のハンター

紀葉

「よししゃ〜！やっと着いたぞ〜！」

紀葉 ミッションクリア

紀葉

「ドンキーは大丈夫かな〜？」

ドンキー

「ここにいますよ〜！」

紀葉

「やった！」

ドンキー コング ミッションクリア

紀葉

「やったやったWWW」

ドンキー

「良かった」

ルイージ

「ちょっと待ってよ……!!誰も来ないじゃないか……!!」

ルイージ、そのまま待つ……。

その時、ハンターがまた1体出現した……。

そのハンターに……。

ハンター

「!」

見つかった……。

ルイージ

「ってうわっ!?ハンターいるじゃん!?!」

ルイージは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能……。

ルイージ

「ギャー!!!!!!」 ポンッ

> i 3 5 4 8 2 — 4 2 6 0 <

ノルイージ

「ここまでか……」

緑の人気者、ここに散る……。

プルルルル

ピット

「うわっ!ビックリした……『草原周辺にてルイージ確保』
ついにルイージもか……」

ウルフ

「マジでかよ……!?!」

フェイト

「うわあ、人数がどんどん減って行く……!?!」

更に、1分経った為、またハンターが1体追加……。

ウルフ

「って、こっちにもかよ……!?!?逃げ場ねえじゃん!?!」

しかも、ハンターに見つかった……。

ハンター

「!」

挟み撃ちだ……。

ウルフ

「うおお〜!」 ポンッ

> i 3 5 4 8 3 | 4 2 6 0 <

ウルフ

「この俺が……」

スターウルフのリーダー、ついに力尽きた……。

ブルルルル

ピット

「!? また確保情報……!!」

『草原周辺にてウルフ・オドネル確保』

の、残り27人!? どんどん減って行く……!!」

デイディー

「うわあ、これ、完全にヤバイって……!!」

なのは

「やっと到着した・・・!!」

魔道士のエース・オブ・エース、ついに到着・・・。

高町なのは ミッションクリア

なのは

「フェイトちゃんはまだなのかな?」

ジユゲム

「こりゃあ、完全にヤバイね・・・動かない方がいいよ」

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

ジユゲム

「!?!?ハンター来てる!?!?嘘だろ!?!?」

最早、逃走不可能……。

ジユゲム

「あうう!」 ポンッ

> i 3 5 4 8 4 — 4 2 6 0 <

ジユゲム

「クソ……。でも、俺にしては上出来みたいだな」

ブルルルル

ポロドー

「あ?何だ……!?!?」

「ジユゲム確保!?!?」

ハンターめ、フザケンじゃねえよ!?!?」

シャマル

「残り26人……!?!?どんどん減って行く……!?!?」

これは全滅するかもしれない……!!」

リンク

「着きました……!!」

リンクも、到着……。

リンク ミッションクリア

リンク

「トウーンも、大丈夫だよな……!!」

その時、フェイトも到着した……。

フェイト

「リンクさん？メタナイトさんは到着してますか？」

リンク

「いえ、到着してませんよ。

もう少し待ったら来るんじゃないんですか？」

フェイト

「そうですね・・・」

フェイトは、少しガツカリする・・・。

フェイト・T・ハラオウン ミッションクリア

フェイト

「あつ、なのはは着いてたんだ・・・!!」

ピピ

「僕も忘れないでくださいー!!」

ピットも、到着……。

ピット ミッションクリア

ピット

「パルテナ様、勝ちましたよ!!」

その時、パルポンがこんな発言をした……。

パルポン

「着いてない奴等は誰だ？」

ドンキー

「多分、デイディー、ヨッシー、メタナイト、ロイ、
ネス、ウオッチ、新八、天田、シャマル、ボム兵、
ボロドー、首領パッチ、天の助、孫の14人だな……」

フェイト

「着いてない人達凄く多いじゃん!?
で、着いてる人達は……?」

ピット

「パルポンさん、シエゾ、トゥーン、しらさん、izumiさん、スライムマンさん、

紀葉さん、ドンキー、なのは、リンク、フェイト、僕の12人で
すね……」

スライムマン

「ほぼ半分じゃないですか……」

その時、

ヨッシー、メタナイト、ウォッチ、シャマル、天の助が入って来た。
……。

ヨッシー

「遅れてすみません……」

メタナイト

「5人一緒にクリア出来るとは……!!」

ピット

「あつ、これで17人です……!!」

現在クリアしていない者は、

デイデュー、ロイ、ネス、新八、天田、
ボム兵、ボロドー、首領パッチ、孫の9人・・・。

果たして、この残り9人が新エリアに移動出来るのか!?

恐怖のハンター（後書き）

現在クリアしていない者は、

デイデー、ロイ、ネス、新八、天田、

ボム兵、ボロドー、首領パツチ、孫の9人・・・。

果たして、この残り9人が新エリアに移動出来るのか!?

ミッション・1-2 終了ー！ (前書き)

。。。。。

ミッション12終了!

ディディー

「間に合った……」

ディディーコング ミッションクリア

ディディー

「あつ、兄貴もクリアしてたんだ!!」

首領パッチ

「これは、ヤバイよな……」

その内に、ハンターが1体追加……。

これでハンターは、15体以上となった……!!

そして……。

ハンター

「！」

見つかった……。

首領パッチ

「……ってこんな時に見つかるって嘘だろ!？」

首領パッチは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターの足に合う訳が無い。最早、逃走不可能……。

首領パッチ

「ぐばあ!!!!!!!!」 ポンッ

> i 3 5 4 9 5 — 4 2 6 0 <

首領パッチ

「……」

プルルル

孫

「……！？『首領パツチ確保』……！？」

ロイ

「早く移動しねえと……！！ヤバイ！！！！！！」

ロイ

「確かこの辺のはず……」

だが、彼の近くにハンター……。

ハンター

「！」

見つかった……。

ロイ

「……へっ！？ぎゃあ〜！」

ポンッ

> i 3 5 4 9 3 | 4 2 6 0 <

ロイ

「悔しいよ〜、フザケんなよ〜！」

ファイアーエムブレム組、全滅・・・。

ブルルルル

ボム兵

「またボムか!?!」

ボロドー

「『ロイ確保』・・・!?!?クソツ、

あやしいクルークは何をしてえんだ・・・!?!」

新八

「着きました・・・!?!」

新八も、到着・・・。

志村新八 ミッションクリア

新八

「あつ、皆さん……!!」

ネス

「待った！僕も入れさせてくれ〜!!」

ネスも、転がりながら到着……。

ネス ミッションクリア

ネス

「ふう……やっと着いたよ……!!」

ボロドー

「俺も入れさせろ!!」

ボロドー ミッションクリア

ボロドー

「危機一髪だぜ……!!」

現在クリアしていない者は、天田乾、孫、ボム兵の3人……!!

天田

「これはヤバイんじゃないんでしょうか……!?」

孫

「取り残されてるのはこの3人……!?」

ボム兵

「油断せずに行こうボム！」

> i 3 5 4 9 2 | 4 2 6 0 <

天田

「あつ、もう102分・・・!!」

ボム兵

「ヤバイ!!これヤバイってボム!!」

孫

「どっしょよう・・・!!」

天田

「あれっ!?意外だ」

天田、新エリアに入る・・・。

天田乾 ミッションクリア

ボム兵

「偶然ボム!!」

ボム兵も、入る……。

ボム兵 ミッションクリア

ボム兵

「危機一髪ボム……!!」

パルポン

「良かったぜ、ボム兵。」

ていうか、着いてないの孫だけか!？」

ピット

「えっ!?!あの孫が!?!」

しら

「もう残り100分近くですよ!?!」

そして……。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

でんじやらすじーさん組の唯一の生き残り、孫……。
「どっどっどっど……!!迷っちゃった!!」孫

0 。

ボガンー!!

原子爆弾、爆発 . . . 。

中に、50体のハンターが出現した . . . !!

孫

「 . . . ! ? 100分過ぎちゃった . . . ! !」

取り残された、孫は一目散に逃げる。

孫

「うわっ、囲まれた! !」

孫、50体のハンターに円形で囲まれる……。

孫

「ギャアアアア!!!」 ポンッ

> i 3 5 4 9 4 — 4 2 6 0 <

孫

「ここまでか……!!!」

でんじゃらすじーさん組、全滅……。

紀葉

「孫確保だつて!!!」

全員

「ええ〜!?!」

パルポン

「こつなつたら門を閉めるしかないぞ!!!」

ドンキー

「このままじゃ……!!!」

全員は門を一齐に閉じる……。

ミッション終了

デイディー

「ハンター100体がこっちに来なくなったね……！！でも孫が……」

トウーン

「残念だ……あれ？数えてみたら22人だぞ？」

ドンキー

「作者の数え間違えだな……」

クリアした者は、

パルポン、シエゾ、トウーン、しら、izumi、

スライムマン、紀葉、ドンキー、なのは、リンク、
フェイト、ヨッシー、メタナイト、ウオッチ、シャマル、
天の助、デイデュー、新八、ネス、ボロドー、
天田、ボム兵の22人だ・・・。

ミッション12終了！（後書き）

クリアした者は、

パルポン、シエゾ、トウーン、しら、izumi、
スライムマン、紀葉、ドンキー、なのは、リンク、
フェイト、ヨッシー、メタナイト、ウオッチ、シャマル、
天の助、デイデュー、新八、ネス、ボロドー、
天田、ボム兵の22人だ・・・。

（もし23人であつてれば訂正お願いします。）

新エリアでの逃走劇（前書き）

新エリアでの逃走劇の幕が上がる・・・！！

新エリアでの逃走劇

トウーン

「いよいよ始まるね・・・」

紀葉

「絶対に逃げ切りたいw」

デイディー

「どんな逃走劇かな!？」

ゲームスタートまで・・・。

> i 3 4 8 6 2
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 3
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 4
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 5
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 6
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 7
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 8
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 6 9
— 4 2 6 0
<

> i 3 4 8 7 0
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 7 1
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 7 2
— 4 2 6 0 <

プシュー!!!!!!

4体のハンター、放出・・・。

彼ら22人は、100分間の逃走劇の幕を上げる・・・!!

エリアを下見する、逃走者達・・・。

トゥーン

「何か、バラの感じがするな」

そう、新エリアの舞台は、『ジャック・クラウド』……。

『ジャックと豆の木』を再現した、雲の上で逃走劇の幕を上げる……。

紀葉

「今私が歩いてる雲は結構地面の様に硬いんだよね」

そう、雲は地面の様に硬く、ずぼっと足などが抜けない為、安心して逃走できる……。

ドンキー

「結構広いんだな」

ドンキー、隠れ場所を探す……。

ポロドー

「？何だ……？」

ポロドー、その人物に近づく……。

ハンター

「！」

ハンターだ……。

ボロドー

「こんな時に見つかるとかって……！！嘘だろ！？」

最早、逃走不可能……。

ボロドー

「ぎゃえ〜！」 ポンツ

> i 3 5 5 1 2 | 4 2 6 0 <

ボロドー

「ここで終わりとは……何かの間違いなんじゃねえのか……！！」

クツパ軍団、全滅の危機……。

ブルルルル

ボム兵

「！？早々確保情報ボムか！？」

デイデー

「『スタート地点付近にてポロドー確保』
うわっ、何か意外だよ……!!」

izumi

「てか、あと1人で通報部隊が出動してしまいます……!!」

シヤマル

「女性はあたら4人だけか……」

そう、女性は残る4人となっている……。

なのは

「絶対に逃げ切りたい……!!」

フェイト

「雲の上って、何か神秘的だね……!!」

紀葉

「隠れる隠れるWWW」

天田

「4体のハンターは結構逃げやすいと思います・・・!!」

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

> i 3 5 5 1 4 — 4 2 6 0 <

ハンター

「!」

見つかった・・・。

天田

「・・・!?ハンター来てる!?!」

天田は一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

天田

「ぎゃあ〜!!」 ポンッ

> i 3 5 5 1 3 — 4 2 6 0 <

天田

「通報部隊出動かよ・・・!？」

そして・・・。残るは20人となった・・・。

残るは、

パルポン、シエゾ、トゥーン、しら、izumi、
スライムマン、紀葉、ドンキー、なのは、リンク、
フェイト、ヨッシー、メタナイト、ウオッチ、シャマル、
天の助、デイデュー、新八、ネス、ボム兵の20人・・・。

プルルルル

izumi

「まさか・・・確保情報!？」

ボム兵

「『天田乾確保』残り20人……。
つて、通報部隊出動じゃないかボム!?」

ドンキー

「残り20人……。!?嫌な予感がする……。!!」

トウーン

「うわあ、ここから本当の地獄が始まるよ……。!!」

牢獄

プルルルル

カイクウ

「ん?残り20人になったつてよ」

ティアナ

「本当!?やっと、通報部隊の出番ね……。!!」

ヴィータ

「おっしや……。!!」

ブルルルル

ファルコ

「……ん？『残り20人になった為、通報部隊、出勤せよ』
やっとだぜ……!!」

通報部隊は牢獄から脱獄し、雲の上にテレポートした……。

一方、逃走者の方は……。

ブルルルル

シヤマル

「……やっぱり……
『通報部隊が出動した』
嘘よ……!!」

ドンキー

「通報されたくないぞ……!!」

残り20人の逃走者に、地獄が訪れる・・・！！

新エリアでの逃走劇（後書き）

残り20人の逃走者に、地獄が訪れる・・・！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3964w/>

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『トリニティ・ペルソナシテ』

2011年11月22日01時15分発行